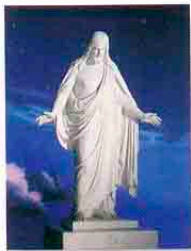


末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年4月号

リアホナ



リアホナ



表紙

「クリスタス」ベルテル・トルバルセン作
(写真：クレーグ・ダイヤモンド)
挿入写真/エーシー・ハーバー、
The Mission より



フレンド表紙

「神の守り」
シェリー・リン・ホイヤー・ドットティー画

一般

- 2 キリストの特別な証人——大管長会と十二使徒定員会によるビデオプレゼンテーションより
- 25 家庭訪問メッセージ——イエス・キリストを信じる信仰を増す
- 42 アルビン・ロトリック——人の価値 マービン・K・ガードナー
- 48 『リアホナ』2001年4月号の活用法

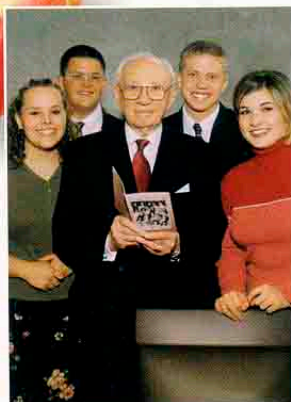
青少年

- 26 末日聖徒の声——主の愛にすぎる
「受け入れる余地がないほどの祝福を」 グロリア・オラベ
ダビドゥに先導されて セルジオ・アロヨ
- 30 若人への預言者の勧告と祈り 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

フレンド

- 2 みんなが伝える物語——イースター
- 4 分かち合いの時間——よげんしゃの聲に耳をかたむける
ダイアン・S・ニコルズ
- 6 友だちになるう——マダガスカル、アンタナナリーボに住む
ノルベルト・ハリジャオナ アニタ・F・ボット
- 9 歌——聖なる森 ジョーン・D・キャンベル、ハル・K・キャンベル
- 10 新約聖書ものがたり——イエス、しとをえらばれる
- 14 お話 T・S・ヘッティンガー作

30ページ参照



2ページ参照



「フレンド」
2ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエシュバンダー

顧問：L・ライオネル・ケンドリック、菊地良彦、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：ロジャー・デリー

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

編集補助：スーザン・パレット

出版補佐：コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・パン・カンベン

デザイナー主任：シェリー・クック

デザイナー：トーマス・S・チャイルド

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ケリー・プラット、ティナ・L・ソレンソン、クラウディア・E・ワーナー

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリックス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ先：〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines April, 2001.
Japanese, 21984 300

For Readers in the United States and Canada:
April 2001 no.4. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



清い心で奉仕する宣教師たち

娘とわたしは『リアホナ』(ウクライナ語版)を通して、末日聖徒イエス・キリスト教会の最近の出来事や地上の至る所に住んでいる会員の生活について知ることができます。待ち受けている苦難があろうとも様々な国で伝道に励む兄弟姉妹についての記事を読むとき、わたしは心に喜びを覚えます。彼らは、清い心、偉大な信仰、そしてあふれる愛を携えて、すべての家、すべての家族を訪れ、この大切な業を行っているのです。この業を推進することにより、彼らは聖文と個人的な模範を通して、わたしたちが天父についてさらに知るうえで助けとなっています。この奉仕の業は、見る目に好ましいだけでなく、心にも良い気持ちを与えてくれます。ウクライナキエフ・スヤトシヌスキー地方部、ウィノグラダルシカ支部
レオニド・ステパノウィッチ・シコロニ

神はわたしたちの道を照らしてください

わたしは『リアホナ』のすべての読者に、生活の中で神への信仰を持つことがほんとうに大切であると伝えたいと思います。教会に入り、わたしの人生は180度変わりました。生活で以前よりも容易に、問題に対処できるようになりました。天父の知恵、優しさ、忍耐、守り、そして愛に感謝します。悩み事がなくなったわけではなく、依然として存在していますが、神はわたしが逆境を克服できるように助けてくださいます。

今は、あたかも月が夜道を照らして行き先の視界が開かれるように、神が天の王国に至る道を照らしてくださいと

知っています。わたしたちは両手を広げ、暗闇にいるすべての人々をこの明るい道へ招くことができます。

ブルガリア・プロフディフ地方部、

スタラザゴラ支部

マリナ・ルセワ



『リアホナ』から得る励まし

わたしは8歳のときから教会員です。わたしは、いつも『リアホナ』(フランス語版)に心を高めるメッセージを掲載してくださることについて、感謝をお伝えします。わたしは『リアホナ』のおかげで、周りから強い反対があっても福音に雄々しくある忠実な若い人々がいることを知り、安心と慰めを得ることができます。

わたしにとって、自分の友達で正しい道から外れていく人を見るのは、心の痛む経験でした。時々わたしは、この世に染まらせようとする友達の誘いを克服するだけの力と勇気を持っているかについて悩みます。『リアホナ』に掲載されている若人たちの心からの証は、そんなわたしを強めてくれます。真理に希望を抱き、福音を実践し、高い標準を持つ努力をしているのは、わたしだけではないと知ること、ほんとうに安心します。この助けがあることに感謝します。『リアホナ』は、羅針盤のようにこの世で行くべき方向へと導いてくれます。

タヒチ・アルエステーク、
アルエワード
バヤナ・マタオア

編者より—今年号では、「キリストの特別な証人」が大管長会メッセージの代わりに掲載されています。4月のホームティーチングでは、このメッセージをお使いください。



写真／エドシー・ハーパー、The Mission 49

キリストの特別な証人

以下の記事は、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒定員会によるビデオプレゼンテーションに基づいたものです。

同プレゼンテーションは、2000年4月1、2日の両日に開かれた総大会の部会と部会の間に衛星放送されました。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

➤ の大いなる町、歴史ある町エルサレムは、いつも靈感を与えてくれます。なぜならこの地には神の御子の足跡があるからです。2,000年前、ここから少しばかり南に離れたベツレヘムで、全人類の救い主がお生まれになりました。そして幼子おきなごであられたときに、主はこの地の神殿に連れて来られました。ここでマリヤとヨセフは、世の救い主となるよう定められたこの小さな幼子について、シメオンとアンナが素晴らしい預言を語るのを聞きました。



イエスは少年時代を、ここより北、ガリラヤのナザレで過ごされました。12歳のときに、イエスは再びここエルサレムへ連れて来られました。この地でイエスの母親は、イエスが神殿で教師たちと話をしておられるのを見つけました。「教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた」

のです(ジョセフ・スミス訳ルカ2:46)。

主がこの町をじっと見詰めて、悲しみのうちに次のように言われたのはこの辺りでした。「ああ、エルサレム、エ





エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。……わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」(マタイ23:37)

エルサレムで、神の御子はこの世での生涯の最後の日々を過ごされました。この地で、主はゲツセマネの苦しみを受け、捕らえられ、裁かれ、刑を受け、十字架上で言い表せないほどの死の苦しみを受け、ヨセフの墓に納められ、復活して勝利を得られました。

主の生涯の壮麗さ、主の死の威厳、全人類への主の贈り物の普遍性を完全に理解できる人はいません。主が亡くなられたときに百卒長が言ったように、わたしたちは「まことに、この人は神の子であった」と宣言します(マルコ15:39)。

さて、主がベツレヘムで誕生されてから2,000年が過ぎました。確かに、今は主を思い起こし、決意を新たにする時です。わたしたちの時代に、主は御自身の神性を全世界において証するよう15人の特別な証人を召しておられます。この召しは特別なものです。主から選ばれ権能を受けた主イエス・キリストの使徒なのです。そして与えられた聖なる使徒職の力と権能によって、主が実際に生きておられる事実を証するように命じられています。

これらの特別な証人の証に耳を傾けてください。彼らは地上の様々な場所から、この地上にお生まれになる前の主と、地上における主、そしてこの世における生涯を終えられた後の主の務めを証してくれます。神の御子、世の贖い主、全人類の救い主、命と平和の君、聖者を送ってくださった神に感謝します。

地上にお生まれになる前の務め

十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル

➤ の壮大な、はるかかなたを眺めるための望遠鏡は、銀河系をより詳しく調べられるように、スモッグより高い所に慎重に設置されています。人生についても同じです。人生は信仰のレンズで眺めますが、物事をよりはっきりと見ようとすれば、自分自身をこの世のスモッグより高い所に引き上げなければなりません。そうすれば賛美歌にあるように、主の御手のなせる業に驚きたたずみ、星影も皆あまねく神を証するのを目にすることができるのです(「わが主よ、わが神」『賛美歌』44番参照)。そうでなければ、全人類のためのイエスの福音を探求し、物事を「ありのままに」見ることはできません(モルモン書ヤコブ4:13)。

しかし、はるかかなたの宇宙に目を向けるとき、わたしたちは神の御手の業がいかに広大であるかを謙遜に思い巡らすことができます。ベツレヘムにお生まれになってナザレのイエスとして知られるようになるはるか昔、救い主はエホバでした。そのはるか以前に、御父の指示の下で、宇宙の主であるキリストは無数の世界を創造されており、わたしたちの世界はその一つにすぎないのです(エペソ3:9;ヘブル1:2参照)。

宇宙に、人が住む惑星は幾つあるのでしょうか。それは分かりませんが、この宇宙に存在するのはわたしたちだけではないのです。神は、この惑星だけの神ではないのです。

わたしはイエスが実に全宇宙の主で

あられることを証します。「[イエス]によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造され[ました]。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる[のです。]」(教義と聖約76:24)

イエスは大いなる驚くべき贖罪における贖いの血(使徒20:28参照)によってわたしたちを買収され(1コリント7:23参照)、わたしたちの立法者となられました(イザヤ33:22参照)。わたしたちは主の律法と戒めに従うことにより、いつの日か主と天の御父の御前に戻ることができるのです。

宇宙についてのこれらの事実を思うとき、すべてのひざがかがみ、すべての舌がイエスはキリストであられると告

白する裁きの日を待たずして、まさに今、わたしたちのひざはかがみず。イエスは天の御父のすべての子どもたちに不死不滅をもたらすために、そして、最も雄々しい者とともに、住まいがたくさんある御父の家に住むために、創造主、立法者としての偉大な役割を果たされたことを証します。

キリストが再びおいでになるときは、かいばおけの中のか弱い幼子ではなく、人々が贖い主そして宇宙の主と認める御方としておいでになるでしょう。その後、天に美しくちりばめられたもろもろ

の星は証としてその場所から落ち(教義と聖約133:49参照)、主がお生まれになったときに天の星が幼子を眺めたという出来事をはるかに上回るドラマが演じられることでしょう(「天を降りし神の御子」『賛美歌』120番参照)。

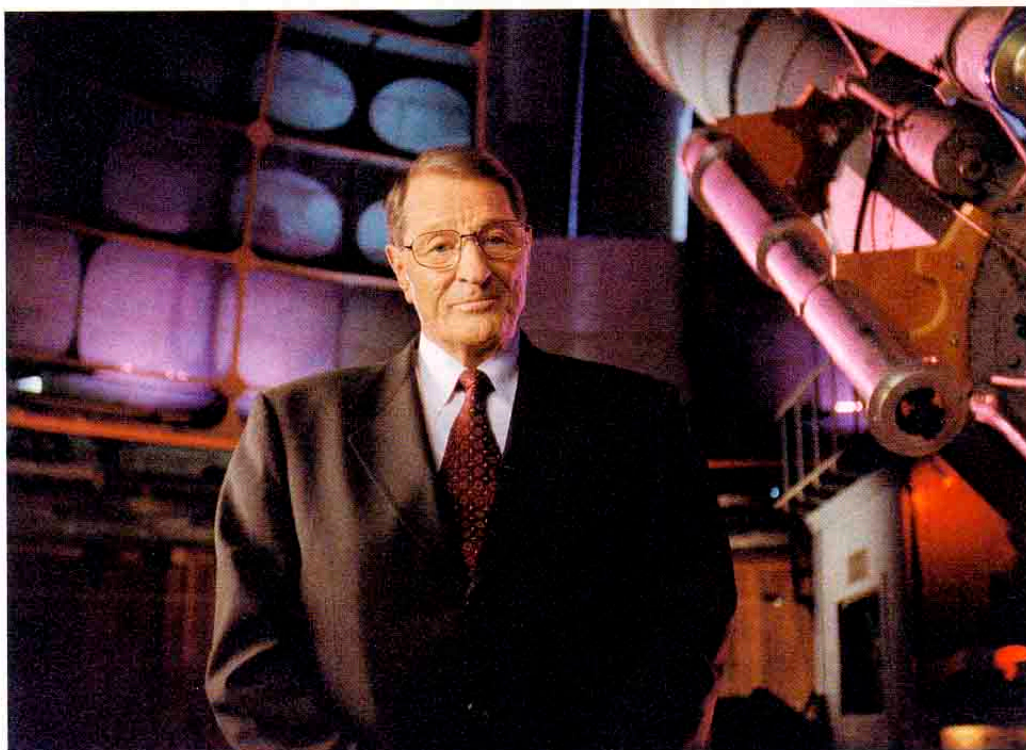
広大な創造を行われた宇宙の主は、1羽のすずめが地に落ちるのにも気づかれる御方であり、わたしたち一人一人の救い主なのです。使徒職にある者の証として、イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

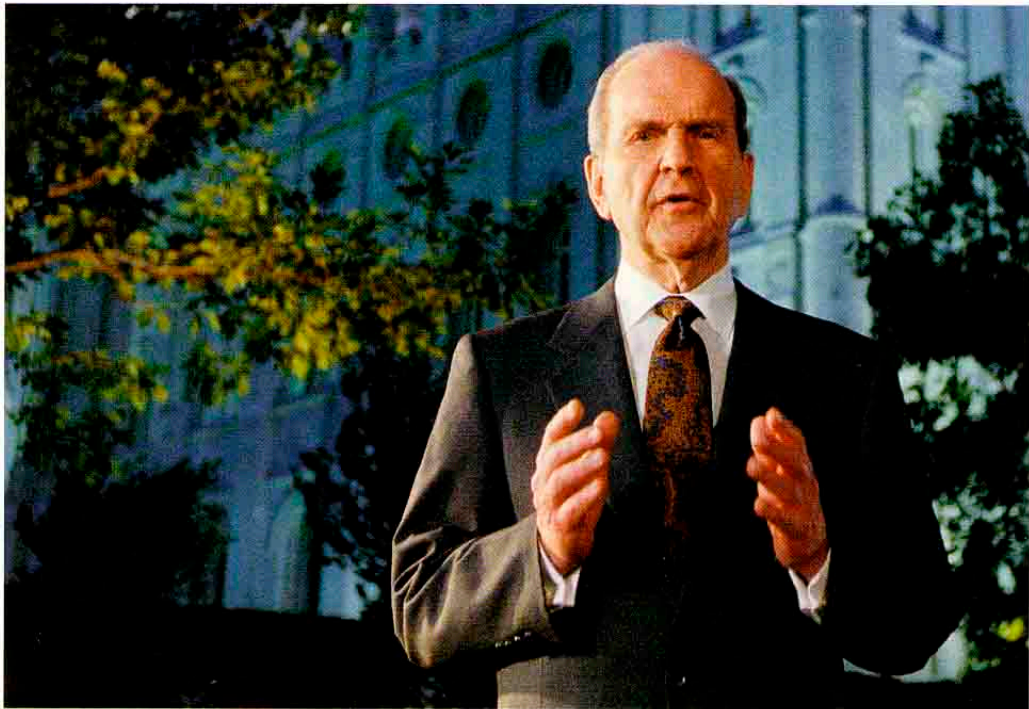
十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン

空の星を眺める度に、わたしは約4,000年前に、当時は旧約の神エホバとして語られたキリスト・イエスが、父祖アブラハムと聖約を交わされたことを思い出します。それにはアブラハムの血統を通して世の救い主がおいでになること、そしてアブラハムの子孫は増えて「天の星のように」なるという約束が含まれていました。さらにアブラハムは、「地のもろもろの国民は〔アブラハ

カリフォルニア州サンノゼ郊外のハミルトン山にある、リック天文台から語るニール・A・マックスウェル長老。





ソルトレーク・シティのテンプルスクウェア敷地内から語るラッセル・M・ネルソン長老。

ムの子孫によって祝福を得るであろう」と言われました(創世22:17-18)。この聖約は無数の世代に及ぶ永遠のものでした(歴代上16:15参照)。アブラハムは、「この権利はあなたによって……またあなたの後の子孫……によって〔続き〕、救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けられるであろう」と約束されました(アブラハム2:11)。

聖文から、この聖約は「末日に成就する」ことが分かります(1ニーファイ15:18)。それから主の完全な福音が宣べ伝えられ、多くの人々がイエス・キリストは神の御子であられることを確かに信じるのです。

1836年、「アブラハムの福音」の鍵^{かぎ}が授けられました(教義と聖約110:12)。1843年、主は預言者ジョセフ・スミスに

こう宣言されました。「アブラハムは、その子孫とその腰から出た者について約束を受けた。——あなた……は、その腰から出た者である。……この約束はあなたがたに与えられたものでもある。あなたがたはアブラハムから出て〔いるからである。〕」(教義と聖約132:30-31)

兄弟姉妹、皆さんもまたアブラハムの忠実な血統に約束された神聖な祝福を求めることができます。皆さんの信仰、行い、そして祝福師の祝福で宣言されている血統ゆえに、主の神権の祝福と責任は皆さんのものであると主は説明しておられます。皆さんは「正当な相続人」なのです。「〔皆さん〕の命と神権は存続しており、……〔皆さんと皆さん〕の血統を通して必ず存続しなければならな

い」のです(教義と聖約86:9-10)。

アブラハムの聖約における最高の祝福は、聖なる神殿で授けられます。これらの祝福により、わたしたちは第一の復活に出て来て、王位、王国、力、公国、主権を受け継ぎ、「すべての事柄について昇栄と栄光を受ける」ことができるのです(教義と聖約132:19)。いにしえのアブラハムの聖約が成就するのは、ひとえに主イエス・キリストによっています。わたしたちが神と御子、そして家族と永遠に住むことを可能にしてくださっているのは、まさに主なのです。これは主の業であり主の栄光です。わたしは主を愛しています。今もいつまでも、わたしは主を証し、主への尽きることのない感謝を述べたいと思います。イエス・キリストの御名により、アーメン。



地上での務め

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン

2000年前、旅をしていた一組の男女が小さな町を眺めました。ベツレヘムです。女性は身重で、ナザレからずっと旅を続けていました。長旅は彼女にとってきわめて困難で苦痛に満ちたものでした。

泊まり客が突然押し寄せたため、町のすべての宿、すべての部屋はいっぱいになっていました。たった一つ、ヨセフとマリヤが見つけた身を寄せられる場所は、家畜が飼われていた所でした。

そして主はお生まれになりました。キリスト・イエス。メシヤ。神の愛される御子。太陽と月と渦巻く海の創造主は、この地上で最も質素な環境で、布にくるまれて寝かされました。

幼いころからずっと、わたしは主であり救い主であるイエス・キリストの誕生の美しい物語に驚きを感じてきました。中でも靈感あふれる箇所は、旧約聖書やモルモン書の預言者による宣言です。彼らは救いの計画と、全人類を救うために主が果たされる重要な役割を知っていました。野宿していた羊飼いたちが人類史上最も大いなる出来事の知らせを受けたときの天使の歌声、ベツレヘムの星を追いかけて東から来た博士たち。救い主についてのわたしの愛と理解は、これらの靈感あふれる出来事によって深められたのです。

主の生涯は、主の誕生と同様でした。「侮られて人に捨てられ、……悲しみの人で、病を知って」おられた主には(イ

ザヤ53:3)、まくらする所もありませんでした。栄光や名声がメダルやこの世の富によりもたらされる現代にあって、家も、政治的な影響力もない一人の孤独な人物に歴史と永遠の行く末を変えることができたなど、ほとんど想像のつかないことのように思えます。

しかしわたしは、主がその力を持っておられたことを証します。キリスト・イエスは命の言葉を教えられました。主は真理への道、平安への道、幸福への道を示されました。主が地上を歩まれたとき、何千人もの人々が答えを求め、また苦難と悲しみからの解放を、そして負っている重荷が軽くされることを、

切に願いつつ、主の目をじっと見たことを証します。そして信仰をもって主の目を見た人は皆、癒しと平安、幸福を見いだしたのです。

主イエス・キリストの使徒として、わたしは今日、やがてわたしたちすべてが救い主の愛にあふれた目を見る時が来ることを証します。そのときわたしたちは、マリヤに生まれた子が神の御子、世の救い主であられたことを確かに知るでしょう。そしてわたしたちは、主の御手が触れても癒されないほどの深い悲しみや痛み、また重荷はないことを知るでしょう。

主はわたしたちが主を信じ、主に学

ソルトレーク・シティーから語るジョセフ・B・ワースリン長老。



ぶように、そして主の教えに従おうと努めるように求めておられます。わたしたち一人一人がこの出来事の神聖さを決して忘れることなく、主のみもとに来て主の戒めを守ることによって主の誕生を祝えるよう、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

わたしたちは皆、バプテスマと聖霊を受けたときのことを鮮明に覚えています。イエス・キリストの生涯を持つ意味、および主がすべての人を祝福するためになされたことに対する理解

が深まるにつれ、その儀式はますます重要な意味を帯びてきます。わたしたちは、永遠の御父とその愛子である救い主の御前に住んでいました。これまで地上に来た、あるいはこれから来る死すべき人は皆、この世での生活を導く幸福の計画を完全に理解したうえで、その特権を選んだのです。

バプテスマの聖約を交わして守り、主の戒めに熱心に従い、そのほか必要な儀式をすべて受けた人だけがこの地上で満ちみちる喜びを得、日の栄えの王国に永遠に住むことになります。イエス・キリストの贖罪のおかげで、真に悔い改めた人はバプテスマによって罪の赦しを得ることができます。

救い主は言われました。「だれでも、

水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)これは、わたしたちに用意されている祝福を完全に受けるための絶対条件です。わたしたちが聖なる神殿で亡くなった先祖のためにバプテスマの儀式を身代わりで行うのはこのためです。主御自身、「すべての正しいことを成就する」ためにバプテスマをお受けになりました(マタイ3:15)。主はすべてのことにおいて、わたしたちの完全な模範なのです。

わたしは、主であり救い主であるイエス・キリストが復活した御方であって完全な愛と哀れみを持っておられることを証します。また、わたしたちが主と天の御父とともに、また戒めに従って救いの儀式をすべて受けることによってふさわしさを認められた愛する人々とともに、永遠に住めるよう、主が御自身の命をささげられたことを証します。わたしは救い主が生きておられることを知っており、厳粛に証します。

十二使徒定員会

L・トム・ペリー

「救い主だったらこんなときどうなさるだろうか。」わたしはある出来事を思う度に、このように考えることによってもたらされる喜びを味わいます。

わたしは平和条約が調印されて第二次世界大戦が終結した直後に最初に日本に上陸したアメリカ海軍の一員でした。荒れ果てた長崎の町に入ったとき





ソルトレーク・シティから語るL・トム・ペリー長老。

のことは、人生で最も悲しい経験の一つとなっています。町の大部分は完全に破壊されていました。放置されたままの遺体もありました。進駐軍として、わたしたちは本部を設置して任務を開始しました。

その荒涼とした状況に、わたしたち数名は、任務以外にももっと何かしたいと思いました。そこで自分たちの部隊の従軍牧師のところに行き、キリスト教の教会の再建を支援する許可を求めました。政府による戦時下での統制のため、どの教会もほとんど機能していませんでした。数少ない建物はひどく損壊していました。わたしたちは休日にこれらの教会堂を修理してしっくいを塗り、キリスト教の礼拝行事を再開できるようにしました。

言葉はまったく分かりませんでした。わたしたちにできたのはせいぜい建物の修理という肉体労働だけでした。わたしたちは戦時中に礼拝行事ができなかった牧師たちを訪ね当て、説教壇に戻るよう励ましました。彼らが再びキリスト教の信仰を実践する自由を体験したとき、わたしたちもともにすばらしい

経験をしました。

忘れることのない出来事が起きたのは、わたしたちが国へ帰るため長崎を出発するときでした。国へ帰る船に向かう列車に乗ろうとしていたとき、わたしたちはほかの大勢の軍人たちからかわれました。女友達と別れの言葉を交わしていた彼らは、「君たちは日本での楽しみを逃した」と言ってわたしたちのことを笑いました。汗水流して働いたり、壁にしっくいを塗ったり、まったく時間の浪費だったと言うのです。

わたしたちがからかわれていたさなかのことです。駅の近くの小さな丘の向こうから、わたしたちが修理した幾つかの教会の偉大な日本人クリスチャン約200人が、「戦い進め」を歌いながらやって来たのです。彼らは下って来ると、わたしたちにたくさんのプレゼントをくれました。それから全員が線路沿いに並びましたが、列車が動き出したとき、わたしたちにできたのは手を伸ばして彼らの伸ばした指先に触れることだけでした。胸がいっぱいで、何一つ言葉が出てきませんでした。しかし、戦争が終わった国で、わずかではあってもキリ

スト教の再建を手助けできて、わたしたちはうれしく思いました。

わたしは神が生きておられることを知っています。わたしたちは皆御父の子どもでもあり、御父はわたしたちを愛しておられることを知っています。御父は全人類のため、そして主の福音を受け入れて主に従う者が、神のあらゆる賜物たまものの中で最も大いなるものである永遠の命を得られるように、贖いの犠牲として御子を送ってくださいました。神は預言者ジョセフ・スミスの働きによりこの地上に再び福音が回復されるよう取り計らってくださいました。死すべき生涯において見いだすことができる唯一の永続的な喜びと幸福は、救い主に従い、主の律法に従い、主の戒めを守ることによってもたらされることを知っています。主は生きておられます。わたしのこの証をイエス・キリストの聖なる御名によって申し上げます。アーメン。

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

の建物の東側正面には、「主の宮」と書かれています。初めてこの神殿に足を踏み入れた途端、わたしは以前にここに来たことがあると感じました。そしてすぐに、この気持ちは人生において体験してきたいかなる平安にも勝るものだと感じたのですが、それでも以前から知っており、覚えているように思えたのです。

この世に来る前、わたしたちは天の



ソルトレーク神殿の東側階段より語るヘンリー・B・アイリング長老。

御父と御子を知っていました。わたしたちは御二方とともにいたときに平安を感じていました。そして家族や愛する人々と一緒に再び天の御父や御子とともに住みたいと願っています。

奉獻された神殿は、復活した救い主がおいでになることがある神聖な場所です。わたしたちはそこで、前世で主と交わったときの平安を感じることができます。また、そこでは聖約を交わすことができ、それによってわたしたちはこの世で主に近づくことができ、わたしたちが主に対して約束を守るならば、主に、次の世で家族とともに御父の住まいに連れて行っていただくことができます。

これらの建物のすべての部分およびその中で行われるすべての事柄には、わたしたちに対する救い主の愛と、救い主に対するわたしたちの愛が表れています。わたしはある日、この神殿の高い所にある場所ですのを感じました。わたしは塔の一つで、この建物が奉獻されて以来ほとんどだれも訪れたことのない場所にいました。ほとんど使用されたことのないその小さな部屋で、

わたしは開拓者の手による美しい装飾を目にしました。

精巧な装飾を入念に彫り上げた職人たちが思い描いたとき、わたしは畏敬の念を覚えました。彼らは電動式の工具もなしに、自分たちの愛する主と天の御使い以外ほとんどだれも目にする事のない場所で、骨身を惜しまず働いたのです。人のためでも、または称賛を得るためでもなく、主のため、主の宮のために働きました。わたしと同様、彼らは主が生きておられることを知っていました。また彼らは、主が自分たちに対して、集まって、主のために宮を建てるにふさわしくなるよう求めておられたことを知っていました。家族とともに導きと祝福を受けられるようになるためです。

わたしは主が生きておられることを知っています。ジョセフ・スミスは主の預言者であり、示現の中で初期の神殿の窓の形を見ただけでなく、地上の至る所に神殿が広がるのを見たことを知っています。主はわたしたちと先祖とを祝福するため、また御自身の栄光あふれる再臨に向けての業を完成するために、

これらの神殿で行使される神権の鍵を愛にあふれた優しさのうちに僕たちに託されました。わたしはこれが真実であることを知っており、またそれはわたしの心に平安をもたらします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

わたしは聖文をこよなく愛しています。イエス・キリストの地上での生活について読むのが大好きです。主の生涯は、必要なときにわたしたちを高め、鼓舞し、強めてくれるものであふれています。わたしにとって、あらゆる聖文の中で最も神聖な章の一つが、ヨハネによる福音書の第17章です。この章はその全体が、イエス・キリストが御父にささげられた執り成しの祈りとなっています。主は、実に、「わたしがあなたを知っているように世の人々があなたを知ることさえできれば」と言っておられます。主は、御自分は命じられたことをすべて行ったと御父に言っておられます。

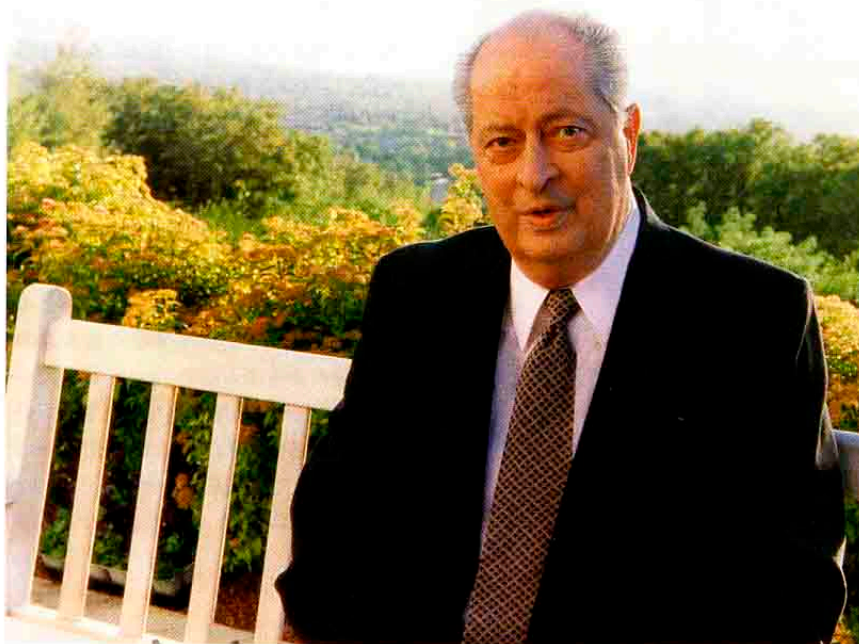
時々、わたしたちは救い主の従順さがいかに驚くべきものであったかを忘れていたことがあります。主が行われたこと、また主が言われたことはすべて、御父への従順によるものでした。貧しい者を訪ねて世話をし、弟子を召し、パレスチナの地およびアメリカ大陸で教えられたのは、すべて御父が主に命じられたからでした。主御自身には個人的動機はありませんでした。主は言わ

れました。「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを〔行う。〕」(ヨハネ8:28) 何と完全な従順の模範でしょうか。

人生で行う選択において、わたしたちは救い主を知る必要があります。「わたしに従ってきなさい」という主の簡潔な勧告は(マタイ19:21)、本人が望むならばその人の存在を変えることができます。わたしたちが主に立ち返るならば、主はわたしたちの重荷を軽くする力を持っておられます。

主イエス・キリストの使徒として、わたしには救い主の神聖な証人としての証を述べる機会があります。わたしは自分の証が聞く人の心を貫くことを、この上なく願っています。

ユタ州バウンティフル神殿敷地内から語るロバート・D・ヘイルズ長老。



わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。主が今現在、預言者を通じて、啓示によって御自身の教会を導き、指示を与えておられることを知っています。救い主への信仰を持つならば、主はわたしたちが試練や^{かんなん}艱難を乗り越えられるよう助けてくださいます。そしてわたしたちは、最後まで堪え忍び、地上での生涯の後に主の御前に戻るができるでしょう。主は生きておられ、わたしたち一人一人を知っておられ、愛しておられます。主はみもとに来る者を祝福したいと強く願っておられます。イエス・キリストの御名により、へりくだり証します。アーメン。

十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト

何年か前にスペンサー・W・キンボール大管長から神殿に呼ばれたときのことについて考えることがよくあります。そのころ、わたしは十二使徒補助として忙しくしていましたが、大管長から神殿の4階に来るようにとの電話がありました。そしてこう言われました。「デビッド、今すぐ来られますか。」わたしは「はい、大管長」と答えました。すると彼は「今すぐです」と言いました。わたしは鼓動が高まるのを感じながら、神殿に向かって歩きましたが、もちろんなぜキンボール大管長に呼ばれたのかは分かりませんでした。

キンボール大管長に連れられて、わたしは今まで入ったことのない小さな部屋に入り、そこで大管長からふさわしさについて面接を受けました。そしてもちろん、彼がそのような話をするのに驚きましたが、なぜそこに呼ばれたのかまったく見当がつきませんでした。それから立ち上がるよう合図され、わたしはそのすばらしい人物とともに立ちました。彼はわたしの手を握り、こう言いました。「わたしの内にあるすべての愛をもって、わたしは十二使徒定員会の空席を埋めるようあなたを召します。」彼がそう言ったとき、わたしは衝撃で倒れるのではないかと思いました。大変な驚きだったのです。

その召しを受けてから眠れない夜が続き、わたしはそれについて深く、何度も考えました。彼は「教会の大管長と

して」とか「預言者として」または「わたしの持つ権能によって」とは言わずに、彼が何かを行うときに見せる非常に謙遜な態度で、「わたしの内にあるすべての愛をもって」と言いました。わたしは、福音を正しく教えるためにわたしたちが身に付けるよう救い主が望んでおられるもの、わたしたちが示し、表し、心と魂に感じなければならぬものは、愛であること、彼がそれをわたしに教えようとしていたことを知りました。

世界中の人々と会って生ける神について証を述べるとき、わたしは温かく、心地よいものを感じます。主は実在します。神は生きておられ、わたしたちの天の御父です。イエスはキリストであり肉における独り子です。これが真実であることを知っています。これが真実

であるとの証、知識、そしてわたしの胸の内に燃えるものを、イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス

イエスは御自身の務めを終えるに当たって、主の晩餐の聖餐について教えられました。主はパンを裂いて祝福し、弟子に与えて言われました。「取って食べよ、これはわたしのからだである。」(マタイ26:26)「わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ22:19)主は杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。「これは、罪のゆ

るしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」(マタイ26:28)

主の晩餐の聖餐は、バプテスマの聖約と祝福を新たにするものです。わたしたちは罪を悔い改めて、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のみもとに行き、聖餐を受けるように命じられています。パンを頂くとき、わたしたちは進んでイエス・キリストの御名を受け、いつも主を覚え、主の戒めを守ることを証明します。わたしたちがこの聖約に従うとき、主はバプテスマの清めの効果を新たにしてください。わたしたちは清められ、いつも主の御霊を受けることができるのです。

聖餐式を執り行い、聖約を更新し、聖餐を頂くことによって清めを受けることは、末日聖徒の安息日の礼拝における最も重要な行為です。わたしたちはこれを、神の独り子、イエス・キリストの血の記念に行います。主はわたしたちの信仰の中心です。主はわたしたちの救い主であり贖い主なのです。

主の降誕2,000年を祝う今年、わたしは主の使徒たちの証にわたしの証を加え、主が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを証します。世の光また命として、主はわたしたちが天の家に戻って、永遠の御父である神との交わりと最高の祝福、すなわち永遠の命、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものを得る道を備えてくださっていることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。



教会本部ビルから語るデビッド・B・ヘイト長老。



ソルトレーク・シティにあるジョセフ・スミス記念館内の礼拝堂から語る
ダリン・H・オークス長老。

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

➤ こエルサレムのオリブ山にある、この小さなオリーブの森ほど神聖で重要な場所はありません。地上での最後の夜に、イエスが使徒を残して、一人で苦しみの極みへと降りて行き、全人類の罪のための贖いの犠牲をささげられたのは、ここゲツセマネの園でした。

ゆっくりとひざまずき、地にひれ伏し、主は叫ばれました。「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください。」(マルコ 14:36)

キリストに思慮深く従う者にとって、一人の人物が自らの意志と憐れみによりささげた犠牲によって、無窮かつ永遠の正義の要求を満たし、すべての人の罪を贖い、すべての死すべき者の弱さを負い、すべての人の心の痛みや悲しみ、喪失感を理解することができるというのは、まったく驚嘆すべきことです。しかしわたしは、それはまさしくキ

リストがわたしたち一人一人のためにしてくださったことであると証します。イエス・キリストの贖罪は、わたしたちの救いと幸福のために立てられた神の永遠の計画における哀れみに満ちた基盤であり、その中心となる事実であること

を厳粛に証します。

わたしたちがここを静かに、敬虔に歩くのは不思議なことでしょうか。この地で示された愛のゆえにわたしたちが神聖な聖約を交わすのは不思議なことでしょうか。すべての中で最も大いなる御方であるキリストが、身を引くことなくここで苦い杯をお飲みになったことは不思議なことでしょうか。悔い改めて主のみもとに行くことにより、苦しみを受けることのないようにしてくださったのです。

わたしは主への驚嘆と畏敬、敬愛の念と、使徒としての証を、贖い主である主イエス・キリストの御名により宣言します。アーメン。

ゲツセマネの園から語るジェフリー・R・ホランド長老。



大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

エルサレムの城壁のすぐ外側、ちょうどこの辺りに、主の遺体が納められたアリマタヤのヨセフの墓がありました。主の体が納められてから3日後に、「マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。

すると、大きな地震が起こった。……主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし、その上にすわったからである。……

この御使は女たちにむかって言った、「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらん下さい。』(マタイ28:1-2, 5-6)

人類史上、これほどの慰めを与えてくれる言葉はありません。万人の最期であった死が克服されたのです。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」(1コリント15:55)

復活された主は、まずマリヤに御姿を現されました。主は彼女に語りかけられ、彼女は答えました。それは確かに主でした。亡くなって墓に納められていたはずの主が、生きておられたのです。後にトマスが主の御手とわきの傷を見て驚嘆し、「わが主よ、わが神よ」と

叫んだのも不思議ではありません(ヨハネ20:28)。

それは前例のないことでした。それまでは希望のない死だけが存在していたのです。そこに永遠の命がもたらされました。それは神でなければおできにならないことでした。イエス・キリストの復活は、主の生涯と使命において最も偉大な出来事でした。それは贖罪における最後の偉大な業でした。全人類のために命をささげられた主の犠牲は、主が墓から出て来られ、地上に生を受けたすべての人の復活を確実なものとしたことにより、初めて完結したのです。

人類の歴史に記されたあらゆる勝利の中で、十字架におかかりになった後、

園の墓から語るゴードン・B・ヒンクレー大管長。



最初のイースターの朝に墓から出て来られた主が収められた勝利ほどに偉大で、普遍的かつ永続的な影響力を持つものはありません。

この出来事の証人たち、復活された主を見、その御声を聞き、言葉を交わしたすべての人が、この最も大いなる奇跡が真実であると証しています。その後何世紀にもわたって、主に従う人々はこの神聖な業が真実であると宣言してきました。

これらすべての証に加えて、わたしたちはカルバリの十字架で亡くなられた主が、神の御子、命と死とを支配する者として、驚くべき輝きのうちに復活されたことを証します。

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

救い主が使徒たちに「全世界に出て行きなさい」とお命じになったとき(マルコ16:15)、主の教会は非常に小さく、会員は現在中東として知られている地域に散らばっていました。ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、パウロといった情熱にあふれた主の使徒たちは、おもに徒歩や船で旅をし、小さな群れを一つとするために力の限りを尽くしました。

しかし地理的距離とコミュニケーションの欠如から、彼らの働きは困難を極めました。彼ら自身、将来福音の教えからの「背教」が起こることを知っていました(2テサロニケ2:3)。また、最終的にはイエス・キリストの完全な福音が地上



ハリ・アンダーソン作の絵画「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を教えよ」の拡大版(グラント・ロムニー・クローソン所蔵)の前で語るM・ラッセル・バラード長老。

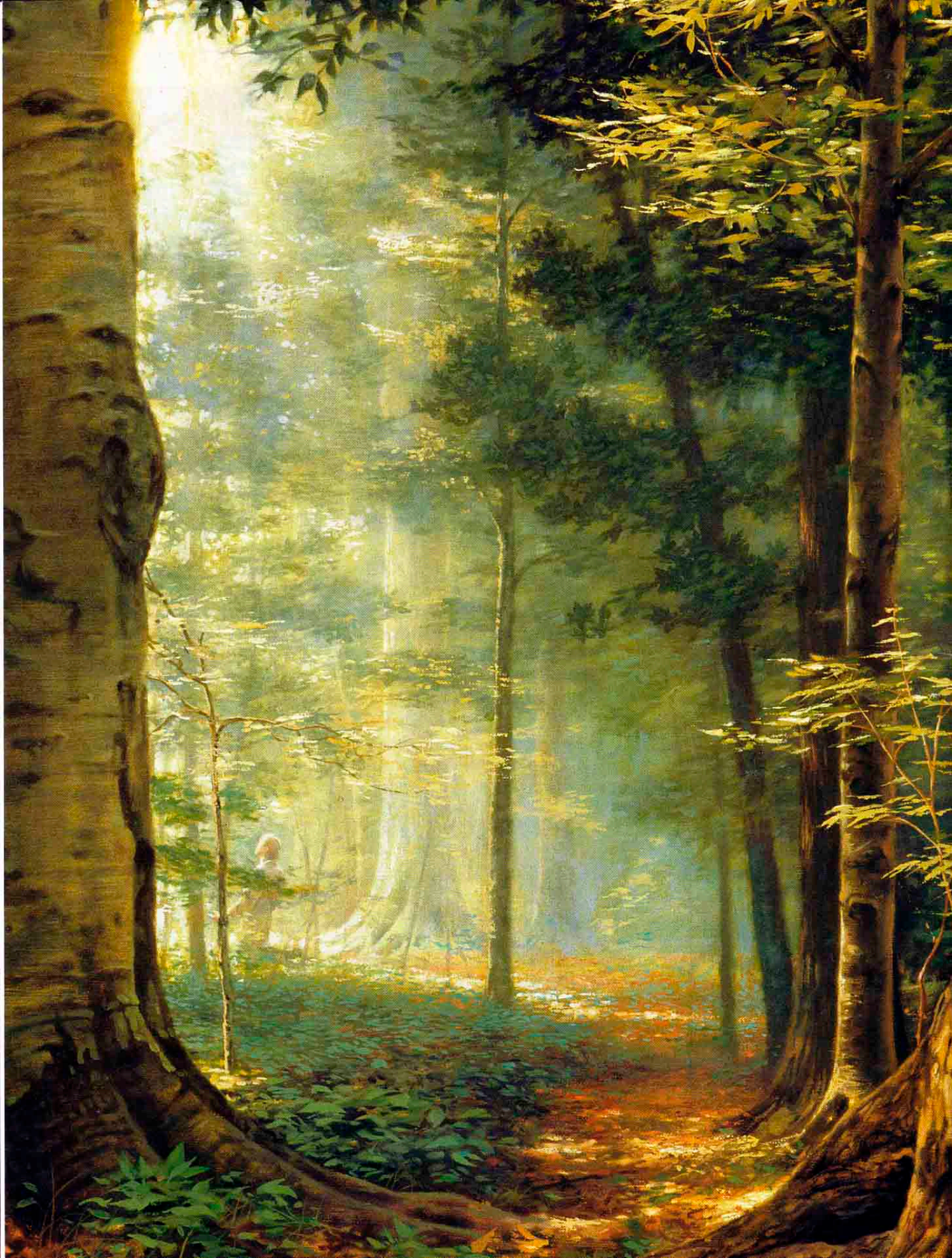
に回復されることも知っていました。わたしは、1820年の春に天の御父と主イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたことにより幕を開けた福音の回復が成就したことを証します。

あの栄えある日以来、90人以上の人が使徒として働くよう召され、いにしへの使徒と同様、イエスがキリストであり、永遠の父なる神の御子であられることをすべての国民に教える責任を受けてきました。今日、ジェット機や優れた科学技術によって、わたしたちは世界の隅々にまでメッセージを届けられるようになり、その業は大いに強められています。1820年以来、75万人を超える専任宣教師が世界中で働き、137の国や地域において、100以上の言語でキリストについて教え、証してきました。

わたしは、御子、主イエス・キリストを通してこの力ある業が進められることは天の御父の御心であると証します。主によって、主を通じて、宣教師は謙遜で偽りのない証をしています。わたしはその証人です。わたし自身、この業

が真実であることと救い主の神性について知ったのは、50年前、イギリスで専任宣教師として働いていたときでした。そして今日、紹介できないほど多くの、あまりにも神聖な経験を通じて、その知識はより確かなものとなりました。

これは主の福音です。聖く、神聖な至高の御方、完全な力と、威厳と、恵みと真理に満ちておられる主を頭としています。主はわたしたちへの愛ゆえに、わたしたちのために生き、わたしたちのためにお亡くなりになりました。わたしは言葉では言い表せないほど深く、また強く主を愛しています。イエス・キリストはわたしの主、救い主、贖い主、そして友です。イエス・キリストは永遠の御父である神の御子であられることを知っています。主は生きておられ、今日預言者と使徒とを通じて御自分の教会を導いておられます。主の偉大な業は全地に満ちるまで進むことでしょう。この証をイエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。



地上における生涯を終えられた後の務め

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

1836年4月3日、2,000年以上前に与えられた預言がこの部屋で成就しました。旧約聖書の最後の箇所、預言者マラキはこう預言しています。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5-6)

天使モロナイは、預言者ジョセフ・スミスを訪れたときに多くの聖句を引用しましたが、その中でも、この聖句はほかの聖句と分けられ、教義と聖約第2章に記されています。そして1836年のあの日、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはこの部屋でひざまずいて厳かで静かな祈りをささげました。ジョセフは祈り終わると立ち上がって言いました。「わたしたちの心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた。

〔そして〕わたしたちは、主がわたしたちに面して教壇の手すりの上に立っておられるのを見た。」(教義と聖約110:1-2)

主が彼らに語られ、それからモーセが現れてイスラエルの集合の鍵を受け、エライアスがアブラハムの福音の鍵を受けました。そしてあの預言が成就したのです。預言者エリヤがやって来てあ

の同じ言葉を述べました。父の心をその子どもに、子どもの心を父に、と。そしてこう言いました。「これによってあなたがたは、主の大いなる恐るべき日が近く、まさに戸口にあるのを知ることができる。」(教義と聖約110:16)

今わたしたちの時代に、驚くべき業が進んでいます。家族歴史の探求、そして家族を永遠に結ぶ神殿の業です。家族の崩壊によって墮落していく世の中であって、この業は世界中で進められています。それは神聖な業、主が計

画され、主御自身が紹介された業です。主はここにおいでになり、この業の鍵を授ける預言者エリヤを紹介なさったのです。

わたしはイエスがキリストであられ、この業が神聖なもので、人間の頭では考え出すことのできないものであることを証します。確かにイエスはキリストであり、主は生きておられ、この教会を管理し、導いておられます。イエス・キリストの御名によって厳粛に証します。アーメン。

カートランド神殿から語るボイド・K・パッカー長老。



第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

歴 史上重要な町ノーブーのこの神聖な土地に立つと、心がへりくだります。その建設者であるジョセフ・スミスにちなんで、この町はジョセフの町としても知られていました。ニューヨーク州パルマイラの聖なる森で、示現で父なる神と御子イエス・キリストにまみえたのは彼でした。彼の生涯は、彼がキリストと親しく交わって、霊的な真理、鍵、および権能をほかのいかなる預言者よりも多く地上にもたらしたことを証しています。

教会歴史の初期における重要な事柄の中で実に多くがこの地で起こりました。壮大な神殿が建てられました。この神権時代における2番目の神殿でした。ノーブー神殿が建てられたのは、神が御自分の民に用意しておられる最高の祝福を、教会員が受けられるようにするためでした。

ノーブー神殿の神聖な礎石の上を歩くと、わたしの心は圧倒されます。神殿の閉鎖と聖徒の出発が迫った最後の日には、文字どおり多くの人々が神殿に住んでいるような状態でした。わたしの曾祖父母、ジョン・アカーリーとジェーン・アカーリーは、1846年2月3日、

この壮大な建物で神殿の祝福を受けた最後の人々の中にいました。それは神の摂理でした。なぜなら、ジョン・アカーリーはウィンタークォーターズで命を落とすこととなったからです。やがて、この壮大な神殿は、主の栄光のために再建されることでしょう。

ここは神殿のバプテスマフロントがあった場所です。救い主はニコデモに言われました。「だれでも、水と霊から生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5) 生者と死者の救いはバプテスマとほかの儀式にかかっており、それらのすべてが、イエスがキリストであられるというわたしの確信

ジョセフの町、イリノイ州ノーブーから語るジェームズ・E・ファウスト副管長。



を力強く確認してくれます。

だれもが経験する人生のゲツセマネにおいて、そしてしばしばわたしの現在の召しにおいて、わたしはへりくだった心でひざまずき、唯一の方法である祈りによって主に助けを求めてきました。また、しばしば霊の苦しみにうめきながら、命よりも大切に思うようになったこの業をよく成し遂げられるようわたしを支えてください、と熱心に神に願い求めました。これまでわたしは、心がうずき、ひどく苦しみ、またサタンに打たれたときに味わう恐ろしい孤独感にさいなまれた経験を何度かしましたが、最後には主の御霊の温かい慰めに包み込まれるのを感じました。

また、重荷に押しつぶされそうな気持ちや、自分はふさわしくない、価値がないという自分への不信心、見捨てられたというはかない気持ちを抱いた後で、前の100倍もの大きな力を得たこともあります。また主と交わり、主から指示を受けようとして何度も霊のシナイ山に登ったことがあります。それはまるで実際の^{へんけう}変貌の山にやっとのことで登り、神の御前において大いなる強さと力を感じたかのようなものでした。こうしたときに受けた特別で神聖な思いはわたしにとって励ましとなり、またしばしば親しい友となってくれました。

聖なる使徒の召しを務めるとき、わたしは自分が非常に平凡な人間であることを痛感します。しかし感謝をもって、一つの特別な^{たまもの}賜物を認めることができます。わたしには、ナザレのイエスがわたしたちの神聖な救い主であられるとい



ニューヨーク州パルマイラのグランディンビルディングから語る トーマス・S・モンソン副管長。

う確かな知識があります。わたしは主が生きておられることを知っています。贖罪の言い表せないような苦痛を通じて、男女を問わず、悔い改めるならば、罪の赦しを受けることができます。復活の奇跡により、すべての人が死から復活します。わたしは主の愛を感じ、主がわたしたち一人一人のために支払ってくださった代価に驚きます。一体何滴の血がわたしのために落ちたことでしょうか。主についてのわたしのこの証を、イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

第一副管長

トーマス・S・モンソン

今日、ニューヨーク州パルマイラに、昔のままに美しく復元されたグランディンビルディングがあります。グランディンビルディングが復元された目的は、「建物の外観を昔のままに保ち、訪問者が当時の歴史に浸る機会

を提供する」ためです。

ここで、モルモン書の初版が印刷されました。初版の印刷部数は合計で5,000部、田舎の印刷業者にとっては異例の大量注文でした。E・B・グランディン氏は、ニューヨークからスミス改良型印刷機を入手していました。この印刷機には、当時の一般的な印刷機を上回る新技術が採用されており、預言者ジョセフ・スミスの自宅近くでモルモン書が印刷できる見通しが立ったのです。

文明の最も大いなる不思議の一つが持つ意義についてよりいっそう理解するために、活字の出現を中心に歴史を振り返って見ましょう。ゲーテンベルクが活字という可能性に気づくまで、すべては羽根ペンで1文字ずつ、1行ずつ、1ページずつ書き写されていました。グランディン氏は活字を用いてモルモン書を印刷しましたが、それは記憶と経験からすべての書体、フォント、サイズを習得した熟練の植字工の手で根気よく組まれたものでした。ページが植字された後、インクを付けて印刷され、そ

の後製本されました。

主は、印刷技術の進歩によって世界中に配布が可能な時代に、モルモン書を世に現されました。今日の印刷機によって、教会は毎年何百万部ものモルモン書を印刷、配布することができるようになりました。

何年も前にアメリカ南部であった出来事をご紹介します。ステーキ大会の後で、一人の女性がやって来てわたしにこう尋ねました。「デルパート・L・ステーブラー長老を御存じですか。」わたしは、彼とわたしは主の使徒としてともに主の業に働いていると答えました。すると彼女は、デルパート・L・ステーブラーのメッセージと署名が記されたモルモン書をわたしに手渡しました。そしてそれはステーブラー長老が若い宣教師であったときに、彼女の祖母に渡したものだとして説明してくれました。それからこう言いました。「このモルモン書をステーブラー長老に渡して、何百人という祖母の子孫がこのモルモン書によって改宗し、その後モルモン書のメッセージを人々に伝えてきたとお伝えいただけませんか。」

わたしはその署名入りのモルモン書をステーブラー長老に渡しました。わたしがそれをどこでどのように手に入れたかを説明するのを、彼は熱心に聞いていました。彼は自分の署名を静かに確認して、言いました。「今日はわたしの人生で最良の日です。」

わたしはモルモン書が人々の人生を変えることを証します。それはまさにイエス・キリストについてのもう一つの証

なのです。

【場面が変わり、モンソン副管長はクモラの丘から話す】

➤ クモラの丘に立ち、1827年9月22日に始まった重要な出来事を回想することは、何という特権でしょうか。農家の少年預言者が、夜の闇の中を荷馬車に乗ってこの丘に来て、天使モロナイから古代の記録を受け取りました。驚くほど短い期間に、この無学な若者は1,000年の歴史が詳しく述べられた記録を翻訳し、モルモン書の出版に備えました。

ジョセフ・スミスが歩んだ道は途方もない努力と、卑劣な批判を抜きには考えられません。しかしジョセフは弱るこ

とも、ひるむことはありませんでした。後に彼はこう言っています。「しかし、わたしが求められたことをそれらによって成し遂げるまで、[その版]は神の知恵によって、わたしの手の中で無事であった。そして、前もって定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。」(ジョセフ・スミス—歴史1:60)

神の園にあるこの美しい場所は、文字どおり何百万人もの訪問者を引きつけています。彼らのほとんどはクモラの丘での野外劇を見にやって来ます。好奇心から訪れる人々もいます。そして主の御霊に触れて帰って行くのです。

モルモン書はイエス・キリストについての新しい証です。そのメッセージは全世界へ広められ、読む者を真理の知

クモラの丘から語るモンソン副管長。



識へと導きます。それはいにしへのヨブの言葉に代表される、すべての人が抱く深遠な疑問に答えてくれます。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」(ヨブ14:14)

何年も前のことですが、わたしはこの世の生涯を終えようとしていたロバート・ウィリアムズという若い男性の病床に呼ばれました。傍らには奥さんと二人の子どもたちが立っていました。わたしたちは皆、強くあろうと努めました。目には涙があふれていました。ロバートはわたしに尋ねました。「死んだらわたしの霊はどこへ行くのでしょうか。」わたしは静かに祈りました。そしてベッドのわきのテーブルに末日聖典の合本があるのに気づきました。わたしはその本を手に取り、バラバラとページを繰りました。

わたしは、あえて探そうとしたわけではないのに、モルモン書のアルマ書第40章を開けていることに、ふと気づきました。わたしはその箇所をロバートに読んであげました。「見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。

そして、義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。」(アルマ40:11-12)

わたしが復活について読み進めていると、ロバートの顔が輝き、口もとにはほほえみが浮かび、彼の疲れて病んだ

体は眠りに落ちました。わたしは奥さんと子どもたちに別れを告げました。次に彼らと会ったのは、ロバート・ウィリアムズの葬儀においてでした。こうした大切な思い出の数々を回想していると、わたしはしばしば一人の若い男性が真理を求め、自分の質問への答えをモルモン書から得た、あの夜のことを思い出します。

それを読んだのはわたしでしたが、そのページを開いてくださったのは神でした。そうです、天の御父は御心になられたときに御心になられた方法で、祈りにこたえてくださるのです。わたしは使徒として証します。イエスは世の救い主です。預言者ジョセフ・スミスは主と主の御父の訪れを受け、この時満ちる神権時代が到来しました。イエス・

キリストの聖なる御名により宣言します。アーメン。

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

こが聖なる森です。この神聖な地は、世界中の末日聖徒からあがめられています。全地に広がっているこの大なる業の奇跡は、すべてここから始まりました。ここは最初の示現の舞台です。永遠の父なる神が、復活された主、御子イエス・キリストとともに御姿を現されたのはここでした。御父は御子を指して言われました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」(ジョセフ・スミス—歴史1:17)

聖なる森から語るヒンクレー大管長。



この宣言がどれほど重要であるかお分かりになるでしょうか。永遠の御父、全能者である神が、はっきりとした言葉で証を述べられたのです。復活された主について、主御自身の御父によるこの証ほどに重要で力強い証がなされたことはありません。

こうして、何世紀にもわたって閉ざされていた幕が開かれました。新たな栄えある福音の神権時代が始まり、さらにほかの驚くべき啓示が与えられました。地から叫ぶ者の声のように、イエス・キリストのもう一つの証が世に現れました。主が当時の使徒たちにお授けになった聖なる神権が、すでに復活していた同じ使徒たちにより、地上の人間に授けられました。続いて、真の証

人が数多く訪れました。彼らは、イエスが地上を歩まれた時代に御自身の手で設立された教会を完全に回復するための鍵と力を持っていました。その教会は現在、末日聖徒イエス・キリスト教会として知られるに至っています。

まさにこの場所で、背教の長い夜は終わりを告げ、新たな時代が栄光に満ちた夜明けを迎えたのです。神御自身が御姿を現し、語られたのです。ここで、わたしたちが立っている静かな木立で、この最も聖なる場所で、神の属性が再び明らかにされたのです。

ここで偏見のない聡明な少年にその啓示が与えられることになり、後にさらに多くの啓示が与えられました。ジョセフ・スミスから数えて15代目の後継者と

して、彼にかけられた預言者の外套がいとうを着る者として、わたしは、これらの出来事に関する預言者ジョセフの言葉が真実であり、御父がここで御子の神性について証をなされ、御子が少年預言者を教え導かれたこと、そして「主なるわたしが……心から喜んでいる」「全地の面に唯一まことの生ける教会」(教義と聖約1:30)が組織されるに至った一連の出来事が続いたことを厳粛に宣言いたします。

生ける神と、わたしたちの贖い主である御子が実在し、人格を持った御方であられることを、厳かに、敬虔けいけんに証します。これらを聖霊の力により、イエス・キリストの聖なる御名によって申し上げます。アーメン。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

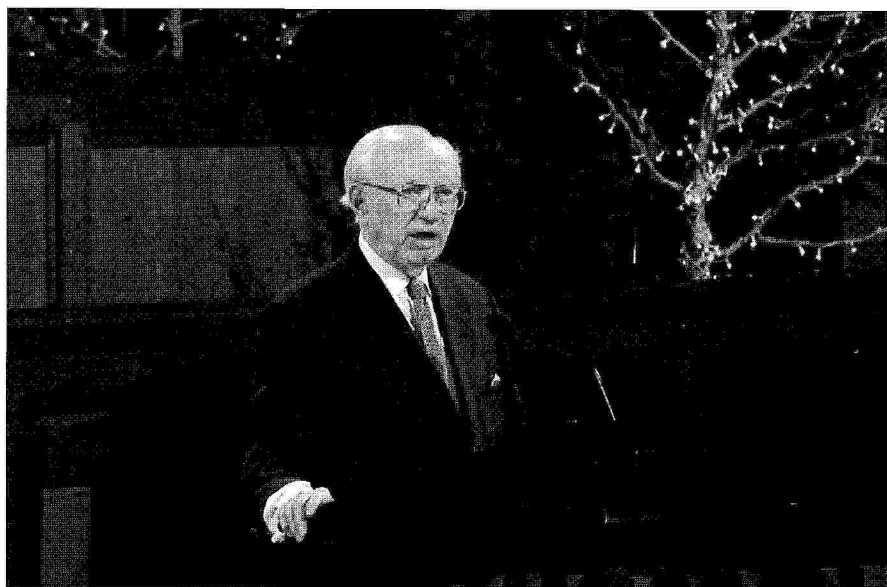
主であり救い主であるイエス・キリストに対するわたしの愛がお分かりいただけるでしょうか。主より託された靈感あふれる務め、そして主の神聖な愛は、わたしたちをこの業へと駆り立てます。わたしは中央幹部の兄弟たちを愛しています。皆忠実で、あらゆる召しに躊躇ちゆうちよせずにごたえてくれます。彼らは主イエス・キリストの真の弟子です。

主の神聖な御名を受けたこの教会の頭として立っておられるのは、主イエス・キ

リストです。主がこの教会を見守り、導いておられます。御父の右手に立っておられる主が、この業を指導されます。主から権能を授けられた主の使徒として一つとなって、わたしたちは、主が生きておられ、御自分の王国を要求して王の王、主の主として統治するために再びおいでになることを証します。これは確かです。使徒として、イエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。□



大管長会クリスマスディボーションナル



大管長会クリスマスディボーションナルで、会員に向けて語るヒンクレー大管長。
これは、新しいカンファレンスセンターで開かれた最初のクリスマスディボーションナルとなった。

写真/ジェド・クラーク

チャーチ・ニュース

2000年12月3日、恒例の大管長会クリスマスディボーションナルにおいて、大管長会はクリスマスの意義について語った。これは、カンファレンスセンターで開かれた最初のクリスマスディボーションナルであり、テンプルスクウェア・オーケストラがタバナクル合唱団と聴衆のために伴奏をした最初のクリスマスディボーションナルともなった。

最後の話者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長は、聴衆がすばらしいクリスマスを過ごせるように願うとともに、自分たちが「主イエス・キリストに敬意を表すために」集まっていることを思い起こすように、と語った。「その生涯と死は一人一人に多大な影響を及ぼしています。この集会はすべての者の主、全能者、制圧された国のひどい環境の中でへりくだって、馬屋でお生まれになった御方への祈りと歌、そしてお話の集いです。」

ヒンクレー大管長はわたしたちが時満ちる時代に生きていることを説明するとともに、聴衆に対して、「満ちる」(fulness)という言葉に特別な注意を払うよう求め、こう語った。「『時満ちる』とは、過去の良いことがすべて合わさってこの最後の神権時代に回復されるということを意味します。」

大管長はまた、多くの教会員が享受している自由に感謝していることを告げた。「この自由という貴重な恵みは、実は人間の尊厳を説く主の教えか

らもたらされたものなのです。主は、人は皆、貴重な存在であると説かれました。わたしたちは詩篇の作者とともにこう歌い上げます。『主をおのが神とする国はさいわいである。』(詩篇33:12)わたしは人類の自由と解放はキリストの教えの輝かしい実りであると信じます。パウロはコリント人にこう語っています。『そして、主の霊のあるところには自由がある。』(2コリント3:17)」

さらにヒンクレー大管長は、クリスマスの時期にわたしたちがその誕生を祝う救い主について次のように語った。

「すべてが終わり、過去の事柄がすべて明らかにされる時、人から人に対する無慈悲な有様^{ありさま}が記録される時、そして、神が御自身の子らに注がれる偉大な愛が測られる時、^{あがな}他を抑えてお立ちになるのは御一方だけ、世の贖い主、人類の救い主、生ける神の生ける御子、平和の君、そして聖者であるイエス・キリストなのです。

主が降誕される数世紀前、イザヤはこう語りました。『ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる義士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。』(イザヤ9:6)……

主は御父の指示の下、地球を創造なさいました。

ヨハネがこう記しています。『できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。』(ヨハネ1:3)主こそ古代の預言者たちが語っていた大いなるエホバなのです。

主は時の中間に、つましみどりごととして地上に來られました。これはわたしたちにとってクリスマスの贈り物です。わたしたちにイースターという奇跡をもたらしてくださる『復活と命』なのです。そしてこの最も輝かしい神権時代に、全能のエロヒムであり、宇宙の神である御父から少年ジョセフ・スミスに紹介されたのが、この主でした。そしてこの同じジョセフは、地球の歴史のこの時代において神の存在を証する傑出した証人となったのです。』

ヒンクレイ大管長は、かつて訪れたことのある聖なる森について語った。そして、預言者ジョセフ・スミスによって述

べられた証を引用した後、以前にヒンクレイ大管長自身が作詞し、賛美歌(『賛美歌』73番)に曲とともに収められた証、すなわち、「贖いの主」は生きておられる、という証で話を結んだ。

トーマス・S・モンソン第一副管長とジェームズ・E・ファウスト第二副管長もまた、聴衆に向かって、救い主の誕生とクリスマスの精神について語った。

モンソン副管長はこう話した。「いつの時代にあっても、イエスからのメッセージは同じです。主は美しいガリラヤの湖畔で、ベテロに言われました。『わたしについてきなさい。』また、昔のピリポに告げられました。『わたしに従ってきなさい。』取税所に座っていたレビ人を招かれました。『わたしに従ってきなさい。』そしてわたしたちも聞く耳を持つならば、同じ言葉で招かれるでしょう。『わたしに従ってきなさい』と。今日、主の模範

に従って歩むとき、わたしたちにも人々の生活を祝福する機会が訪れます。』

ファウスト副管長はこう述べた。「わたしは、最も善いことを実践するためにどうしてクリスマスまで待たなければならないのか、不思議に思うことがあります。両親は子どもたちに対して、1年365日、同じ愛を持ち続けています。わたしたちは、日々、神の王国において、皆、めであり、おいであり、おじであり、おばであり、いとこであり、友であり、兄弟姉妹なのです。わたしは、わたしたちが毎日、心をもう少し広くするように努め、クリスマスの季節まで待つことがないよう、願っています。贈り物や親切な行為は、12月より7月の方が、思いがけない分、感謝されるかもしれないのです。』□

ノーブー神殿——過去を現在に呼び戻す

R・スコット・ロイド

イリノイ州ノーブー神殿の新築工事は、現在、神殿の外壁とバプテスマフォントで使用する石材に手の込んだ装飾を施しており、その技能と質的な水準を維持するために多大な労力を費やしている。これは石材の入手、加工、装飾作業を調整するために召された担当者の談話である。

「ミシシッピ川の岸辺に最初に神殿を建設した人々を追悼するものになるでしょう」(「主の祝福への感謝」『リアホナ』1999年7月号、106)とゴードン・B・ヒンクレイ大管長が宣言した神殿で奉仕する宣教師が召されている。キース・P・マッケイ長老とカーマ・マッケイ姉妹は、最初に召された宣教師の一員である。

「1841年、ノーブー神殿に太陽の石と月の石、星の石を据えつけるために、当時の合衆国全土からやって来た彫刻家が雇われました」とマッケイ長老は語る。マッケイ長老は、ユタ州に本社を置き、ユタ州マンタイ神殿を含む多くの著名な建物の回復工事を実施する事業を

営んでいる。

最初のノーブー神殿建設に尽力した人々が残してくれた遺産を忠実に踏襲するため、マッケイ長老はカナダ、ペンシルベニア、インディアナ、アイダホ、ユタから専門の職人を雇って、1840年代の神殿の外装とバプテスマフォントにあった建築上の特徴を再現する工事を実施している。

「わたしの知るかぎり、合衆国とカナダで探し得る最も優れた彫刻家が作業を進めています」とマッケイ長老は語る。彼らのうち、教会員はわずかしかないが、2002年に予

定されている神殿のオープンハウスには全員が招待されている。「彼らはその日をとても楽しみにしています。」

マッケイ長老の話によると、プロジェクトのあらゆる面で神の導きが表れている。神殿のコンクリート壁の表面を覆うために使用される石灰岩の石材を選ぶ最初の段階においても導かれていたこと



このような太陽の石のグラスファイバー製モデルを基にして最高水準の技術を持つ彫刻家が製作に当たっている。
写真/ジェイソン・オルソン、「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載。

ヒュー・W・ピノック長老、66歳で逝去

七十人第一定員会会員のヒュー・W・ピノック長老が、短期間の闘病を経て、2000年12月15日にその生涯を閉じた。享年66歳であった。

2000年12月20日にテンプルスクウェアのアセンブリーホールで行われた葬儀では、大管長会の3人がそれぞれ弔辞を述べた。大管長会は遺族に哀悼の意を表し、ピノック長老の功績をたたえ、偉大な指導者の死を惜しんだ。

ヒュー・W・ピノック長老は1977年10月1日、七十人第一定員会会員に召された。亡くなったとき、ピノック長老は北アメリカ南西地域会長会第二副会長の任にあった。

ピノック長老は教会において様々な分野で務めを果たした。専任宣教師として、西部諸州伝道部の第二副伝道部長



ヒュー・W・ピノック長老

の責任を果たしたほか、高等評議員、監督、伝道部長、地区代表を務め、また神権指導者委員会をはじめとする教会の各種中央委員会に加わる一方、賛美歌委員会のアドバイザーも務めた。中央日曜学校会長を2度務め、七十人会長会員の責任も果たした。

ピノック長老は、ユタ大学で経営学の学士号を取得した。またウエストミンスター・カレッジとソルトレーク・コミュニティ・カレッジから名誉博士号を授与された。グラナイト学区の教育委員会の一員として、またビジネスや地域奉仕の委員会や理事会の一員として務めを果たした。

ヒュー・W・ピノック長老は1934年1月15日、ソルトレーク・シティに生まれた。アン・ホーキンスと結婚し、6人の子どもと21人の孫に恵まれた。□

いる。

復元に当たっての問題点

太陽と月と星の石を複製することがもう一つの難題だった。旧神殿の太陽の石のうち二つはほとんど無傷で残存していることが分かっていた。一つはワシントンD.C.のスミソニアン博物館が所有して、展示しており、もう一つはノーブーの訪問者センターに置かれている。参考にすることはできても、これら二つの石を現場に運んで、見本として使うことはできなかった。

しかし、神殿が復元されるというニュースが広まると、旧神殿の石の破片から、建物の貴重な写真に至るまで小さな奇跡が次々と起こったのである。「これを持っている、あれを持っている、もしかしたら役に立つのではないかと人々が次から次へとやって来ました」とマッケイ長老は語る。

一例を挙げると、ある人は骨董屋から手に入れたという太陽の石の大きな破片を提供した。その石には太陽の顔の上部に施された精巧なラッパの装飾が残っていた。デザイナーたちは、写真を基に粘土を使って、欠けてなくなった鼻の部分を含む太陽の石の欠落部分を製作した。そして、完成した粘土にラテックスで28回のコーティングを行った。冷

が明らかである。当初、計画担当者は旧神殿で使用された石材を産出したノーブー周辺地域の採石場から調達することを考えていた。しかし、ノーブー南部にダムが建設されたために、1840年当時よりもミシシッピ川の水位が上昇し、二つの大きな採石場は水没していた。周辺の採石場でドリルのテストが行われたが、石灰岩が発破により大きく砕けてしまい、使用できないことが分かった。

石材の選択

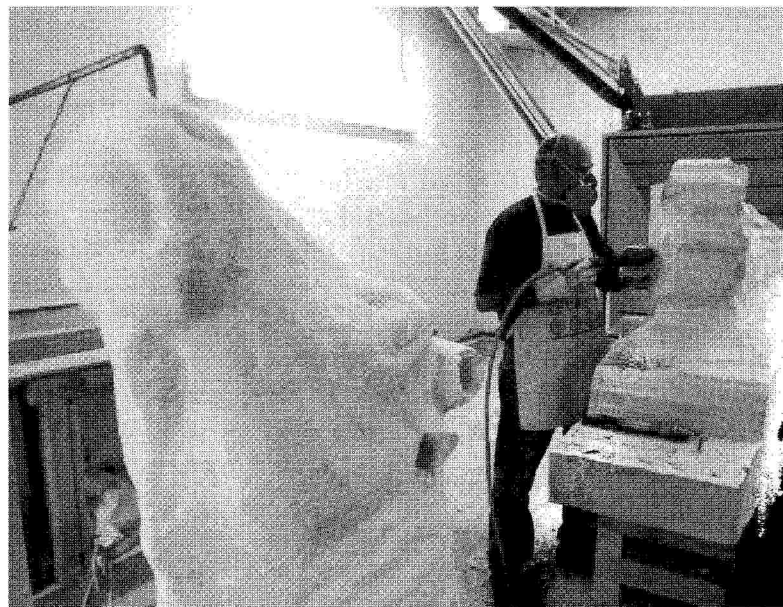
石材は最終的に専門業者の情報網を通じて見つけれられたものが選ばれた。マッケイ長老の友人であるテッド・オーチャードはカンファレンスセンターで使用されたかこう岩を採石した会社のオーナーである。オーチャード兄弟はアラバマの石灰岩採石場を購入した別の州の会社のオーナーと懇意にしていた。

マッケイ長老は当時を思い出して、このように語る。「そのオーナーがテッドに電話して、この石を売りたいと言ってき

ました。テッドはノーブー神殿の建築が始まることを耳にしていました。そこでわたしに電話をかけてきて、とにかくその石を見ておいた方がよいと言いました。」

マッケイ長老はプロジェクト責任者のロナルド・プリンスとともにその採石場を訪れた。驚いたことに、その石灰岩は旧神殿で使われていた石材と見分けがつかないほど酷似していたのである。

「二つの〔破片〕を並べてみると、岩面を走っている黒い層まで完全に一致していました」とマッケイ長老は述べて



写真/ジェイソン・オルソン、(チャーチニュース、Church News)の厚意により提供

却後、ラテックスをはがして、型を作り、それからグラスファイバー製モデルが製作された。このようにして、彫刻家が使う太陽と月と星の石のモデルが完成したのである。

神殿の基礎と外壁部分を構成する石灰岩ブロックの表面処理にはもう一つの小さな奇跡がからんでいる。作業員が旧神殿の敷地を掘り起こしているときに、二つの石を発見した。それらの石によって、かつて使用されていた建物の表面の模様

が明らかになったのである。一つは竪目模様、もう一つは垂直線が平行に並んだ溝の模様が施されていた。

以前の神殿で使用されていた石灰岩ブロックは、末日聖徒が脱出した直後に建設された小規模の牢獄などの数多くの建物で使われていたが、この新たな発掘品のように竪目模様や垂直の溝模様を持つブロックは発見されていなかった。新たに発見されたブロックはマッケイ長老とスタッフにとって、新しい神殿のブ

ロックに彫刻を施すために必要とされていた模様の原型となったのである。

これらの小さな奇跡と、さらに小さなのみや圧搾空気で作動する小さな削岩ハンマーを扱う職人を探し出すという奇跡が重なって、1840年代に主の聖約の民が建てた主の宮、ノーブー神殿を忠実に再現する作業が続けられている。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2000年12月2日付け記事より掲載。

証人となる若い女性

ジュリー・A・ドックスターダー

次のような光景を想像できるだろうか。55万人の若い女性が「主は生けりと知る」(『賛美歌』75番)を合唱し、イエス・キリストの証人として立ち上がり、音楽、朗読、手工芸品などを用いて証を述べている、そんな勇壮な光景である。これは、1年を通して行われた若い女性世界の祭典を締めくくるに当たって、2000年11月に実現した出来事である。この活動に足を運んだ大勢の若い女性たちは、集う部屋はおろか、国さえもそれぞれ異なっていたが、心は皆一つとなっていた。教会の様々なステーク、地方部において、家族や指導者とともに集まり、昨年1年間、イエス・キリストとキリストの福音についての証人として、自分たちがどのように強められたかを発表した。また、1年を通じて行われた祭典のテーマ「証人になる」ことを実践することで、どのように自分の家族を強め、また地域社会や国家にどのように貢献したかについても発表した。

中央若い女性会長であるマーガレット・D・ナドール姉妹は次のように語る。「世界中の少女たちが合唱し、音楽やそのほかの独創的な方法によって、降誕2000年を祝う年に、救い主の生涯と使命について証している場面を想像するだけで、胸の高鳴る思いです。」

この世界の祭典は通常3年ごとに行われる。前回は1998年に開かれたが、救い主の降誕2000年を祝う目的で特例として開催されることになった。



カナダ、ケベック州モントリオールの若い女性。

(左から) 双子のジョバンナ・ルシットーとフィロミナ・ルシットー、レベッカ・コフマン、マリー・ナディア・ニームワンベラキュール、ターニャ・アシュビー。
写真：ジュリー・A・ドックスターダー、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

以下は、若人たちが証を述べ、戒めを守り、良い模範を示し、ほかの人々に奉仕することを通して、どのように証人となったかを紹介する記事である。

カナダ、ケベック州モントリオール

証人となることは家庭から始まる。これを示す良い例は、ケベック州モントリオール・マウント・ロワイヤルステーク、ラサルワードのターニャ・アシュビー姉妹(16歳)である。ターニャの母親は、ターニャが3歳のときに教会に入ったが、何年もの間教会にあまり活発ではなかった。そして、ターニャが12歳くらいのとき、根気強いホームティーチャーの訪問を受けた。彼には、セミナーを始めたばかりのレベッカ・コフマン姉妹という娘がいた。ターニャは当時を次のように振り返る。「ホームティーチャーは、わたしたちが教会に集わなくてもうちに来ました。すると、突然わたしは[教会に]行きたく

なりました。そして、セミナーに行くことを母に告げました。次の日曜日、わたしは教会へ行きました。それ以来、毎週行っています。教会の中に入ったとき、自分の居場所はここだと感じました。」

アメリカ、カリフォルニア州ロサンゼルス

カリフォルニア州ロサンゼルスステーク、ロサンゼルス第2ワード(韓国語ワード)のグロリア・パク姉妹(15歳)は、家族と教会員以外の人々にも手を差し伸べることを信条としている。クレセントバレー高校に通い、全科目で最高のA段階評価を得るこの高校生は、毎週パーデュゴヒルズ病院でボランティアをしている。彼女が受け持つ仕事は、患者の食事の配膳、検査室へのサンプルの提出、病院の食堂のレジ係、患者の転院、退院の手伝いなどである。

パク姉妹はこのように語る。「これは良い経験となっています。地域社会で

手助けをすることにより模範を示せます。つまり、報いを求めずに地域社会に貢献できることを、ほかの人々に示すことになるのです。」

ナミビア、ウイントフーク

若い女性プログラムは、アフリカに住む若い女性たちの中に一致の精神と受け入れる心をはぐくんでいる。例えば、南アフリカ・ケープタウン伝道部に属するナミビア・ウイントフーク支部のウォンバ・マクワ姉妹は、次のようにつぶっている。

「わたしは確かな知識として、天父が生きていて、わたしたち一人一人を愛してくださっていることを知っています。イエス・キリストの贖いに感謝しています。モルモン書が真実であると知っていますし、信じています。若い女性として活動することが大好きなので、これから若い女性たちとともに過ごす時間がなくなるのをほんとうに寂しく思います。わたしはもうすぐ扶助協会に入る予定です。

神殿で家族との結び固めを受けられたこと、そして死者のためのバプテスマを受ける機会が与えられていることに感謝します。いつか神殿に入り、そこで結婚し、新しい家族に結び固められる日を心待ちにしています。福音によってわたしはさらに向上できるようになります。誘惑を避ける助けとなっているのです。」

南アフリカ、ヨハネスバーグ

南アフリカ・ヨハネスバーグステーキからの報告の中で、若い女性会長であるメアリー・アン・カサノバ姉妹が、昨年開かれた若い女性キャンプなど様々な活動についてこのようにつぶっている。「2000年は、青少年に大きな成長が見られ、ステーキ内の人数は著しく増えました。ステーキの若い女性キャンプの雰囲気は最高でした。ヨハネスバーグ地区のキャンプは、スイカーボスランドという

美しいキャンプ場で行われました。朝5時半にみんなで山を登り始めたときは、肌を刺すような寒さでした。歩きながら、わたしたちは神の創造の業の美しさとすばらしさについて考えました。頂上に着くと、各ワードの会員が愛を込めて若い女性一人一人のために作ってくれた朝食の弁当を食べました。姉妹たちの間にある愛は、ほんとうに強いものでした。」

締めくくりの活動として、若い女性たちはカンタータを発表した。彼女たちは賛美歌を歌い、証を述べ、詩を朗読し、霊的な経験を話した。

カナダ、アルバータ州カードストーン

アルバータ州カードストーンステーキ、カードストーン第6ワードの若い女性たちは昨年1月、西暦2000年の1年間で合計2,000人分の神殿儀式を、死者のためのバプテスマ、確認の儀式、あるいはワードの大人たちがエンダウメントや結び固めを受けられるように無償でベビーシッターをすることで達成するという目標を立てた。

2000年1月25日に開かれた新年度セミナーで、若い女性たちは神殿に参入するふさわしさを保つことで「証人になる」というテーマを尊ぶように勧められた。ワードのビーハイブアドバイザーを務めるジャン・ブラカ姉妹は、当初、この目標が高すぎたのではないかと心配したと言う。しかし昨年8月、期限である、若い女性世界の祭典が行われる11月よりも3か月早く目標は達成された。ブラカ姉妹は、第6ワードの若い女性たちが現在達成している儀式の数は、2,500以上に上ると推定する。

若い女性たちの間に強いきずなが結ばれたことについてブラカ姉妹は次のように語る。「ほんとうに驚きです。この神殿の目標によるものとしか言いようが



活動に参加する南アフリカ、ヨハネスバーグの青少年たち。
写真：アフリカ南東地域の厚意により掲載。

ありません。」

アルバータ州カードストーン西ステーキのカードストーン第2ワードと第8ワードの若い女性たちも2,000以上の神殿儀式を達成している。

第2ワード若い女性会長のスーシェー・アトウッド姉妹は、ワードの26人の若い女性たちについてこのように話す。「彼女たちは神殿に行くのが大好きです。今年は特に、できるだけ頻繁に入ろうと固く決意していました。」

15歳のキム・バドネスは、神殿の中に入ったときに感じる気持ちが好きだと言う。「天父を身近に感じる事ができるのはとても[すばらしい]ことです。」

アトウッド姉妹は、神殿参入によって子どもたちの生活のほかの部分にも影響が及ぶと語っている。「個人の進歩プログラムにもっと熱心に取り組むようになりました。彼女たちは、神殿推薦状を得たいと願っています。神殿で主の御霊を認識し、それを生活の中でも感じたいと望んでいます。」

12歳のヘザー・ハリス姉妹は、神殿で御霊を感じる事が好きである。「神殿に行くことで霊が高められ、頻繁に行きたいと思うようになります。」□

「チャーチニュース」(Church News)2000年12月2日付けの記事を基に編集。

この記事はサラ・ジェーン・ウィーバーの協力により書かれた。

ハワイの教会活動150周年記念行事

2000年12月9日、年間を通じて行われたハワイにおける教会活動150周年(1850-2000年)を祝う記念行事の締めくくりとして、4時間に及ぶハワイア

ン音楽とダンスの夕べが開かれた。会場となったプリガム・ヤング大学(BYU)ハワイ校のキャンボン・アクティビティーズセンターには1,000人以上が詰めかけた。

観客が「ホイケ」(ハワイ語で「祝い事を見る」という意)のために建物に入ると、ハワイ語の歓迎の歌が聞こえてきた。歌っていたのは、BYUハワイ校のハワイ

民族学ディレクターのウィリアム・カワイ
ウィラカラニ・ウォレス3世と、ポリネシ
ア文化センターでカルチュラルアイラン
ズのディレクターを務める、ウォレス3
世のいとこのサイ・ミノアカ・ブリッジ
である。この歌は、今回の特別行事の
ためにブリッジ兄弟が作った。また、
BYUハワイ校の学生と地域住民で構成
する舞踊団も、訪れた人々を踊りで歓迎
した。

ハワイにおける末日聖徒の音楽の創
始者であるジェノア・ケアウェ姉妹が出
演したとき、このプログラムはクライマ
ックスを迎えた。彼女は82歳の今も、
現役のプロとして音楽活動を続けてい
る。ケアウェ姉妹は12月16日に行われ
たBYUハワイ校の卒業式で生涯功労賞
を受けた。

ハワイに住む会員たちは150周年を記
念するこの1年間、地域奉仕、家族歴
史フェアの主催、文化祭や聖歌隊コン
サートの開催、特別記念ファイヤサイド、
ハワイの教会歴史をテーマにした野外劇
の上演などを行った。1年に及ぶ記念行
事は、2000年1月23日、ゴードン・B・
シンクレイ大管長がハワイ州コナ神殿を奉
献したときを皮切りに行われた。

七十人で北アメリカ西地域会長会
長のジョン・B・ディクソン長老は次のよ
うに述べている。「ハワイの聖徒たち
には、福音が回復された初期の時代から、
教会の奉仕に携わるといすばらしい受
け継ぎがあります。福音は彼らの生活に
多大な影響を及ぼしています。彼らは非
常に忠実な人々であり、この150周年記
念行事を祝えることは彼らにとって非常
に喜ばしいことです。ハワイの聖徒たち
と、彼らが教会全体に及ぼした多大な
影響力に感謝しています。」

11月25日、ディクソン長老が述べた
影響力の一端を担った約500人が、その
当時働きを共にしたライエ神殿の奉仕者
との親睦会に集合した。ライエ神殿は、
建築後80年以上たっており、北アメリ
カ大陸のアメリカ合衆国外に建てられた
最初の神殿である。その当時働きを共
にしたライエ神殿の奉仕者との親睦会
は4時間にわたって行われ、BYUハワイ校
のキャンパス内のキャノン・アクティビテ

モルモン書の地名と イエメン遺跡の 関連が発見される

先ごろ、末日聖徒の研究者のグル
ープは、アラビア半島南西端のイ
エメンにおける遺跡と、モルモン書の
リーハイの旅で記されている地名の関連を
裏付ける証拠を発見した。

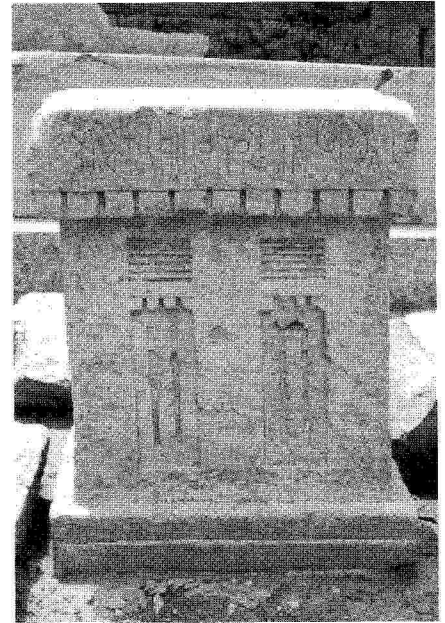
ウォレン・アストン、リン・ヒルトン、
グレゴリー・ウィットは、石でできた二つ
の祭壇を発見した。考古学の専門家た
ちは、これらの祭壇が少なくとも紀元前
700年以前に作られたと推測している。
祭壇には、「ネホム」という地がリーハイ
の時代以前に実在していたことを確証す
る文字が刻まれており、モルモン書の中
の「イシマエルが死んで、ネホムという
所に葬られた」(1ニーファイ16:34)とい
う一節に登場する地名と一致する。

ウィット兄弟によれば、エルサレムと
紅海以外で、モルモン書の地名を裏づ

キーズセンターで行われた。現在神殿で
奉仕している人々たちは、数十年前に
奉仕していた人々や、子どものころ、
1919年の最初の神殿奉献式に列席した
人々など、様々な先輩との交流を深めた。

150周年記念ファイヤサイドでのウイ
リアム・カワイウィラカラニ・ウォレス3世
の話によれば、1850年12月12日、最初
の末日聖徒の宣教師がホノルルに到着
した。ハイラム・クラーク伝道部長、ヘ
ンリー・ビグラー長老、ハイラム・ブラ
クウェル長老、ジョージ・Q・キャノン長
老、ジョン・ディクソン長老、ウィリア
ム・ファーラー長老、ジェームズ・ホー
キングス長老、ジェームズ・キラー長老、
トーマス・モーリス長老、トーマス・ホイ
ットル長老の10人である。ウォレス兄弟
の説明では、「1850年12月13日、これら
の長老たちはクラーク伝道部長の指揮の
下で、ホノルルを見下ろす丘の頂上へ
登り、石の祭壇を築き、全員で祈り、こ
の地を神の聖なる大義のために奉献し
た」という。

ける考古学上の発見は、これが初めて
である。□



この古代の祭壇に「ネホム」という文字が
刻まれている。

写真/リーハイストレイル基金の厚意により掲載。

ウォレス兄弟は、宣教師たちがハワイ
語の習得を含め、大変な困難を経験し
たことについて話した。1851年8月、数
人の宣教師が帰還した後もキャノン長老
とキラー長老は残り、ハワイにおける
最初の教会支部を組織した。その数年
後、モルモン書のハワイ語版(*Ka Buke
a Moramona*)の翻訳が完成したとい
うことである。

ハワイで伝道した宣教師の中で最も
知られている人は、ハイラム・スミスの
息子で預言者ジョセフのおいである、当
時15歳のジョセフ・F・スミスであると思
われる。1854年に到着したジョセフ・
F・スミスは、ハワイ諸島で3年間働き、
マウイ島、ハワイ島、モロカイ島で伝道
地域を管理する責任を受けた。その後、
合計3回にわたってハワイで伝道し、後
に教会の大管長となった。□

「チャーチニュース」(*Church News*)、2000
年12月16日付けの記事より掲載。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2001年4月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2001年4月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」4-5ページ「よげんしゃの声に耳をかたむける」を参照する。

1.「何の歌でしょう」というゲームをする。紙で大きな音符を作り、その音符の裏にそれぞれ歌や賛美歌の番号を書く。音符を床の上に並べる。子どもたちにお手玉を音符の上に投げさせる。お手玉が乗った音符に書かれた番号をオルガニストに告げ、その歌の最初の2、3音を弾いてもらう。もしオルガンやピアノがなければ、ハミングでもよい。子どもたちにどの歌が当てさせる。子どもたちに対し、この歌が教えている内容は、最近の総大会で預言者から伝えられた

メッセージであることを話す。そのメッセージが何か尋ねる。メッセージを言い当てた子どもに、今週預言者に従うために何ができるか言わせる。そしてその子どもに、この歌の指揮を手伝わせる。

2.部屋の前方にシーツか毛布を掲げる。その背後に神権者一人に立ってもらう。一人の子どもにその前に立たせる。神権者には、聖句が特別なメッセージをその子どもにささやいてもらう。それからその子どもにメッセージを初等協会全員に伝えさせる。これは主がわたしたちにお語りになる方法の一つであると説明する。預言者が主の代わりに語るように、子どもは神権者に代わって語った。預言者の勧告に従ったおかげで祝福された経験を神権者に語ってもらい、子どもたちに向けて証を述べてもらうよう依頼する。

3.教義と聖約第1章38節の一部を子どもたちが暗記できるよう助ける。この聖句は、天父がその僕である預言者を

通してわたしたちに語られることを教えていると説明する。預言者がわたしたちに教えるときは常に、天父がわたしたちに話されているのと同じことを表す。

子どもたちを4つのグループに分ける。最初のグループには「最初の示現」の絵を渡し、グループが「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって」と繰り返すとき、一人の子どもにその絵を高く掲げさせる。ほかの3つのグループにも同じ事をさせる。2番目のグループの絵——「モーセと燃えるしば」の絵。聖句からのフレーズ「わたし自身の声によろうと」。3番目のグループの絵——ヒンクレイ大管長。聖句からのフレーズ「わたしの僕たちの声によろうと」。4番目のグループの絵——大きなイコールの記号。聖句のフレーズ「それは同じである」。すべての子どもがその聖句を暗記するまで、各フレーズを繰り返す。□

特集

社 会 に 知 ら れ ゆ く 教 会

写真で見える 日本教会100年史

特別編3

岩倉具視と岩倉使節団の ソルトレーク・シティー訪問

●明治新政府は「知識を世界に求め……」るためと、不平等な通商条約改正を目指して、右大臣・岩倉具視を特命全権大使とし、参議・木戸孝允・大蔵卿・大久保利通、工部大輔・伊藤博文、外務少輔・山口尚芳、ほか随行員や男女留学生を含め100人余りの一団を1871年(明治4年)12月23日、公式にチャールズ・デロング駐日米国公使とともに横浜から出港させた。彼らは翌年1872年1月15日にサンフランシスコに

日本近代史に影響を与えた末日聖徒たち

到着し、2週間ほどの後、東部に向かって出発した。

当時、ユタ州はまだ州として認められてはおらず準州という扱いであった。しかし、ソルトレークの北に位置するオグデンは大陸横断鉄道の要所であり、使節団はここで汽車を乗り換える必要があった。日本の最高官吏の一団の訪問に対し、教会の幹部指導者はソルトレーク・シティーからオグデンに赴き丁寧に歓迎した。

2月4日にオグデンに到着した岩倉使節団は、ソルトレーク・シティー市民の代表団に会った。オグデンを乗り換え地点として東へ向かう予定であった一団は、ロッキー山脈の大雪のため、ソルトレークでの予定以上の滞在を余儀なくされた。2月1日付けの『ソルトレーク・デイリー・ヘラルド』



岩倉具視は、末日聖徒が荒野を開拓し、25年足らずで美しい街ソルトレーク・シティーを建設したことを知っていたので、市内を視察することを望んでいた。

には「日本人たちがソルトレーク・シティーを訪問する」という社説で使節団について簡単な説明をし、 sacramentでの歓迎は充分ではなかったと記されている。当時教会に敵対する報道機関からの圧力が大きくなっている中であって、日本の国家を代表する一団を迎えることはソルトレーク・シティーの教会指導者たちにとっては、教会のイメージを回復するのに絶好の機会であった。それは西部の開拓地で文明化されていないと思われ、アメリカ人でもない誤解されていた末日聖徒の印象を翻し、ほんとうの姿を知ってもらう好機となった。

使節団は当時のソルトレーク市長でもあり、教会の大会長の一人でもあったダニエル・H・ウェルズから正式に歓迎を受け、約1時間の歓迎式典の後、使節団の主要メンバーは市内を視察した。音響効果の見事なタバナクルの建物を見学し、荘厳なパイプオルガンの演奏を聞き、ソルトレーク神

殿の建設現場を視察した。温泉や鉱山や学校も案内され、鉱山で大けがをした鉱夫の足を切断する外科の手術まで見学した。使節団の一行は、多くのことに驚嘆し、新生日本の指導者として様々なことを学び取った。結局ソルトレーク・シティーでの滞在は2週間以上となり、使節団のメンバーは分散して幾つかの教会へ案内され、3回の安息日を経験し聖餐会などの集会に出席した。また、ブリガム・ヤング大管長との面会を希望していた使節団は、デロング公使とともに2月6日、8日、14日にブリガム・ヤングと面会している。

大雪のためとはいえ使節団の滞在が延びた

ことによって、日本の政府指導者と教会の指導者の間の友情と理解が強められた。元来キリスト教に対して閉鎖的な考えを持っていた岩倉具視は世界に目を向けるようになり、世界の声に押されるように、1873年その禁制を解き、これが後年日本での伝道が始まる契機ともなったのである。□



使節団に随行した男女留学生の中には、後に津田塾を創設した当時7歳の少女、津田梅子（写真中央）も加わっていた。

古都への原爆投下阻止を進言し、日本の文化遺産を守った末日聖徒

●太平洋戦争の末期に京都は原爆投下予定地になっていたが、最終的には除外されることとなった。その原爆投下の阻止に貢献した人物として何名かのアメリカ人の名前が挙げられているが、その中に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるマイク・勝・正岡という人物がいたことはあまり知られていない。

エルバート・トーマスは、日本で伝道部長としての任期(1907~1912年)を終えて帰国した後、ユタ大学の法律学教授として活躍していた。1920年代後半に行われたユタ州高校弁論大会の審査員として招かれていた席で、弁論・討論にたくいまれな才能を持つ日系二世の少年と出会った。その少年はユタ大学に入学し、1936年には全米75の大学の代表が集まってコロラド州デンバーで開催されたトーナメントで、弁論・討論の両部門で優勝した。さらに翌年のカリフォルニア州のパサディナの大会でも2年連続して優勝という快挙を成し遂げる。その少年こそが、後に日本の古都への原爆投下を阻止したマイク・勝・正岡であった。高校生であった正岡の優秀さに注目していたエルバート・トーマスは、上院議員として立候補したときに、彼の助けを受

ける。20歳にも満たない正岡は同じ教会員として選挙戦を助け、アメリカ人の有権者は東洋人の顔をした弁舌鮮やかな少年に驚きを隠すことはできなかった。21歳でユタ大学を卒業した正岡は、翌年、法律大学院へと進学したが、エルバート・トーマスの依頼で再度選挙を手伝い、さらには全米日系市民協会の幹部としての誘いも受けた。1941年の2月、日米開戦の前には日本からワシントンに赴任途中の野村吉三郎駐米大使が、大陸横断鉄道をオグデンで途中下車し、正岡を訪ねて来ている。わずか26歳の若者であったが、すでに日本の外務省にまでその存在を知られる人物になっていた。全米日系市民協会の初代事務局長に就任した正岡は、11万5,000人の日系人の代表として、日系人の強制移住と強制収容の扱いについて政府との折衝に当たるようになった。

●1942年4月、正岡にとってまだ見ぬ祖国日本の東京などへの空爆が開始されると、京都や奈良は歴史的な価値はあるが、軍事戦略的には何の価値もないと考え、エルバート・トーマスに相談を持ちかける。エルバート・トーマスは、当時日本語の読み書きができる唯一の上院議員であり、上

院軍事委員会委員長の要職にも就いていた。エルバート・トーマスは、グルー前駐日大使や正岡と日本の古都を救うための会議を開き、その結果を大統領に進言した。そして、古都空爆禁止の指令が出されることとなった。

●マイク・勝・正岡は、古都への原爆投下を阻止しただけではなく、多くの業績を残している。1943年には通称「二世部隊」と呼ばれる陸軍第442連隊戦闘部隊の創設に貢献し、自ら率先して入隊し、



明治40年から大正元年にかけて日本伝道部を管理したエルバート・トーマス上院議員。



青年時代のマイク・勝・正岡。日本人戦争花嫁の渡米許可や日本人の帰化運動にも若い時代から貢献していた。

イタリア戦線で報道担当兵となりながら日系二世の活躍をマスコミに送り続け、日系二世に対する米国民の感情を好転させる広報活動に尽力した。アメリカの全新聞社に「ジャップ」の蔑称を使用しないように勧告し、ハワイの州昇格や小笠原諸島返還に貢献し、1988年には日米開戦当初の日系人を対象とした強制移住と強制収容に対する議会の謝罪と国家賠償を行わせた。

日本政府は、大使や政府高官級に与えられる栄誉である勲二等瑞宝章を正岡へ贈った。1991年7月76歳でこの世での務めを終えた正岡にとって、勲二等瑞宝章と同じように終生大事にしていたものがある。



ワシントンでロビイストの職に専念した正岡は、日系人の地位向上と日米間の政治・経済問題の仲介に尽力した。当時、米国へ交渉へ赴いた政財界人で正岡の世話にならなかった人はほとんどいない。中央二人が晩年の正岡夫妻。

それはオフィスに飾られていた1枚の感謝状であった。感謝状には京都と奈良を空爆から守ったことへの努力に対する賛辞がつづられており、そこには法隆寺管長、興福

寺管長、西大寺管長、東大寺管長、唐招提寺管長、薬師寺管長の6師からの署名が記されていた。□

食糧難時代の日本の給食制度に貢献したエズラ・タフト・ベンソン農務長官

●山形県鶴岡市の小学校で、貧困な家庭の児童を対象として明治22年に無料での給食が実施されたのが、日本の学校給食の起源とされている。当時の給食は、おにぎりと焼き魚、それと漬け物がおもな献立だった。昭和16年文部省訓令第18号「学校給食奨励規定」によって正式に学校給食は開始されたが、間もなくして太平洋戦争が勃発したため一時中断されてしまった。

●後に第13代大管長として召されたエズラ・タフト・ベンソンは、政治家として終戦直後の日本を視察した経験を持つ人物である。アメリカ政府の要職に就いていたエズラ・タフト・ベンソンは、戦争による被害を受けた多くの難民へ食料物資の援助を行うためにヨーロッパへと派遣され、それと同時に荒廃した日本の視察にも訪れている。

エズラ・タフト・ベンソンは戦後の日本人々や子どもたちが、どのような貧困な状況に置かれているかを目の当たりにすることとなった。

日本政府によって1946年(昭和21年)に学校給食の普及が奨励されるが、決して食が満たされていたわけではなかった。それに対して、アメリカ国内には余剰農産物があったため、日本への小麦粉の贈与が米国政府の援助によって開始された。これによって1950年(昭和25年)7月に主要8大都市の小学校児童に対して、初めて完全給食が実施されることとなった。1952年(昭和27年)4月には完全給食が全国すべての小学校を対象に実施された。

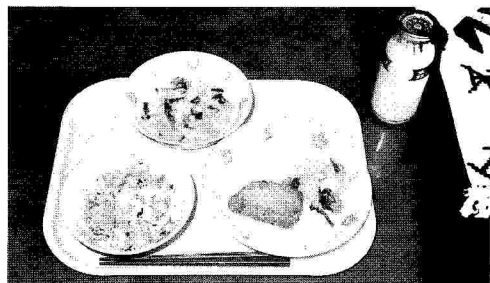
1956年(昭和31年)には「米国余剰農産物に関する日米協定」が調印された。アイゼンハワー大統領のときに農務省長官(1953~1961年)を務めたエズラ・タフト・ベンソンは、アメリカの農家で余剰となっていた農作物を貧困な地域へ援助するという農業政策に携わり、ベンソン農務長官の指揮の下、学校給食用として小麦粉10万トン、ミルク7,500トンが日本へ寄贈されることとなった。

日本の子どもたちへの学校給食と密接な関係を持っていたエズラ・タフト・ベンソンは、「乳製品によって、子どもたち

の身長が少しばかり高くなったと感じた」と後に語っている。□



1954年に学校給食法施行令、施行規則、実施基準なども定められ、学校給食法の実施体制が法的に整った。当時の代表的な献立はコッペパンとミルク(脱脂粉乳)、鯨肉の竜田揚げだった。(1954年撮影 毎日新聞社提供)



それから50年近くを経た現在の学校給食の一例。メニューは多彩で、より家庭料理に近いものを目指しているとい



アメリカ農務省の使節団は、食糧難の日本の状況や子どもたちの健康状態を知るために訪れ、学校給食を視察した。(1947年2月6日撮影 毎日新聞社提供)

社 会 に 知 ら れ ゆ く 教 会



教会のソルトレークオリンピック公式ロゴマーク

1872年、岩倉具視率いる使節団の一
行がソルトレーク・シティーを訪れた
のが、日本と教会との最初の出会いでした。
その後キリスト教の解禁を経て、1901年
ヒーバー・J・グラント大管長による日本奉
獻から100年、日本社会と教会との関わり
は一つの節目の年を迎えました。

2002年2月にはソルトレーク冬季オリ
ンピックも予定され、それは社会一般に教
会について広く知られる好機となると予想
されます。100年目の現在、日本社会に
おいて教会はどのような位置を占め、また
この先どう変わってゆくのでしょうか。地
域広報ディレクターとして奉仕しているノ
ーマン・D・シャムウェイ長老にお話をうか
がいました。

今、日本の広報部ではどのようなことをなさ
ていますか？

まず、「ブリガム・ヤング大学杯 高校
生のための英語スピーチコンテスト」が
ありますね。今年(第3回)の計画と準備
をしています。(本誌右ページ参照)

それから、「ザ・ヤング・アンバサダーズ」
の日本訪問です。5月に48人のメンバー
が来て、3週間にわたり日本中を回って
9回公演をする予定です。またファイヤ
サイドやレセプション、慈善訪問も行いま
す。その移動や宿泊や食事などについて
すべて広報部で計画しなければなりません。
(本誌チャーチ・ニュース、14参照)

また来年、ソルトレークオリンピック
があります。全世界の注目を集めるイベ
ントですから、いろいろと準備をする必
要があります。現在必要なことは、新聞
社やラジオやテレビなどメディア関係の
皆さんと良い関係を築いておくことです。

彼らがソルトレークに行って記事を書
いたり取材をしたりする際に利用できる
プレスセンターを教会は準備しています。
それはソルトレーク神殿に隣接するジョ
セフ・スミス記念館の中に設けられます。
もちろんオリンピック組織委員会にもプ
レスセンターがあります。しかし正式の

記者証を持っていない取材者はそこに入
ることができません。ですからそうした
皆さんのために教会は場所を提供する予
定です。そこでは世界中の何百人何千人
もの取材者を無料で受け入れます。それ
は教会の建物ですから、もちろん教会の
ことを知っていただけるといいと思ひ
ますけれど、別に伝道の目的でプレスセ
ンターを設置するわけではありません。
おおぜいの訪問者がユタに来るので、良
い時間を過ごせるよう便宜を図って差し
上げたいと教会は思っています。

プレスセンター設置はその一つです。
またもう一つは通訳サービスです。先ほ
どわたしは札幌の新聞社から電話を受
けました。記者がソルトレークへ行く予
定なので、通訳が頼めるだろうか、とい
う問い合わせでした。わたしたちはそう
した方々のために通訳や案内、ホームス
テイの手配などを行うことができます。で
すからそれを日本のメディアの皆さんに
伝える必要があります。

このごろわたしはよく街に出て、新聞
各社や放送局などを訪問し、それを皆
さんに説明しているところです。そこで
知り合った方々に、ソルトレークの教会
本部からいろいろな資料をお送りできま
す。そこでは教会
や教会の歴史、オリ
ンピックなどにつ
いて説明していま
す。またオリンピ
ックの日程までカバ
ーした特製の15か月
カレンダーや、オリ
ンピック会場で着け
るピンバッジなども
お送りする予定です。
ですから今わたした
ちはなるべく良い関
係を作るために、報
道関係の方一人一
人と会って、教会
のことを簡単に説明

しています。ただこれは伝道のためでは
なく、皆さんがソルトレークに対して良
い印象を持って楽しい時間を過ごしてい
ただくためのものです。これは大きな仕
事です。もう随分回りましたけれど、ま
だ訪問しなければならない所がたくさん
あります。

最近、『読売新聞』や『毎日新聞』でオ
リンピックに関する記事が連載され、ソ
ルトレークについても書かれました。
『毎日新聞』の記者の方は記事を書く前
にわたしに電話を下さったので、いろ
いろと話をしました。またその方に報道用
資料も送りましたから、少しでも教会の
ことを説明できたと思います。

去る3月3日、東京、広尾にあるアジア北地域
管理本部でささやかなオープンハウスが開かれ
ました。この半年ほどをかけて教会広報部が準
備してきたものです。上品に配置された一連の
教会絵画や説明パネルを通し、多岐にわたる教
会の教義や信条を、イエス・キリストに焦点を
当てて簡潔に紹介するものでした。

このオープンハウスは内覧会的に、関東の神
指導者や教会員の財界人など、社会的影響力の
大きい人々を招待して開かれました。これらの
展示は、ゆくゆくは予約制で、企業や報道機関



家族の展示。

日本全国の教会地図

地域に定着し、日本の英語教育の現場に一石を投じる「高校生のためのスピーチコンテスト」

2000年11月23日の午後、ファミリー・ムーブメント推進委員会の主催、ブリガム・ヤング大学、ジャパンタイムズ社、北国新聞社、琉球新報社、沖縄タイムズ社の後援により、「第2回高校生のためのスピーチコンテスト」全国大会が東京ステークセンター教会堂で開催された。北海道から沖縄まで全国17の地区を代表する17人の高校生(1年生3人、2年生7人、3年生7人)が一同に会し、「家族」をテーマに自慢の英語力でスピーチを披露した。

流暢な発音で、日本とアメリカの家庭の在り方を比較した名古屋地区代表の合田雅美さん(岐阜県立武義高校3年生)が、第2回目の優勝者に選ばれた。2位は杉本ハナナさん(千葉県代表・千葉県立大多喜高校2年生)、3位には大辻由起さん(広島県代表・広島県安田高校3年生)が選ばれた。合田さんは「家族と友人の助けがあったからこそ力を発揮できた。ほんとうにうれしい」と優勝の喜びを英語で語った。スピーチ同様、自然に、しかも自分の考えをはっきりと伝える姿にだれもが感銘を受けた。2位の杉本ハナナさんは昨年の特別賞に続いて今回は堂々の2位に輝いた。「去年の大会よりもかなりレベルが上がっていました。しかし、自分もかなり練習したので、自分が成長したのもよく感じました」と1年間を振り返った。大会の翌々日に大学の入試を控えた3位の大辻さんは「地球は母親、その上で生活する人々はみんな家族」というひとときを目立つテーマでスピーチを行い、審査員や観客の関心を集めた。

審査員の一人であり、元NHKビジネス英語講師であるチャールズ・ウィブル兄弟は「レベルの高い大会で審査委員は悩み抜いた」と語った。また、大会に出席した地域会長会のホールストロム長老は「若い人たちの家族との経験や、家族に対する強い思いに感動した。この感性を大切にしてほしい」とメッセージを送った。今回の大会出場者17人中11人が教会員であり、セミナーや家庭の夕べでの経験、教会堂を美しく保つための奉仕活動についてのスピーチも好感が持てるものであった。来年度の大会にはさらに多くの高校生の参加が期待されている。優勝した合田さんにはブリガム・ヤング大学

ハワイ校のサマープログラムへの参加が副賞として贈られた。

今回の大会で目立ったのは昨年を上回るレベルの高さであった。出場する生徒には両親だけではなく、学校や英会話学校の教師が同行し、精神的な励ましを与えたり、喜びを共にしたりする場面が見受けられた。地方で開催されている予選大会では、各種メディアや自治体、教育委員会、各種団体などからの後援を受けて開催している所もあり、地域社会や高等学校への呼びかけも熱心に行われている。それぞれの学校の先生方の指導を受けながら出場する生徒たちには、必然的に入賞への期待も大きくなる。また、地元での十分なサポートが得られている地域を勝ち抜いてきた出場者の英語力や表現力が、全国大会においても高く評価されているのは、それらの地域の出場者のレベルに厚みがあるためであろう。学校において長年の英語教育が実施されながら、英会話の能力が低いと言われがちな教育の現場であるが、今回の出場者のスピーチを聞いたかぎりでは、そのような否定的な意見にも明るい兆しが見えたように思えた。

本年度も各地域で予選が開催され、11月の全国大会に向けての準備がすでに始まっている。また、「高校生のためのスピーチコンテスト」は伝道活動とは一線を画する位置に置かれている。そのため、現在のところ多くの地域では「ファミリー・ムーブメント推進委員会」という教会員を中心に構成された団体名で主催され、それぞれのメディアや団体からは、家族や青少年に対する基本的な教会の価値観や信条を理解してもらったうえで、様々なサポートを受けている。地域社会や教育の場へ、青少年の育成や教育に対する教会の真摯な取り組み、そして毎回のテーマとなる「家族」に対する良い価値観を伝える広報的な活動として継続的に開催されるよう大きな期待が寄せられている。□



上—左より杉本ハナナさん、ドナルド・L・ホールストロム長老(大会役員)、合田雅美さん、大辻由起さん、チャールズ・ウィブル兄弟。
左—各地域に定着しつつある地区予選の様相。

など教会を団体で訪問する教会員でない方々へ教会について紹介するために用いられることを想定しています。簡易な形ながら、アメリカにあるような訪問者センターに代わる役割を果たすものです。ソルトレークオリンピックについて記事を書こうとするメディア関係の人々も、ここで教会について基本的な説明を受けることができます。

また今年、日本に伝道が始まって100周年になります。地域会長会はそのためにいろいろな計画をしています。

「ザ・ヤング・アンバサダーズ」の招聘もその一つです。また100年前、ヒーバー・J・グラント長老が日本奉獻の祈りをささげた横浜の地に記念碑を建てるという計画もあります。

これらが最近行っていることです。わたしたちは毎日朝から晩まで働いていますが、なかなか十分とはいきません。でも少しでも教会のことを、社会一般の皆さんに知っていただけたらほんとうに幸いです。

教会員であることに誇りを持てる社会へ

1998年にアイリング長老がしたお話(本誌次ページ参照)を覚えていませんか?

わたしは当時広島伝道部の部長でしたが、そのお話は文書で読みました。日本社会において教会がよく知られるようになるという予測でした。ほかの教会の指導者も同様のビジョンをもって話されたことがあります。わたしはそれを心から信じています。

でもその中に一つだけ条件がありました。それは、日本人は自分が教会員

ヘンリー・B・アイリング長老の話

(1998年10月19日、東京神殿別館におけるJMTC宣教師の手記から抜粋)

わたしには、主が日本において、教会を劇的な方法でお建てになり、発展へと導かれるという証^{あかし}があります。日本は長い年月の間、同じような状態にとどまっているかのように見えました。しかし実際には、主は基をお据えになっていたのです。そして、その基から奇跡は起こるのです。……

その奇跡は、日本の教会員の心に大きな変化が生じるという形で起こります。それは今始まったばかりなので目には見えなくてもかもしれません。しかし、日本の教会員が職場の同僚や近所の人たちに教会について話すことを特権だと考える日がやって来ます。

皆さんの子どもたちはあなたが今見ている日本とは違う日本で生きることになります。なぜなら教会が驚くべき発展を遂げ始めるからです。教会は傑出した存在になり、人々は教会について知りたいと思うように

なります。彼らは興味を持ち、やって来ます。皆さんの子どもたちはイエス・キリストについて証することを恥ずかしく感じることのない学校や地域社会で育ちます。彼らは自分たちが末日聖徒であることを、一緒に学校に行く友達や、また先生にさえ喜んで伝えるでしょう。彼らは恐れませんが、……すべての人が教会に入るわけではありませんが、多くの人々が教会員になるでしょう。あなたたちはその始まりを見ているにすぎません。その奇跡の幾分かを、ここにいるすばらしい宣教師に続く次の世代の人々に見ることになります。しかしそれは今始まります。……それはこれまでの日本における教会のイメージを、主が変えてくださることによって果たされます。……日本の教会員が教会に属していることを、また宣教師から福音を学ぶよう人々に勧めることを喜びとする日が来ます。

……しかしわたしたちの信仰の欠如が主

の業に制限を設けてしまいます。主が、教会外の人々の心を変え、教会に対して尊敬の念を抱くようにされたとしても、もしわたしたち教会員が、それによって宣教師に友達を紹介したいと思わなければ、また周りの人々が主の教えに耳を傾けるよう、福音が真実であることを行いで示さなければ、わたしたちが携われる主の業は減速してしまいます。……これは主の業です。わたしたちの業ではありません。……主がバプテスマを導き、聖霊を送り、あなたに証する力を与えられるのです。……しかしわたしたちが理解しなければならぬのは、ある意味において主はわたしたちによって制限をお受けになるということです。もしわたしたちが信仰によって進まなければ、主は行おうとされたことを行われません。奇跡を得るために、あなたたちは確信をもって前に進まなければなりません。□

であることに対してもっと温かい気持ちと誇りを抱く必要がある、ということでしょう。どうすればそれができるのでしょうか。今、教会はそんなに知名度も高くなく人気のあるものではないですから、誇りを持つことは難しいかもしれません。しかし、これがほんとうに神様の教会であるという信仰があるならば、誇りをもって生活できるでしょう。

時々教会の教えと国の習慣がよく合わないこともあります。ですが教会の教えを国の習慣に合わせて変えることはできません。神様の教えですから人間には変えられません。そこでどちらかを選択する必要があります。時にそれは日本の教会員にとって難しいことです。日本の習慣はとても強く、アメリカの習慣よりも強いです。アメリカ人は皆、人はそれぞれ個人の信念に従うようにと育てられます。しかし日本では一般に、周りの人と協調して同じように行動するよう育てられます。だからある行動が日本社会の習慣と合わないとき、日本人が個人的に周りの人と違う行動を選択するのは時にとても難しいのです。特に信仰が

まだあまり強くない人にはそれが難しい。そのためにバプテスマを受けながら教会から離れてしまった人が多くいるかもしれませんが。国の習慣それ自体は別に悪いとは言いません。ただ福音とは合わない習慣もあります。例えば日曜日に学校で運動会などの行事があります。教会へ行きますか、それとも学校へ行って運動しますか。運動が悪いとは言いません。でも日曜日は主の安息日です。

わたしの目から見ると、国の習慣よりも神様の教えてくださった道が大事です。わたしにとってその選択はそう難しくありません。でも、まだ固い信仰を持っていない人には難しいかもしれません。ですから皆さんの信仰を少しずつでも強め、世の考えよりも神様の教えの方を大切に思えば、そのときにこそ日本の人々は良い生活ができ、そこに誇りが生まれるのです。

思うに、この広報の活動はそれをよく支援できると思います。広報の働きの目的は改宗者を得ることではなく、教会外の人と友人の関係を作り、理解を得ることです。社会に理解があれば、ほんと

うにアイリング長老が言ったとおり、皆さんが隣人に話をしたり教会を擁護したりすることは容易になり、教会はますます大きくなることでしょう。

今日の日本には、家族に関する問題がたくさんあります。犯罪の若年化など、若い人たちも問題を抱えています。それはこれからもっと大きな社会問題になっていくでしょう。何らかの解決策を考える必要があると思います。

この教会の教えは、その解決策ですね。イエス様のおっしゃった人間関係や家族の在り方に社会を挙げて従うことができれば、こうした問題は解決するでしょう。いつか日本の人々はそれを認めるだろうと思います。

今わたしたちはそこまで進歩していませんけれど、おおぜいの人々が教会の名前を聞いてそれがどのようなものであるかを理解したら、福音の価値を認めるでしょう。この教会はもちろん外国から来た教えですけれど、アメリカ人の教会ではなく、全世界の教会です。天のお父様は全世界の神様です。しかしそれは日本の人には分かりにくいことですね。

宗教はメディアでは御法度だというのが、必ずしもそうではありません。特に地方紙などでは、宗教行事が生活に密着しており、その多くは仏教系ですが、そうした報道をする以上、キリスト教に関して報道するという姿勢を持った新聞社もあります。また、特定の宗教を記事にしてはならない、というのは、情報の内容に一般性がないため記事にならないのを断るときは断り文句である可能性もあります。メディアにとって記事になる切り口を冷静に検討する必要があります。(教会広報部)

日本の社会に貢献する福音の光

今年日本伝道100周年の年ですから、わたしたちはいつもの年よりも教会のことを社会に紹介する必要があると思います。この教会はこの100年の間に日本と日本人のために良い影響を及ぼし、とても善いことをたくさんしてきました。(写真で見る日本教会100年史、本誌チャーチ・ニュース、7参照)

余談ですが、教会の宣教師は毎週4時間、社会奉仕をするよう定められています。今、日本で働いている宣教師は約1,000人で、1週間の奉仕は4,000時間、1年は52週ありますから20万8,000時間、年間で延べ23.7年の奉仕に当たります。それは膨大な時間です。

第二次世界大戦中を除いてそうした無私の働きが100年続いてきました。非常に大きな奉仕です。日本の人がそれを少しでも認めてくれれば、ほんとうにいいと思いますね。それは広報の責任でもあります。そうしたことをわたしはプレスリリースに書いて新聞社などへ送るつもりです。社会に教会に対する理解の気持ちをもたすようわたしは努力しています。

先月号の「リアホナ」に、日本のクリスチャンは人口比にして全体の1パーセント、その中で末日聖徒は10パーセントにすぎない(「日本一輝きを増す東洋の光」「リアホナ」2001年3月号、

39参照)という記述があります。日本の教会員自身が、この教会は小さな教会で、社会においてはあまり知られていないと認識しています。一方アメリカでは、先日 のブッシュ大統領の就任パレードにタバナクル合唱団が招かれ(6回目)、「タイム」(Time)誌では特集が生まれ、ヒンクレー大管長の著作は一般書店の宗教書部門でベストセラーになるなど、社会的に完全に知られていますね。

アメリカに「USニュース」(US News)という雑誌があります。3か月ほど前、教会がカバーストーリーとして特集されました。アメリカ人はよく末日聖徒イエス・キリスト教会という名前を聞いたことがあり、大体の人は良い印象を持っているようです。日本でもそれと同じようなイメージがあってほしいですね。

でも日本の新聞社は、あまり教会のこ

とを書きません。新聞社の方はよく言われます。「特定の宗教であるあなたがたの教会について書くと、(偏らない報道のために)ほかの宗教についても書かなければなりません。宗教のうちには非常に良くないものもある、だから何も書かない方がいいです」と。それは困ったことですね。

アメリカのすべての新聞にはだいたい毎週1回くらい、宗教のページが組まれます。それが日本にあったらどうでしょうか。でも日本では宗教のことは書かない方がいいという常識があって、なかなか新聞に出ることができません。日本福岡神殿の奉献のときにも新聞社はあまり来ませんでした。とても残念なことですが、アメリカはクリスチャンの社会ですから宗教を持っていて当然ですね。でも日本人は宗教を持っていないくて当然の社会です。しかし日本でも既成の宗教ならば問題ありません。例えば仏教や神道ですね。でもほとんどの日本人の目から見ると仏教や神道は宗教ではありません、それは習慣です。

この間読んだある記事には、最近の日本の若い人は道徳なしで暮らしている、だからほんとうにみんなが困っている、と書かれていました。コンパスがな



2000年11月、千葉県柏市の県立高校でシャムウェイ長老が「家族のきずな」と題し講演会を行いました。保護者会の役員を務める教会員の親戚さんの招きでした。当初は公立学校と言うこともあり宗教的な話を敬遠する役員の方もいましたが、昨今の状況(学級崩壊、登校拒否、いじめ、親子の断絶など)を考えたとき、ほんとうに信頼の置ける人なら、ということで実現しました。当日は宗教色を出さないとの制約はありましたが、「譲ることのできない価値観を両親がしっかりと示すこと、両親の影響はほかのすべての影響に優り得ること、子どもにはたつレッテルが子どもの在り方を決めてしまうこと……」などシャムウェイ長老夫妻の話はまさに福音そのものでした。会場が一杯になるほど多くの人が足を運び、熱心にメモを取りながら聴いていました。ある先生は「教師としてではなく一人の親として話を聴き……ほんとうに考えさせられました。妻にもぜひ話してあげたい」と語っていました。(資料・写真提供:菅野菊代)

いんです。どの方向に行けばよいか分らないので、将来の計画もなく生活しています。それはとても残念なことです。若い皆さんには道徳的な導きが必要です。これが良い、これが悪いというその区別ですね。それがあれば日本の将来は明るいでしょう。でも今のままでは難しくなると思います。わたしはほんとうにそれを心配しています。

ですから宗教は、別に悪いものではありません。道徳的な導きを得ることができ、家族を強めることができます。そうした内容が少しでも新聞紙面にあったらほんとうにいいじゃないか、と思います。でもそれはわたしが考えているだけのことでいいです。

また別の話ですが、わたしは時々、企業の社長さんに家庭の夕べのプログラムを紹介しています。家庭の夕べを会社ぐるみで勧めたらほんとうにいいと思います。やってみるだけでもいいのです。

日本の多くの会社では、ほとんどの社員が8時か9時ごろまで働きます。そして通勤時間が1時間から2時間ですから、家に帰って寝るのは10時か11時。子どもとも顔を合わせず、家族の生活がありません。それはとても残念ですね。そこでこういう会社があったらどうでしょう。月曜日になると、完全に5時に閉めます。電気を消して鍵をかけ社員を外に出してしまいます。そして皆さんお酒を飲みに行かないで、まっすぐ家に帰って家族と一緒にいることを勧めたら、それは皆さんの働きにとっても良い影響があり、もっと熱心に働けると思うんです。それを実施する前と後とで、効果のほどを測ることができたら、と思います。わたしは一度、日本の企業にやってみていただきたいと思いますけれども……まだ、だれもやってくれないです。(笑)でもそれはほんとうに企業のためにもなると思いますよ。

これは一例ですが、家族を強めることは道徳的に大切です。理想論かもしれませんが、いつでもわたしは機会あるごとに企業の人に薦めています。そのために教会に入る必要はありません。ただ家族を強めていただきたい。今日の日本には、とても必要なことです。

メディアで教会について報道される際、例えば「神殿」(Temple)を「寺院」と表記されるなど教会用語の問題を含めて、様々な誤報、虚報が流れる可能性があります。広報の目的「答を与える」に照らして、どれほど正確な情報を世に流せるかが問われています。問題のあったメディアには、広報部で作した教会用語集などの資料を送付して正すことができます。お気づきの方は、誤報のあったメディア、日時、番組名、誌名、誤報箇所などの情報を教会広報部(03-3440-2351)までお知らせください。(広報部)

教会を社会に知らせる大きな好機

オリンピックと関連して教会がマスコミを通じて紹介されることには、良い面と同時に危険な面もあるのではないのでしょうか。

新聞社ではしばしば教会の立場をよく理解しないで記事を書くことがあり、中には誤報もあります。だから資料を渡したり話し合ったりして、なるべくそうならないよう努力しています。でもそういう努力があっても時々教会に対して興味本位に良くないことが書かれてしまいます。今でもそれは難しい問題ですね。でもヒンクレー大管長の働きによって、最近はおおむねよくなりました。大管長は若いときから記事や本を書いてきて、メディアについてよく理解しています。大管長はテレビに出たり、ほかの教会ともよく対話したりします。大管長は恐れず勇気をもって話すことのできる人ですから、それで教会員ではない人のこの教会に対する印象は多少なりとも良くなったと思います。50年前、この教会は大半のアメリカ人にとって聞いたことのない教

会でした。また一般的に教会に対する印象はあまりよくありませんでした。ああ、夫多妻とかそういう問題のある教会ですね、と。最近そうした悪い印象はだいぶなくなりました。それはヒンクレー大管長の働きによるところが大きいと思います。

日本でもオリンピックを通して、教会について報道される機会が増えるとき、誤報などの懸念はありますけれど、やはりこれはいいチャンスだと思います。わたしは心配よりも、この大きな機会を生かすよう努力したい気持ちの方が大きいのです。先日わたしは、日本放送協会(NHK)へ行って、藤原さんという方とお会いしました。藤原さんはアトランタオリンピックのときの記者でもあり、日本の放送関係企業の850人から成る記者団のリーダー的立場の人です。彼はたばこもお酒もお茶も好きな人ですが、ユタ州ではそれが日本と同じように自由にはできないことも知っています。藤原さんはユタ滞在中、頑張ってユタ州のやり方で生活しますと言われました。彼はと

ても教会に対して尊敬の念を抱いていらっしやるようで、わたしと親しい関係を築くことができました。もしわたしたちが記者団850人全員とそのような良い関係を築くことができれば、という希望があります。日本の記者団の皆さんが少しでも教会に対する尊敬をもってユタ州へ行かれると、報道の内容も教会にとってそう悪くはならないと思います。人によって会社によって親しくなれる度合いは違いますけれど、でもなるべく皆さんと良い関係を持ちたいと願っています。

わたしと姉妹は今年の夏ごろ、今の広報宣教師の任期を終えます。アメリカに帰ってから、わたしの出身はカリフォルニア州ですけれど、しばらくユタ州に滞在して、日本の記者の皆さんがユタ州に来るときにお迎えしようと思います。そして教会のホストとして彼らを案内したり助けたりしたいと希望しています。現地で歓迎することによって、記者の皆さんと教会とのより良い関係を橋渡ししたいのです。□

歌とダンスの親善大使たちがやって来る!

ブリガム・ヤング大学「ザ・ヤング・アンバサダーズ」が全国でチャリティー公演

「ザ・ヤング・アンバサダーズ」の結成30周年を迎える記念来日公演が、2001年5月9日から5月27日にかけて日本各地で行われる。公演とともにファイヤサイドや慈善訪問を含むイベントは、日本の伝道100周年を祝う記念事業の一つとしても計画されている。「ザ・ヤング・アンバサダーズ」は、ブリガム・ヤング大学音楽学部と舞踏学部がプロデュースするグループであり、1970年には、大阪万博における初の海外ツアーを成功させ、東京ディ

ズニーランドの開園記念イベントの公演でも高い評価を受けている。ウォルト・ディズニー・プロダクションやハワイのポリネシア文化センターで舞台監督を務め、現在はブリガム・ヤング大学音楽学部、声楽・合唱学科の学科長であるランディ・ブース兄弟に率いられたメンバーは、20世紀におけるアメリカの歌とダンスでつづるブロードウェイ風のミュージカル劇「カーテンタイム」を披露してくれる。一行の中には日本での伝道経験のある学生やスタッフもあり、彼

らの日本公演への意気込みは大きい。

日本での伝道経験を持つロバート・モファット兄弟(robertmoffat@hotmail.com)はダンサーとして日本へ再び戻るのをとても楽しみにしている。「日本仙台伝道部の宣教師として伝道してから2年が過ぎてしまいました。日本での経験、日本で出会った人たちとの思い出は決して忘れることができません。日本への伝道の召しを受けたとき、熱中していた歌やダンスはとりあえずわきに置き、聖文と証と聖霊の力によって



ハードなトレーニングをこなす劇団員たち。



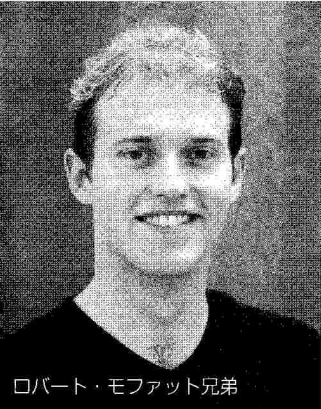
リハーサル風景。



中央に立つのが監督のランディ・ブース兄弟。

福音を分かち合うことを学びました。ダンスや演劇を一時中断するのはとても難しく感じられました。しかし、伝道の経験を通じて、わたしも神の子どもであるという証を強めることができました。この知識は、わたしに永遠という長い時間の中における自分の価値を教えてくださいました。わたし自身についてよく

知ることができたのです。わたしはまた音楽が聖霊の力を感じるうえでも重要な力を持っているということに強い証を持っています。「ザ・ヤング・アンバサダーズ」のメン



ロバート・モファット兄弟

バーとともに、ダンスや歌という一つの方法を通じて福音を分かち合いたいと思っています。イエス・キリストはわたしたちの救い主です。主は様々な煩悩からわたしたちを解放してください。主を通して、わたしは深い平安と幸福を見つけることができました。日本へ行くのがほんとうに待ち遠しいです。」

ダンサー以外のスタッフの中にも、日本とのかかわりを持つスタッフがいる。ト



トリス・モーガン兄弟

も仙台伝道部で宣教師として働いた経験を持つ。「仙台伝道部へ1997年に宣教師として召されたとき、わたしの大きな望みはイエス・キリストの教えに従うことへの喜びを人々と分かち合うことでした。同じように今回、「ザ・ヤング・アンバサダーズ」のメンバーとして再び日本へ戻れることを神様に深く感謝しています。日本中での公演とともに、求道者や教会員の方々にお会いするのを楽しみにしています。また、宣教師

のときは別の形で、イエス・キリストの教えのすばらしさを日本の人たちと分かち合えることに喜びを感じています。公演の中でわたしは照明のスタッフとしてサポートしています。その役目は福音の光を照らす原則をわたしに感じさせてくれます。わたしたちが真実の福音によって光の中を歩むとき、ほかの人々もわたしたちの中に光を見いだし、それに従うようになります。わたしはいつも、わたしたちが主の光の中で平安を感じ、主の教えの喜びで満たされ、父なる神様のもとへの道を人々に示せることができたと願っています。」



ブリガム・ヤング大学日本語学科で準教授を務めるジョージ・W・パーキンス兄弟(george_perkins@byu.edu)も1957年から1960年の間に宣教師として日本で伝道した経験を持つ。「わたしが宣教師として働いたのは、アンドラス伝道部長のときでした。そのときの伝道部は北部極東伝道部と呼ばれ、韓国も含まれていました。現在の地域会長会会長を務めるブラウン長老と同じ船で伝道地へ向かい、わたしは日本、彼は韓国へと向かいました。仙台、大阪、東京での生活はとても楽しく、そのとき以来、日本語と日本の文学を学び続けています。当時と比べて、日本の教会が大きく発展している様子を見るのはとても気持ちが高揚します。宣教師のころ、いつの日か日本に神殿が建設されるのを夢見、長い間熱望していたのを懐かしく思い出します。そのときにはステーキもなければ、ワードもありませんでした。ですから、神殿などというのは夢のまた夢のような遠い存在でした。歴史を振り返ると、主がどれほど日本の人々を愛しておられるか知ることができます。強い証をもったすばらしい教会員が多くいることを喜んでいらっしゃるということも感じています。わたしはこの福音に対して、確固とした揺る

ぎない証を持っています。宣教師として働いていたときに、神様の教えを日本の人々と分かち合うことがいかに大切かを知りました。父なる神様は、今もその業を日本で絶えることなく行っているに違いありません。わたしは「ザ・ヤング・アンバサダーズ」のメンバーとともに日本を訪れることを心から楽しみにしています。きっとそれはわたしたちだけではなく、皆様にとっても、かけがえのない経験になると信じています。」

「ザ・ヤング・アンバサダーズ」とは「若き大使たち」という意味である。彼らは歌やダンスを通じて、自分たちの才能や信仰を芸術として世界中で披露している。それはまさに文化的な親善大使としての役割を果たしている。それと同時に、一人一人はイエス・キリストへの強い証を持っており、各人が宣教師としての思いも常に抱いているという。ブロードウェイでの最高の公演にも匹敵するとの高い評価を常に受けてきた鍛え抜かれた歌とダンスは、1時間30分のノスタルジックな旅に観る者を誘うだけではなく、彼らの主から与えられた才能や光を見いだし、また日本社会に教会の良いイメージを伝えるためのすばらしい機会になることだろう。□

ツアースケジュール

- 5月 9日 福岡/公演
- 5月10日 熊本/ファイヤサイド
- 5月11日 広島/ファイヤサイド
- 5月12日 広島/公演
- 5月13日 岡山/ファイヤサイド
- 5月14日 大阪/家庭の夕べ
- 5月15日 大阪/公演
- 5月16日 名古屋/公演
- 5月17日 金沢/ファイヤサイド
- 5月18日 東京/公演
- 5月19日 横浜/公演
- 5月20日 東京/ファイヤサイド
- 5月21日 青森/家庭の夕べ
- 5月22日 札幌/公演
- 5月23日 札幌/ファイヤサイド
- 5月24日 仙台/ファイヤサイド
- 5月25日 仙台/公演
- 5月26日 千葉/公演
- 5月27日 宇都宮・高崎/ファイヤサイド



「ザ・ヤング・アンバサダーズ」公演についてのお問い合わせは教会広報部(03-3440-2351)まで。

専任宣教師

2001年2月(257期生)8人, 海外3人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



いたくら たかゆき
板倉孝幸
仙台伝道部
横浜ステーキ
都筑ワード



おおした あきこ
大下亜紀子
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
三国ヶ丘ワード



さかもと ともみ
阪本薫美
仙台伝道部
町田ステーキ
相模原ワード



はら ともみ
原智三
札幌伝道部
東京北ステーキ
浦和第2ワード



ふじい みさと
藤井美佐都
札幌伝道部
京都ステーキ
下鶴ワード



みやがわ さちこ
宮川祥子
仙台伝道部
長崎地方部
長崎支部



むらかみ まこと
村上誠
福岡伝道部
東京北ステーキ
坂戸ワード



やました たまら
山下太郎
札幌伝道部
横浜ステーキ
川崎ワード



たがわ なおき
田川直樹
台湾・台北伝道部
静岡ステーキ
袋井支部



たちばな ゆうすけ
立花裕亮
ハワイホノルル伝道部
盛岡地方部
盛岡支部



まえだ まさみ
前田正美
ニューヨーク
ニューヨーク南伝道部
BYU第13ステーキ
BYU第76ワード



奉献された教会堂

福岡ステーキ前原ワード

所在地 〒092-1112
福岡県前原市大字浦志字大杉
222-1, 2
電話 092-324-0119
竣工日 2000年12月15日
敷地面積 932.39平方メートル
建築面積 221.28平方メートル
延床面積 439.20平方メートル

役員の変動

2001年2月10日から2001年3月12日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 旭川ステーキ滝川支部
支部長: 小島 啓一
- 福岡ステーキ北九州ワード
監督: 伊美 行雄
- 山口地方部宇部支部
支部長: 河村 光浩
- 大阪ステーキ平野ワード
監督: 坂本 正孝
- 旭川ステーキ旭川第一ワード
監督: 南出 嘉明
- 日本新潟ステーキ
第一副会長: 大矢 重幸
第二副会長: 田中 聡

お詫びと訂正

『リアホナ』2001年3月号大管長会メッセー
ジ, 7頁左段で, 「永遠の御父から送られた
贈り物と見なし,」の後に「を働かせ,」とい
う言葉の誤植がありました。正式には「を働
かせ,」を除き, 「永遠の御父から送られた贈
り物と見なし, 主の知恵と訓戒によって」と
なります。ご迷惑をおかけしたことをお詫
び申し上げます。

皆さんの情報をご提供ください

- ◎あなたや友人の経験, また地域のニ
ュースなど, 全国の読者に紹介したい
有意義な情報をお寄せください。
- ◎お願い——海外に召される日本人宣
教師を紹介いたします。氏名〔フリガナ〕,
所属ステーキ/地方部, ワード/支部,
MTC入所月, 伝道部名を明記のうえ,
編集室に写真を添えてお知らせください。
デジタルカメラでお撮りになった画像デ
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。
- ◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会 『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org
- ◎国際機関誌『リアホナ』のお届け,
その他商品に関するお問い合わせは——
教会配送センター
TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

イエス・キリストを信じる信仰を増す

スティーブン・D・ナドール長老は、七十人定員会の会員であったとき、次のような経験について話しました。「あるステーキ会長とともに……一人の年若い女性を訪問したときのことです。彼女は……自動車事故で夫を亡くし、二人の幼い子どもと小さなアパートに住んでいました。……さぞ失望し、落胆していることだろうと思っていました。ところが彼女は明るく、落ち着いた様子で丁寧にわたしたちを迎えてくれたのです。わたしたちの訪問に感謝の気持ちを伝えると、次のような話をしました。『兄弟、わたしは贖いの計画を信じています。夫とともに復活できるという救い主のすばらしい約束に感謝しています。主の贖いの犠牲に感謝しています。』そして二人の子どもを抱き寄せて言いました。『イエス・キリストへの信仰があればやっつけられると思います。』」（『信仰と善き行い』『聖徒の道』1992年7月号、88）

この姉妹の謙遜な言葉は、救い主への信仰がいかに恐れと疑いを希望と勇気に変えてくれるかをよく物語っています。

信仰は不可欠なもの

今日のようなうつろいやすい世の中にあって、明日はどんなことが待ち受けているか分からないかもしれません。しかし、イエス・キリストへの信仰があれば、霊的な平安を得ることができます。

たとえ、苦難や胸が張り裂けそうな悲しみに直面しているときでもです。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899-1994年）が十二使徒定員会の会長であったときに説いたように、「〔イエス・キリストを〕信じる信仰とは、たとえわたしたちがすべてのことを理解していなくても、主はすべてを御存じであると信じることです。』（『イエス・キリスト——救い主、贖い主』『聖徒の道』1984年1月号、12）

主イエス・キリストを信じる信仰は、福音の第一の原則です（信仰箇条1:4参照）。信仰を行使することによって、わたしたちは困難を正面から受け止め、誘惑に打ち勝つ力を得られます。わたしたちが主に信仰を持ち、悔い改め、従順であるなら、主はわたしたちの罪を赦し、主のもとに戻れるよう助けてくださいます。主はこう約束しておられます。「あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つてであろう。」（モロナイ7:33）

信仰を養う

わたしたちは、この世的な目標の達成に必要な技能を伸ばすために、勉強し練習を重ねます。信仰を養うときにも同様のことが言えます。使徒パウロが語ったように「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から

来るのである。」（ローマ10:17）十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は、こう述べています。「教義はただ聞くだけの人に対しても、その心に信仰の種をまくことができるのです。そして、イエス・キリストへの信仰のほんの小さな種でも、御霊を招き入れることができます。』（『教義を教える力』『リアホナ』1999年7月号、87）

わたしたちの心に一度信仰の種がまかれたなら、それを養っていかなければなりません。イエス・キリストへの信仰は、わたしたちが聖文を研究し、調べ、深く思い巡らすとき、また、断食し祈りをささげ、神聖な儀式を受け、聖約を守り、主と人に仕え、教会の指導者を支持し、戒めに従うときに養われます。

イエス・キリストを信じる信仰が強まるにつれ、わたしたちは主への信仰によって歩むことを学んでいきます。中央扶助協会第二副会長のシェリー・L・デュー姉妹はこう言っています。「キリストを信じる信仰とは、主の存在を信じ、……主に従い、主に頼ることです。それは、使徒パウロが『わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる』と語ったときのように（ピリピ4:13）、良心と思いに平安を得るという祝福を受けることです。』（『わたしたちの唯一のチャンス』『リアホナ』1999年7月号、78）□



主の愛にすぎる

天父はわたしたちが必要とするものを求めて祈るよう命じておられます。そしてその祈りにこたえてくださることを約束しておられます。けれどもわたしたちの必要がいつどのようにして満たされるかは天父がお決めになります。わたしたちに何が必要であって、それをどのようにして最善の形で満たすかについては、それをよく御存じである天父にお任せしなければなりません。わたしたちは天父の子どもなのです。

十二使徒定員会のジョージ・Q・キャノン長老(1827-1901年)はこのように説明しています。「天父は愛と親切にあふれ、また情け深い親であられます。……天父

はわたしたちを導く方法を御存じであり、わたしたちの望みをかなえていつ祝福を与えたらよいかを御存じです。……天父はわたしたちの状態と、そして、何がわたしたちのためになるかを御存じです。もしわたしたちが賜物と祝福を必要としているならば、天父はいつそれを授けたらよいかを知っておられます。』(Gospel Truth: Discourses and

Writings of George Q. Cannon, ジェレルド・L・ニュークイスト編〔1974年〕, 102)

天父を信じる信仰は必ず報われます。以下の物語に見られるように、時には時間が必要であり、わたしたちが期待している方法とは異なる方法で答えが与えられます。



「受け入れる余地がないほどの祝福を」 グロリア・オラベ

1981年11月7日、待ちに待った伝道の召しが来ました。任地はチリ・コンセプション伝道部でした。その手紙を開いた瞬間に、伝道のこと以外何も考えられなくなっていました。

準備はほぼ完璧でした。持ち物リストを何度も見直しました。荷物をそれぞれスーツケースに入れる度にリストに印を付けました。細心の注意を払って計画していたつもりでした。でも、必要不可欠なものでありながら完全に忘れていたことが一つありました。

出発する2時間前になって、キルブエのわたしの家からチリ・サンティアゴ

の宣教師訓練センターまで行く約2時間の旅行にお金がかかることに気づきました。自分の貯金も両親からももらったお金もすべて使い果たしていました。

お金を貸してもらえるのではないかと監督さんの家まで走って行きましたが、あいにく留守でした。大した金額が必要だったわけではなかったのですが、そのときはまるで手の届かない大金のように感じました。

わたしは悲痛な思いで自分の部屋に戻るとひざまずき、現状を天父にお話ししました。もちろん天父はすでに御存じであることをわたしは知っていました。祈りを終えて立ち上がるときには、天父はわたしが問題を解決できるように

必ず助けくださることを確信していました。わたしは自分の一を忠実に納めていたので、きっと主は天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を注いでくださることをわたしは知っていました(マラキ3:10参照)。

そのようなとき、母が呼びかけました。妹が使えるように、押し入れを整理して、何を残しておくか決めるようにと言いました。衣類を整理していると、手のひらにすっぽり入るような小さな財布を見

出発する2時間前になって、宣教師訓練センターまで行く旅行にお金がかかることに気づきました。わたしは悲痛な思いでひざまずき、現状を天父にお話ししました。



つけました。何年も前にその財布をもらったこと、初めての貯金をその財布に隠しておいたことを思い出しました。

財布を開いてみました。祝福がそこにありました。随分昔にきちんと畳んで入れておいたお金がそのまま入っていました。サンティアゴまで二人分の切符が買える金額でした。わたしは教会員でない父に宣教師訓練センターまで一緒に来るよう誘いました。

それから何年もたちましたが、祈りに与えられたこの答えを忘れることはできません。それは天の御父の力と憐れみがどれほど大きなものかを教えてくれるものでした。

グロリア・オラベはニュージャージー州パターソン地方部パターソン第1(スペイン語)支部の会員です。

ダビドゥに先導されて セルジオ・アロヨ

チリ・アントファガスタ伝道部の宣教師として、わたしは同僚とともに、一人の若い女性と8歳になる弟を教えていました。2回目のレッスンに、弟は同い年のダビドゥ・マリンを連れて来ました。ダビドゥは小柄な少年でした。まだ読み書きができませんでした。けれども彼はわたしたちを食い入るように見詰め、熱心に耳を傾けていました。そしてモルモン書を欲しいと言いました。同僚とわたしは一瞬顔を見合わせました。ダビドゥは字が読めなかったので、モルモン書を上げないことを確認し

合ったのです。

同じ日の夕方に、わたしたちは通りでダビドゥに偶然出会いました。彼はこう言いました。「長老たち、いつぼくにモルモン書をくれるの。」彼にとっては何の価値もないと考えていたわたしたちは、2度目の機会をやり過ごしました。相手がまだ8歳の少年だからでした。

若い女性と彼女の弟に3回目のレッスンをしたときも、ダビドゥはまた来ていました。レッスが終わると、ダビドゥは少しいらだった様子で言いました。「それで、モルモン書はどこにあるの。」

わたしは彼を見て、何か特別なものを感じました。ほほえみを浮かべながら、なぜモルモン書を上げなかったかを説明することにしました。「君はまだ読めなんでしょう。ダビドゥ。」すると彼はうつむいてしまいました。けれどもその瞬間、一つの考えが浮かんできました。「そうだ、彼の両親は読める。」そこでこう続けました。「でも、君のお父さん、お母さんは読めるよね。一緒に家へ行って、二人にお話ししよう。」

ダビドゥはにっこりほほえむと、飛び上がって喜び、わたしたちを家に連れて行ってくれました。わたしたちはそこで、父親のドン・アステミオ、母親のマリア、姉とともに11歳のマカリナとバレスカ、そしてダビドゥの1歳上の兄と会いました。

マリン家はずましく暮らしながらも、愛にあふれた家庭でした。父親はかつて運動競技の優秀な選手でしたが、ここ7年ほどパーキンソン病を患っていました。そして、この2年間はベッドに寝たきりの状態でした。

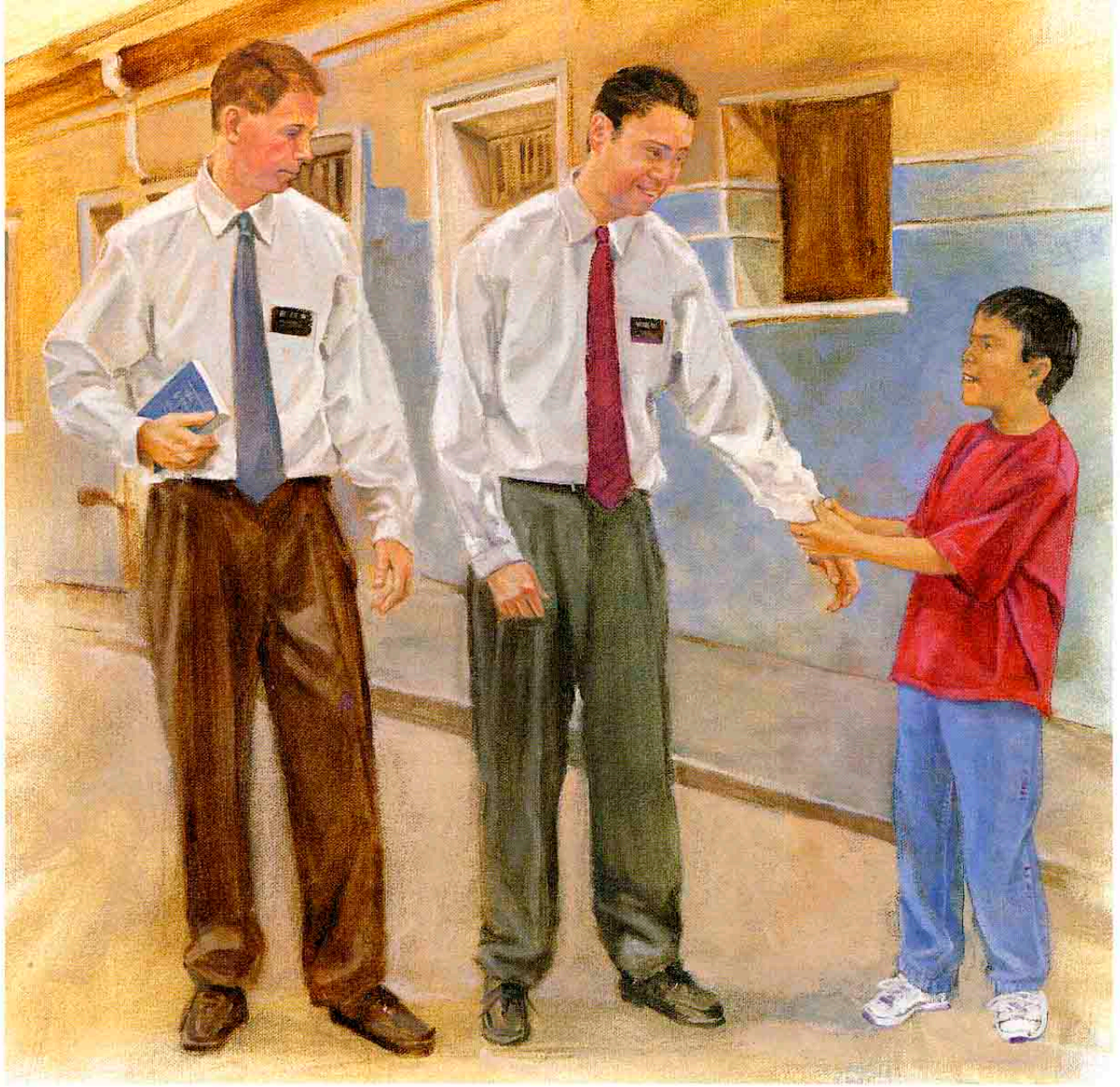
わたしたちがダビドゥと2度目に会ったとき、彼はこう言いました。「長老たち、いつぼくにモルモン書をくれるの。」

レッススがすべて終わると、ダビドゥとマカリナそれにバレスカはバプテスマを受けました。しかし、ドン・アステミオは病気のためバプテスマを受けませんでした。妻のマリアも受けませんでした。

わたしたちはマリン家族の訪問を続けました。ある日、ドン・アステミオは言いました。「明日、バプテスマを受けます。」そして、こう付け加えました。「そうすれば、わたしは癒されるでしょう。」わたしはこれらの言葉を聞いたとき、大きな喜びを感じました。しかし、同時に不安もありました。確かに彼の信仰は増していましたが、バプテスマを受けた後、歩けなかったらどうなるのか。バプテスマによって霊的に癒されますが、肉体的な癒しは天の御父の手にゆだねられていることを説明しようと思いました。同僚と二人がかりで話しましたが、ドン・アステミオはバプテスマを受けたら歩けると言っていて、譲りませんでした。

その日の晩、わたしはひざまずいて、心から天父に祈りました。御心が行われますようにと願いました。祈りを終えたときに、特別な平安を感じました。

翌日、ドン・アステミオは死に物狂いで立ち上がりました。支える人がいないと、一歩も前に歩けません。集会所に到着してからも、長い階段を上って2階へ行かなければなりません。全員に大変な努力と苦痛が強いられました。そして、ドン・アステミオは一段一段階段を上ったのでした。ついに建物に入ったとき、会員たちはわたしたちを見て驚いていました。



ドン・アステミオが水から上がったとき、彼は偉大な信仰を持っていることが分かりました。けれども体は以前のままでした。自分で立つこともままなりません。

バプテスマ会が終わると、家まで送りました。けれども彼はベッドに行こうとせず、ひじかけいすに静かに座っていました。

翌日、わたしたちは彼を訪問しました。近くまで来ると、ダビドゥ少年が外でボール遊びをしているのが見えまし

た。そして、ドン・アステミオが息子と一緒に走ったり、遊んだりしているのです。わたしは自分の目を疑いました。そして、涙があふれてきました。心の中で、偉大な愛を与えてくださった天父に感謝しました。それから2週間後にマリアがバプテスマを受けました。

ドン・アステミオの癒しは特別なものでしたが、わたしは主がこの家族を驚くべき方法で祝福してくださったことを感謝しています。もし自分たちの知恵だけに頼っていたら、同僚とわたしはダ

ビドゥ少年を無視し続けていたことでしょう。けれども主はわたしたちの知らないことを御存じでした。この少年が御手に使われる者となって、家族全員が主の教会に入ること、わたしたちの予知できない方法で助けられることを主は御存じでした。□

セルジオ・アロヨはチリ・サンティアゴ・ヌノアステーク、ロスプレジデンスワードの会員です。

若人への 預言者の 勧告と祈り

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー



教会でかつてこのような集会はなかったのではないのでしょうか。今晚、ここにはほんとうにたくさんの方々が集っていらっしやいます。皆さん、とてもはつらつとして見えます。

皆さんの中には、何らかの疑問を抱きつつここに来られた方もおられるでしょう。

大きな期待を抱いてここに来られた方もおられることでしょう。わたしは皆さんの心に届くような言葉を語る力を与えられるよう、ひざまずいて主に願い求めてきました。そのことを皆さんに知っていたきたいと思います。

このホールにおられる方以外にも、何万人の方々がこの会に参加しておられます。一人一人の方々を歓迎したいと思います。こうして皆さんにお話しする機会を得られ、とても光栄です。またこの機会がとても大切なものであることを理解しています。

わたしはもう90歳を超えています。年齢を重ねてきましたが、いつもこの教会の若い男性や女性を深く愛してきました。ほんとうに皆さんはすばらしい方たちです。皆さんは様々な言語を語ります。皆さんは一つの大きな家族の一員です。それと同時に、それぞれの悩みを持った個人です。皆それぞれ、戸惑いや心配があり、答えを求めています。わたしたちは皆さんを心から愛しています。そしていつも、皆さんを助ける力を祈り求めています。皆さんの生活は、難しい決断や、夢や希望、平和と幸福をもたらすものを見いだしたいという願いで満ちています。

昔々、それもかなり前のことですが、わたしも皆さんと同じ年代でした。しかし、麻薬やポルノグラフィーについて心配することはありませんでした。当時はまだそういうものはなかったからです。わたしが心配したのは学校のことや、その先どうなるのかということでした。ひどい経済恐慌の時代だったのです。どうやって生計を立てたらよいか悩みました。わたしは大学を卒業した後、イギリスへ伝道に出ました。列車でシカゴまで行き、バスに乗り換え、ニューヨークへ行って、そこからイギリスへ渡る蒸気船に乗りました。シカゴでバスに乗っているとき、一人の婦人が運転手に尋ねました。「あの建物は何ですか。」運転手は答えました。「奥さん、あれはシカゴの商工会議所ですよ。毎週、財産を失った人が、窓から飛び降りるんです。生きる目的が何もなくなったんでしょうね。」

そういう時代でした。荒れすさんだ世の中でした。あの時代に生きた人でなくては、とうてい分からないでしょう。あのようなことは、二度と経験したくないと心から思います。

さて、皆さんは大人の生活を始めようとしています。皆さんも学校や結婚について悩んでいるでしょう。ほかにもいろいろな悩みがあるでしょう。わたしは皆さんにお約束します。もし皆さんが主の戒めに従って主の道を歩むならば、神は皆さんをお見捨てになることはありません。

現代は、すばらしい機会に満ちた時代です。この時代に生きているのは実に幸運なことです。人類の歴史上、これほどの機会とチャレンジに満ちた中で生活することはありませんでした。わたしが生まれたときには、アメリカでもそのほかの西洋諸国でも、人の平均寿命は50歳でした。今は75歳を超えています。考えてみてください。1910年に生きていた人よりも少なくとも平均25年は長く生きられるのです。






感謝する人になりましょう。

ソルトレーク・シティの
カンファレンスセンターの外で、
ファイヤサイドの開始を待つ
青少年とヤングシングルアダルト。

また、現代は膨大な量の知識があふれている時代です。例えば、わたしが皆さんの年代のときには、抗生物質はありませんでした。こうしたすばらしい薬は皆、ごく最近に発見され、開発されたものです。地上に蔓延した恐ろしい疫病の幾つかは姿を消しました。天然痘はかつて全人類を襲いましたが、今はまったくなくなりました。これは奇跡です。ポリオはかつてすべての母親に恐れられた病気でした。郡の病院にポリオにかかった男性を見舞いに行っていたことがあります。彼には鉄製の肺が用いられていました。それが膨張と収縮を繰り返すことで、ほんとうの肺を動か

してくれるのです。快復の見込みはありませんでした。自分自身で呼吸することはできません。彼は妻子を残して亡くなりました。この恐ろしい病気は、現在はありません。それも奇跡です。そのほかにもいろいろあります。

もちろん、難しい問題もあります。この地上に生きたどの世代も、困難に直面しました。それらについて話せば、一晩中かかるでしょう。しかし、かつて人々が直面してきた問題の中で、わたしたちが今日抱える問題は、最も容易に対処できるものです。それは何らかの対処方法があるからです。その大部分は、個人の行動に関する決断の問



知性を 備えた人になりましょう。

題であり、そうした決断をしたり、決断したことを実行したりするのは可能なのです。そして、それができれば、問題を克服することができるのです。

皆さんのほとんどは学生だと思います。学ぶ機会があり、そのような望みを持っていることをうれしく思います。勤勉に勉強し、いろいろな学科でAを取ることを目指していると思います。願わくば、教師の方々が皆さんに寛大であり、皆さんが優秀な成績を修め、立派な教養を身に付けられますように。わたしが、学業においてそれ以上に望むことはありません。

今晚、わたしは皆さんに先生からAをもらっていただきたいと思いますが、わたしはBについてお話ししたいと思います。皆さんはAを取ってください。わたしはBを上げましょう。(訳注——「B」と同じ発音の「be」には、英語で「……になる」という意味がある。)

1. 感謝する人になりましょう。
2. 知性を備えた人になりましょう。
3. 清い人になりましょう。
4. 誠実な人になりましょう。
5. 謙遜な人になりましょう。
6. よく祈る人になりましょう。

これらのBをわたしと一緒に繰り返してください。その後、それぞれについてお話しします。いいですか。

1. 感謝する人になりましょう。
2. 知性を備えた人になりましょう。

3. 清い人になりましょう。
4. 誠実な人になりましょう。
5. 謙遜な人になりましょう。
6. よく祈る人になりましょう。

感謝する人になりましょう。英語には、恐らくほかのどの言葉よりも多くの意味が込められた短い言葉があります。それは「ありがとう」(Thank you)です。ほかの言語にも同様の言葉があります。グラーション、メルシ、ダンケ、オブリガード、ありがとう、などです。

「ありがとう」と言う習慣は、教養のある男女のしるしです。主はどのような人に怒りを覚えられるのでしょうか。「すべてのことの中に神の手を認めない者」を主は非難しておられます(教義と聖約59:21)。つまり、感謝の気持ちを持たずに生活する人です。心に感謝の気持ちを抱いて生活してください。皆さんのものであるすばらしい祝福に感謝してください。皆さんが持っている様々なすばらしい機会に感謝してください。皆さんのことをいつも心にかけ、皆さんを養うために一生懸命に働いている両親に感謝してください。また、皆さんが感謝していることを両親に伝えてください。お母さんやお父さんに「ありがとう」と言ってください。皆さんの友達にも「ありがとう」と言ってください。先生にも「ありがとう」と言ってください。どのような形であれ、皆さんを支え助けてくれるすべての人に感謝の意を表してください。



**インターネットを介して、ファイヤサイドの模様に耳を傾ける
フィリピン・ケインタステーク、テイテイ第1ワードの
青少年とヤングシングルアダルト。**

皆さんに対する主の慈しみに感謝してください。愛する御子、イエス・キリストを与えてくださった全能の神に感謝してください。御子は世界中のほかのだれもできなかったことを皆さんのためにしてくださいました。主の偉大な模範と深遠な教え、人々を励まし助けてくださる温かい御手に感謝してください。主の贖いの意味を考えてください。新約聖書やモルモン書の第三ニーファイを開き、主についての記述や主の御言葉を読んでください。一人で静かに読み、深く考えてください。愛する御子を賜ったことに対する感謝の気持ちをもって、天の御父の御前に心を注ぎ出して祈ってください。

歴史上すばらしいこの時期に主の驚くべき教会が回復されたことを主に感謝してください。主の教会から得られるすべてのことに感謝してください。友人や愛する人々、両親や兄弟姉妹、家族が与えられていることを主に感謝してください。昼も夜も感謝の気持ちを胸に抱き、そこから導きと祝福を受けてください。感謝の気持ちを抱けるよう努力してください。そうすることによってすばらしい結果がもたらされることでしょう。

2番目のB——知性を備えた人になりましょう。

皆さんはこの世界がかつて一度も経験したことのないような最も競争に満ちた時代に足を踏み入れようとしています。皆さんの周囲はどこを見ても競争ばかりです。皆さんはできるかぎり高度の教育を受ける必要があります。車を犠牲にしてください。仕事を行う資格を得るために犠牲にすべきものはすべて犠牲にしてください。世間はだいたいにおいて、世間的に見た皆さんの価値に応じて給与を支払います。そして皆さんの価値は、選んだ分野で得た教育と熟練の度合いに応じて上がっていくのです。

皆さんは教育の大切さを教える教会に属しています。皆さんは自らの知性と心、そして技術を磨くという戒めを主

から与えられています。主はこのように語っておられます。「熱心に教えなさい。……天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識についても同様である。それは……あらゆる点で備えられるためである。」(教義と聖約88:78-80)

この言葉がわたしの言葉ではないという点に注目してください。これは皆さんを愛しておられる主の御言葉なのです。主は皆さんが自らの知性と技術を磨き、周囲に良い影響を与えつつ人生を送ることができるようにと望んでおられます。そうするときに、また称賛に値する優秀な働きをするときに、皆さんは社会から高潔で有能で良心的な働きをする人物という評価を受け、教会に名誉をもたらすことができます。知性を備えた有能な人になりましょう。愚かな人にならないでください。皆さんがほかの人々を欺きだますならば、それは自分自身を欺きだますことになります。

何十年も前、わたしはデンバーのある鉄道会社の本社に勤務していました。わたしは手荷物や郵便物などを輸送するいわゆる中継局の部署を担当していました。その当時は、だれもが列車で旅行をしていました。ある朝のこと、ニュージャージーのニューアーク中継局からわたしに電話がかかってきました。こういう内容の電話でした。「列車番号何々の列車が到着しましたが、貨物車がありません。どこかで300人分の荷物が紛失し、乗客が非常に怒っています。」

わたしはすぐに出社し、どの地点で貨物車がなくなったのか突き止めようと思いました。その貨物車はカリフォルニアのオークランドでは確かに荷物を積んで、旅客列車に連結されたことが分かりました。その後、ソルトレーク・シティに移動し、デンバー、そしてプエブロと輸送され、ほかの路線に移され、セントルイスへと運ばれたのでした。そこで、その貨物車の処理はニューアークまで運んでくれる別の鉄道会社が行うはずでした。しかし、ある連結作業員がほんやりしていて、セントルイスの操車場で連結ポイントである小さな鉄片をわずか7.5センチだけですが動かしてしまい、レバーを引いた結果、その貨物車を切り離してしまっただけです。こうして、ニュージャージーのニューアークにあるはずの貨物車が、実は、目的地から2,400キロ以上も離れたルイジアナのニューオーリンズにあるということが判明しました。不注意な作業員によりセントルイスの操車場でポイントがたったの7.5センチずれただけで、貨物車は路線を誤って動き出してしまい、本来の目的地からとてつもなく離れた所に到着してしまっただけです。わたしたちの人生にも同じことが言えます。わたしたちは、



清い 人になりましょう。

着実なコースを歩まずに、何らかの誤った考えにより別の方向に引っ張られることがあります。本来の目的地からほんの少しずれただけであっても、そのごくわずかなずれが正されないままにしていることにより、大きなギャップとなり、いつの間にか計画していた地点から遠く離れていることに気づくのです。

皆さんは農場にある5メートルもあるような巨大な門を見たことがあるでしょうか。この門は開かれるときに、きわめて大きな円を描いて転回します。ちょうつがいのでつなごうの元の部分はほんの少ししか動きませんが、端は大きく弧を描きます。愛する若い友である皆さん、このように、わたしたちの人生に大きな違いを生み出す変化は、実にささいな事柄から生じるのです。

知性を備えた人になりましょう。皆さんの選んだ分野がどのようなものであろうと、主は皆さんが自らの知性と技術を磨くように望んでおられます。冷蔵庫を修理する分野であろうと、熟練した外科医の分野であろうと、自らを訓練しなければなりません。できるかぎり最高レベルの学業を追い求めてください。皆さんを待ち受ける社会にあって高潔な働き人となってください。繰り返します。皆さんはこの教会に名誉をもたらします。そして、積み重ねた訓練のゆえに、多くの祝福を受けることになるでしょう。

教育が元の取れるものであることは、疑いの余地がありません。いかなる分野でもそうです。教育を受けずに人生を台なしにしてはなりません。もし人生を台なしにするならば、何度も何度も繰り返しそのつけを払わなければなら



写真/ウエイン・ソルツギバー

南アフリカ、ヨハネスバーグにおいて、ファイヤサイドの模様
に耳を傾げるために集まった青少年とヤングシングルアダルト

なくなります。

3番目のB——清い人になりましょう。わたしたちは道徳的に腐敗に満ちた世界、悪臭を放つ世界に住んでいます。この道徳的腐敗は至る所でわたしたちを取り巻いています。それらは、テレビの画面、映画、人気を博してい

誠実な人になりましょう。

る書物、インターネットなどの形を取って、わたしたちの周囲に蔓延しています。愛する若い友である皆さん、皆さんにはこのようなものを見る余裕はありません。このような汚らしい毒に身を任す余裕などありません。このようなものから離れてください。避けてください。下品な事柄を描写するビデオを、お金を出して借り、見るようなことがあってはなりません。神の神権を有する若い男性が、神聖な神権と汚れを同居させることがあってはなりません。

不道徳な話を避けてください。主の御名をみだりに唱えないでください。シナイ山で起こった雷の中から、主はその指で石の板に次のように記されました。「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」(出エジプト20:7)

多くの人がそうしがちですが、全能の父なる神の御名や

神の愛する御子の御名をみだりに、軽々しく、不注意に用いることは、男らしさの証明にはなりません。

友人を注意深く選んでください。いずれの方向であれ皆さんを導くのは友人なのです。だれもが友人を必要としています。友人がいらないことを望む人は一人もいません。しかし、皆さんが進む道へと皆さんを導くのは友人だという事実を決して忘れないでください。

もちろん、すべての人々と友好的に接するべきですが、その過程で細心の注意を払って自分のそばにいてほしいと願う人々を選ぶことです。そのような人々は、皆さんが選択に迷ったときに守り手となってくれます。また、同様に皆さんが彼らを救うこともあるでしょう。

清くあってください。破滅につながる娯楽に時間を浪費してはなりません。最近ソルトレーク盆地で、ある巡業バンドによるショーが行われました。そのショーはどこから見ても汚らわしく、みだらで、邪悪なものだったと聞いています。この地域の若人は、そのショーを見るために25ドルから35ドルを支払いましたが、その入場料に対して得たものは何だったでしょう。それは人生の汚れた世界へと人を引きずり込む誘惑の声以外の何ものでもありませんでした。わたしの友人である皆さんがこのようなものに近づかないよう、切に願っています。このようなものは皆さんの助けにはならず、皆さんを傷つけるだけです。

最近わたしは皆さんのお母さんやお父さんたちにお話をしました。特に、わたしは入れ墨についてお話をしました。

人の肉体ほど素晴らしい創造物がこの世にあるでしょうか。全能の父なる神の最高の業として、人の肉体ほど驚異的なものがあるでしょうか。

パウロはコリント人への手紙の中で、次のように語っています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント 3:16-17)

自分の体は神聖なものである、と考えたことがあるでしょうか。皆さんは神の子です。皆さんの肉体は神の創造物なのです。その創造物に、人や動物や文字を刻み込み、傷つけていいはずがありません。

入れ墨をしている人には、自分の行為を後悔する時が必ず訪れます。入れ墨は洗い流すことができません。永久的なものだからです。消すことができたとしても、多額の出費と苦痛に満ちた過程を伴います。入れ墨をすると、恐らく人生の残り全部、その入れ墨とともに生活することになります。入れ墨のために恥ずかしい思いをする時が来るとわたしは信じています。入れ墨を避けてください。わ

たしたちは、皆さんを愛する皆さんの教会指導者として、主がお与えになった肉体に対してこのような不敬な行為をすることがないように心からお願いします。

イヤリングや体のほかの場所に着けるリングについてお話しさせてください。このようなものは男らしさと関係ありません。魅力的でもありません。皆さんたち若い男性は、そのようなものなどない方がずっとかっこうよく見えます。また、そのようなものなどない方が、皆さんもずっと心地よく感じるとわたしは信じています。若い女性に関して言わせていただくと、皆さんは耳のあちこちを上から下までリングで飾り立てる必要はありません。シンプルなイヤリングを1組着けていればそれで十分です。

わたしがこのようなことについてお話しするのは、それが皆さんの体にかかわることだからです。

心も体も清く身なりの整った若い女性は、何と麗しいことでしょう。そのような若い女性は、まさしく永遠の父なる神が誇りとされる神の娘です。身なりの整った若い男性は、何とハンサムに見えることでしょう。そのような若い男性は、神の聖なる神権を保持するに値する神の息子であり、体のどこにも入れ墨やイヤリングを着ける必要はありません。大管長会と十二使徒定員会は、全員が声を一つにして、これらのものを身に着けないよう勧告します。

また、これらのことについて触れる一方で、わたしはもう一度ポルノグラフィという問題について強調したいと思います。ポルノグラフィは今や100億ドル産業となり、一部の人が、えじきとなったおびただしい数の人々を犠牲にして財を成しています。ポルノグラフィを遠ざけてください。それは、刺激的であっても、あなたを破滅させるものだからです。感覚をゆがめます。皆さんの心の中に、自分が満足するためなら何でもするといった欲望を植え付けるのです。また、有害なインターネットのホームページやチャットルームを通して悪い仲間を作らないようにしてください。皆さんを悲しみと苦い経験の深みに陥れるものだからです。

麻薬についても一言申し上げなければなりません。皆さんはわたしが麻薬についてどう感じているかお分かりでしょう。どのような種類の麻薬かはどうでもいいことです。麻薬は、手を染めるなら、皆さんを破滅に追い込みます。皆さんは奴隷になります。一度麻薬にのめり込むと、麻薬を買い取るお金を手に入れるためならどんなことでもするようになります。

あるテレビの番組を見ていたときに、両親が子どもに麻薬を教えたがために麻薬常習者になったケースが全体の20パーセントにも上ることを知り、わたしは愕然としました。わたしはこのような両親の愚かな行為が理解できません。麻薬に、人を縛りつける以外どんな未来があるというので



写真/H・ダニエル・ローザス・L

ピンクレー大管長のファイヤサイドの中継放送を見る
コロンビア、ボゴタの青少年とヤングシングルアダルト。

謙遜な 人になりましょう。

しょうか。麻薬は、中毒となる人々を完全に滅ぼします。
すばらしい人々である若い男性と女性の皆さんに対するわたしの勧告、わたしの心からの願いは、麻薬から徹底的に遠ざかるように、ということです。麻薬を試してみる必要などありません。皆さんの周囲を見渡し、麻薬がこれまでどのような影響を人に与えてきたかよく観察してみてください。末日聖徒の少年少女、若い男性女性は、麻薬を試す必要などまったくありません。人の精神に悪影響を与え、やみつきにしてしまうこのような中毒を遠ざけ、清さを保ってください。

さて、若人の皆さんにとって、最もありふれたものでありながら最も対処の難しい問題があります。それは、皆さんとほかの人々との関係についてのものです。皆さんは人間の本能の中で最も強力なものと日々かかわっています。正しく生きようという意志のみがその本能を凌駕りようがします。
主は、偉大な目的のために、わたしたちを魅力的な者としてくださいました。しかし、よくコントロールされなにかぎり、この魅力は危険をはらんだものとなるのです。正しく扱われれば、すばらしいものとなります。しかし、手に負えなくなると、命取りになります。

早い時期のデートについて教会の指導者が勧告しているのもこの理由によるのです。このルールは皆さんをいじめるために作られているのでは決してありません。皆さんを助けるために作られたのです。ルールに従えばルールによって守られるのです。

早い時期の親密な交際が悲劇に至ることは、よくあります。少年と少女が二人だけで長時間デートをすればするほど、トラブルに巻き込まれやすくなるということは、調査によっても明らかです。

わたしの友である皆さん、望ましいのは、結婚する備えができるまでは様々な人と広範囲にデートすることです。そしてすばらしい時間を過ごしてください。でも、親密な関係になるのは避けてください。相手の体に触れないようにしてください。簡単ではないかもしれませんが、必ずできます。

伝道に出ることを計画している若い男性は、性的な罪によってその機会が奪われてしまうことに注意してください。隠しおおせると思うかもしれませんが。しかし長年の経験から申し上げますが、それは不可能です。効果的な伝道をするには、主の御霊が必要です。真実を隠したままで御霊を感じることはできません。そうした人は、遅かれ早かれ過去の罪を告白せざるを得なくなるでしょう。ガラハド卿はこう言っています。「わたしの力は十人力、わたしの心が清いからだ。」(アルフレッド・テニソン卿, *Sir Galahad*, [1842年]スタンザ1)

わたしの愛する友である若人の皆さん、性に関して皆さんは何が正しいか知っています。皆さんはいつ自分が危険な場所を歩んでいるか、また、いつ、つまりいつたり罪の落とし穴に落ちたりしやすいかを知っています。皆さんがよく注意して、転落しやすい罪の崖^{がけ}縁から遠ざかり、安全な道を歩んでくださるよう、切に願っています。性的な罪という、人を落胆させる害悪^{くわんぷ}、暗闇から遠ざかって、自らを清く保ってください。主の戒めに従うことからもたらされる平安という、日の光の中を歩んでください。

さて、一線を越えて、もうすでに罪を犯した人はどうなるのでしょうか。希望はないのでしょうか。もちろんあります。心から悔い改めれば、その罪は赦^{ゆる}されます。悔い改めのプロセスは祈りから始まります。主は言われました。「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約58:42)できれば、その重荷を両親と分かち合ってください。そしてどのようなときでも、皆さんを助けようと待ち構えている監督に告白してください。

次のB——誠実な人になりましょう。

シェイクスピアは、「なにより肝心なのは、自己に忠実であれということだ、そうすれば夜が昼につづくように間違

いなく他人に対しても忠実にならざるをえまい」と言いました(「ハムレット」『シェイクスピア全集』小田島雄志訳、白水社、第3巻、443)。皆さんは途方もなく多くのものを受け継いでいます。皆さんは高潔な先祖を持つ立派な家系の出身です。ここにいる多くの方々は、この業が真実であるという証^{あかし}を胸に亡くなった大勢の開拓者の子孫です。その開拓者であった先祖が皆さんを天から見ているとすれば、皆さんに次のようなことを懇願するでしょう。「誠実になってください。忠実になってください。『我ら受けし信仰持ち、殉教者の持つ真理を信じ』てください。」今日、皆さんの先祖は、このように言うでしょう。「その望^まき信仰 我らも従わん。」(『賛美歌』163番、42番)

そして、開拓者の子孫ではない皆さん、皆さんは何世代にもわたる会員たちの忠誠心と揺らぐことのない愛によって強められてきた教会に属しています。教会は、高潔な目的を持ち、途方もなく大きな実績を持ち、その業は人を鼓舞するもので、英雄的でさえあります。そのような教会に所属できるとは、何とすばらしいことでしょうか。いかなる状況においても教会に忠実であってください。教会の幹部が皆さんを道に迷わせることは決してないと、わたしはお約束します。教会の幹部は皆さんを幸福の道へと導くでしょう。

この教会の会員である皆さんは、教会に忠誠を尽くさなければなりません。これは皆さんの教会です。皆さんの行動範囲における責任は、わたしが自分の行動範囲で負う責任と同じくらい大きなものです。この教会はわたしのものであると同様に、皆さんのものでもあるのです。皆さんは教会の福音を受け入れました。皆さんはバプテスマの水^{みづ}に入って聖約を交わしました。この聖約を皆さんは聖餐を受ける度に、新たにしてきました。これらの聖約は皆さんが神殿で結婚するときさらに付け加えられるでしょう。これらの聖約を軽んじることはできません。あまりに重要なものだからです。この業こそが、御自身の息子、娘に不死不滅と永遠の命をもたらすよう計画された神の業だからです。

頭を高く上げ、信仰をもって主の御前^{みまへ}を歩んでください。時満ちる最後の神権時代にあつて、主は地上に偉大な目的をもって、王国を回復されました。その王国の会員であることに誇りを持ってください。どうして主は王国を回復されたのでしょうか。それは、皆さんに幸福をもたらすためなのです。

自分の信念に誠実になってください。皆さんは何が正しく、何が間違っているかを知っています。皆さんは自分がいつ正しいことをしているか、知っています。皆さんは自分が正義のために貢献しているか、知っています。忠実であってください。信仰深くあってください。この偉



カンファレンスセンターは、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の勧告を聴く青少年とヤングシングルアダルトで満席となった。

大なる王国の愛する同僚の皆さん、誠実な人になりましょう。

5番目のB——謙遜な人になりましょう。

わたしたちの生活には、傲慢がふさわしい場所はありません。うぬぼれがふさわしい場所はありません。利己主義がふさわしい場所もありません。わたしたちには、なすべき偉大な業があります。達成すべきことがあります。教育を得るときには導きが必要です。永遠の伴侶を選ぶときにも助けを必要としています。

主は次のように言われました。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約112:10)

この言葉には何とすばらしい約束が述べられていることでしょうか。わたしたちにうぬぼれや高慢、尊大さがなく、謙遜で従順であるならば、主は手を引いてわたしたちを導き、祈りにこたえてくださるのです。これ以上望むべきことがあるでしょうか。この約束に勝るものはありません。

救い主は偉大な山上の垂訓の中で次のように宣言されました。「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。」(マタイ5:5)

柔和で謙遜な人々とは、よく教えを聞く人々であるとわたしは思います。このような人々は、進んで学ぼうとします。生活の中で導きを得るため、進んで静かな細い声のささやきを聞こうとします。主の知恵を自分の知恵よりも尊ぶ人々です。

ここから発展したものが、わたしの最後のBである「よく祈る人になりましょう」です。

それは、自分独りではできません。今日集まってくださった皆さんの顔を見て、わたしは皆さんが祈りをささげる人々、ひざまずき、主と話す若人であると確信しました。皆さんは主がすべての知恵の源であられることを知ってい

ます。

皆さんは主の助けを必要としています。そのことを皆さんはよく知っています。皆さんには一人ではできないことがあります。皆さんはそのことに気づくでしょう。また年齢を重ねるにつれ、そのことがもっとよく分かるようになるでしょう。主とお話ができるふさわしさを保てるような生活をしてください。ひざまずいて主がしてくださった良いことに感謝し、皆さんの義にかなった心の望みを主に述べてください。祈りの驚くべき点は、主がそれを聞いてくださるということです。主が祈りにこたえてくださるのです。主が返事を下さるのです。いつもわたしたちが願うような答えではないかもしれませんが、わたしの心には、主がこたえてくださるということにいささかの疑いもありません。

若い男性、若い女性の皆さん、皆さんには非常に大きな責任があります。皆さんは皆さんの前にいた何世代もの人々すべての成果として存在するのです。心身ともに皆さんが持てるすべてのものは、皆さんの両親から受け継いだものです。いつの日か皆さんも親となり、心身ともに皆さんが過去から受け継いだものを次の世代へと譲ることでしよう。皆さんの一族の世代を超えたつながりを終わらせないでください。このつながりを輝かしく、強い状態に保ってください。非常に多くのことが皆さんによって決まるのです。皆さんはとても貴重な存在です。皆さんは教会にとって非常に重要な存在です。皆さんなしでは今の教会はありません。確固として立ち、神の息子、娘として受け継いだものに誇りを持ってください。思慮と導きを求めて主に頼ってください。主の教えと戒めに従って歩んでください。

皆さんは楽しい時間を過ごすことができます。それは当然のことです。わたしたちは皆さんに人生を楽しんでいただきたいと願っています。しかし、独善的になってほしいとは思っていません。皆さんには快活に喜び、歌ったり踊ったり笑ったりして幸せになっていただきたいと思うのです。

しかし、それと同時に謙遜になり、よく祈ってください。そうすれば、神の祝福が皆さんのうえに注がれることでしょう。

わたしが皆さんのために願うとすれば、皆さんの人生が実り多いものとなり、皆さんが献身的に惜しみなく奉仕をし、皆さんの貢献によってこの世が知識と幸福で満たされるようになること、そしてそのような奉仕や貢献を、主の御前にあって謙遜に忠実に行ってほしいこと、それ以上にはありません。主は皆さんを愛しておられます。わたしたちも皆さんを愛しています。わたしたちは皆さんに、幸福になり、成功し、皆さんが生活する世の中に対して、また



よく祈る人になりましょう。

この偉大で厳かな主の業を推し進めるに当たって、重要な貢献をしていただきたいと思っています。

さて、愛する友である皆さん、以上がわたしのBです。感謝し、知性を備え、清く、誠実で、謙遜で、よく祈る人になってください。

最後に、皆さんのために祈りをささげます。

永遠の父なる神よ、主の僕として御前に頭を垂れ、地上の各地におり、今晚至る所でこの会のために集まった若い人々に代わり、お祈りいたします。ほほえみをもってこの若人を御覧ください。彼らが声を上げ、主に祈るとき、その祈りをお聞きください。彼らが進むべき方向へ優しく手を取ってお導きくださるようお願いいたします。

この若人たちが真理と義の道を歩むことができるように助け、この世の悪からお守りください。この人々が時には喜び、時には真剣になり、人生を楽しみ、その楽しみを余すところなく味わうことができますように祝福してくださ

い。主に慈しまれる息子、娘として御前にふさわしく歩むことができますように祝福してください。彼ら一人一人はあなたの子どもであり、偉大で高潔なことを行う能力を持っています。この人々を、達成へと続く高い道にとどまらせてください。破滅に至る可能性のある過ちに至らせないでください。過ちを犯した場合は、罪を赦し、平安と進歩の道に戻ることができるよう、お導きください。以上の祝福を、これらの人々への感謝の念とともに、へりくだり祈り求めます。そして、主の祝福と愛がこれらの人々に注がれますように。わたしたちの罪を背負ってくださる主、イエス・キリストの御名により、お祈りいたします。アーメン。

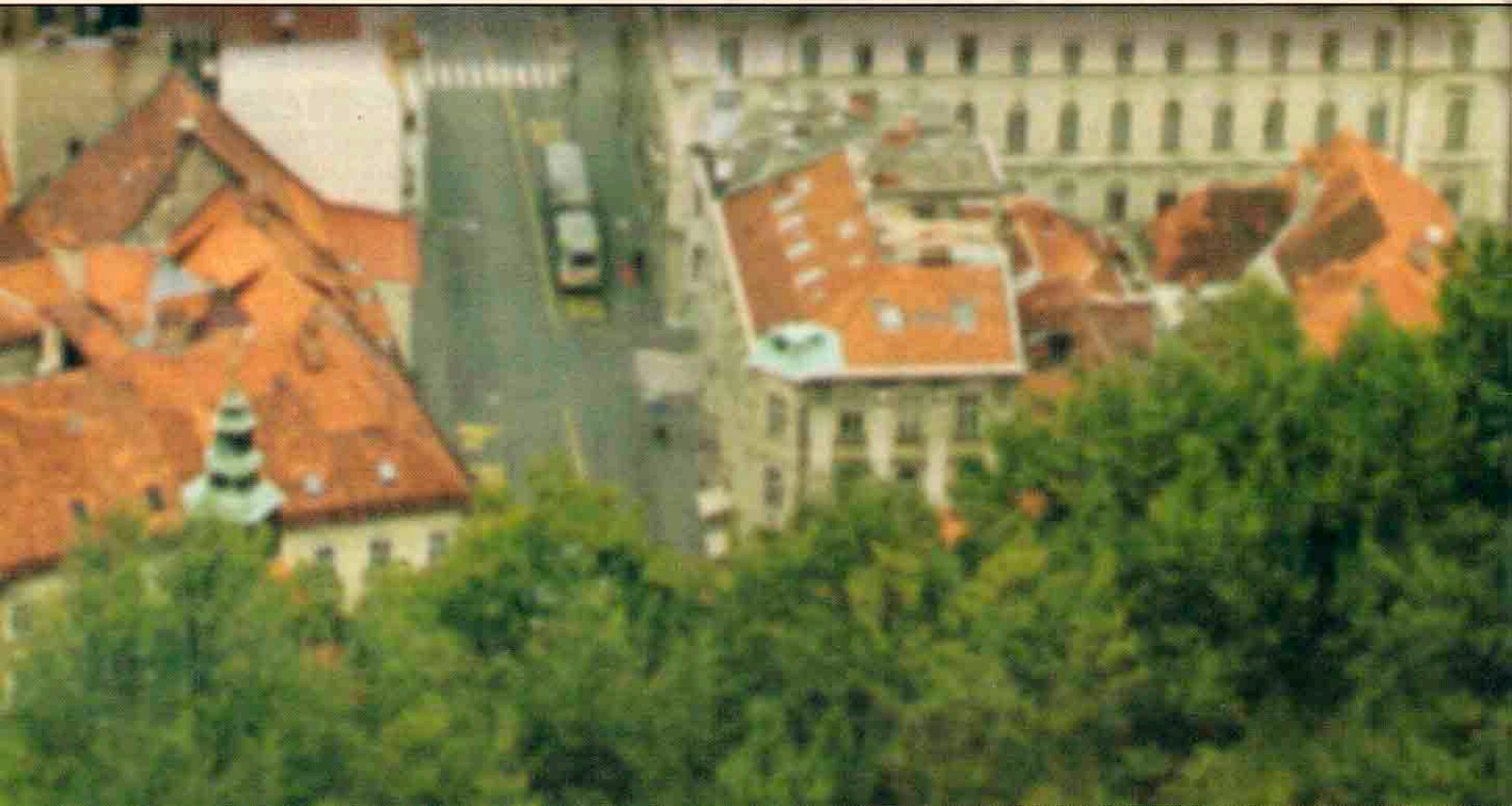
(2000年11月12日、ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターで、青少年とヤングシングルアダルトを対象に行われ、衛星中継された説教)



アルビン・ロトリック

人

の





彼は外国で一人ぼっちでした。そこでわずか3か月の滞在を終え

ると、再び、教会がまだ組織されていない祖国へ戻るようになっていました。

彼と親しくなるために時間を使う価値があるでしょうか。彼に福音を教えるた

めに宣教師の時間を費やす価値があるでしょうか。

価値



マービン・K・ガードナー

アルビン・ロトリックは生まれてからずっとスロベニアで暮らしてきました。ただ一度の例外は3か月間ノルウェーで働いたときだけでした。この3か月が彼の人生を変えました。それはスロベニアに教会が設立されるきっかけとなったのです。

アルビンはヨーロッパのバルカン半島を縦断するユリアナアルプスのふもとにたたずむ小さな村で生まれました。1963年のことです。当時、スロベニアはユーゴスラビア社会主義連邦共和国の一地方でした。両親は工場で働き、小さな家族の畑を耕し、そして子どもたちに熱心に勉強

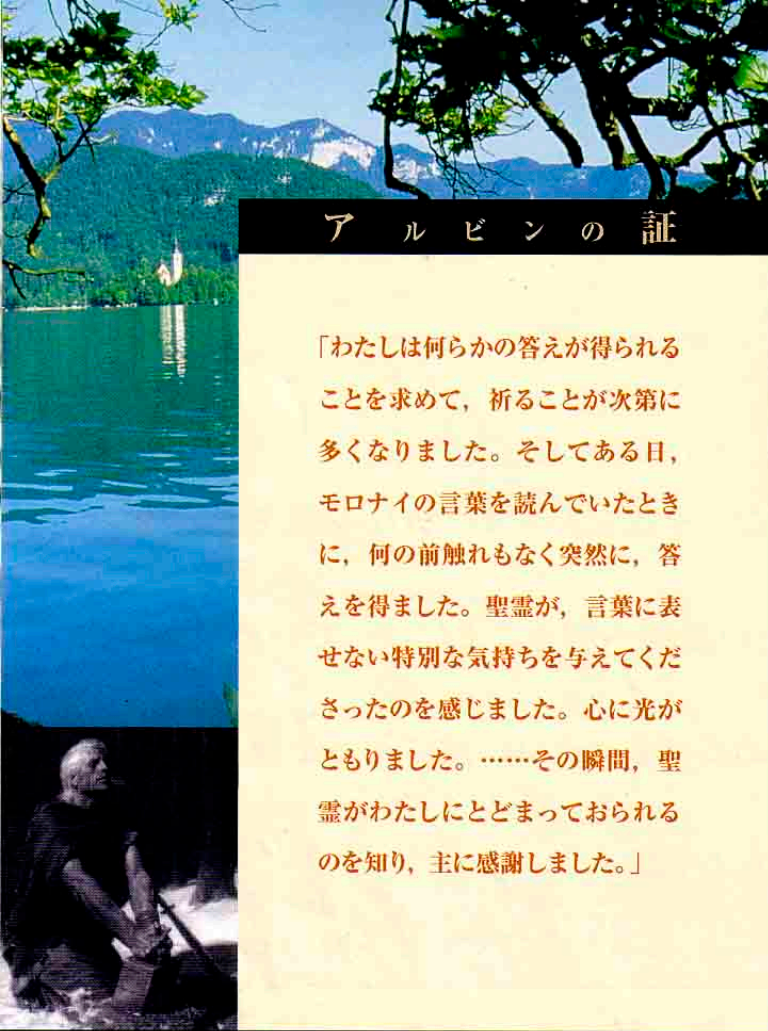
し働くように教えました。アルビンは高校を卒業すると両親が働いていた会社で働き始めました。

その仕事を休職して、15か月間の兵役のためにユーゴスラビア陸軍に入ると、アルビンの言葉によれば「善人と悪人、あらゆる人たちに」出会いました。「そこで学んだのは、あまり深く考えないで、言われたことだけをすればよいということです。人はだれもが利己的で、弱い者を見つけようものならたちまち踏み台にしていくのだと信じるようになりました。わたしは他人を信頼せず、自分だけに頼る人間になっていきました。当時

左ページ——アルビン・ロトリック(枠内)は外国で福音を見いだして、祖国スロベニア(背景)へ持ち帰りました。



左枠内——写真：マービン・K・ガードナー。左背景——写真：イットク・オラセム



アルビンの証

「わたしは何らかの答えが得られることを求めて、祈ることが次第に多くなりました。そしてある日、モロナイの言葉を読んでいたときに、何の前触れもなく突然に、答えを得ました。聖霊が、言葉に表せない特別な気持ちを与えてくださったのを感じました。心に光がとまりました。……その瞬間、聖霊がわたしにとどまっておられるのを知り、主に感謝しました。」



しは、彼の言ったことがまったく分からないこと、本を買うつもりもないこと、特に理解できない言葉の本

など受け取れないことを英語で説明しました。」驚いたことに、アメリカ人だったその宣教師は英語で答え、英語のモルモン書を差し上げたいと言いました。アルビンは礼儀正しい態度で宣教師に自分の住所を教えました。だからといって何かを期待したわけでもありませんでした。

数日後、宣教師が彼の住まいを訪れて、英語のモルモン書をプレゼントしました。後に、クロアチア語のモルモン書も持って来てくれました。アルビンはクロアチア語も理解できたからでした(スロベニア語のモルモン書はまだ出版されていませんでした)。アルビンは宣教師と話しているうちに、自分の宗教について考えるようになりました。

「わたしはずっと神を信じていました。そしてほとんど毎日のように祈っていましたが、わたしの教えられた祈りはカトリックの様式で、何を考えることもなく祈りの言葉を繰り返しているだけでした。自分の教会が正しいとは信じていませんでしたが、ほかの教会を探す気持ちもありませんでした。」

モルモン書の中には興味を覚える箇所もありましたが、「モルモン書を読んでいる間も霊的な証^{あかし}を得られませんでした」とアルビンは語っています。そして、知っている人がだれもない、言葉も分からないノルウェーのスタバンガー支部に出席したときも、最初は不安でした。

けれども教会で目にしたこと、感じたことは心地よいものでした。それに会員たちは温かく歓迎してくれました。「みんなほんとうに親切でした。わたしに大いに関心を示して、わたしがどこから来たのか、町で何をしているのかと聞きました。次の週もまた来るように言ってくれました。そして、出席すると、家族の一員としてわたしを迎えてくれたのです。」

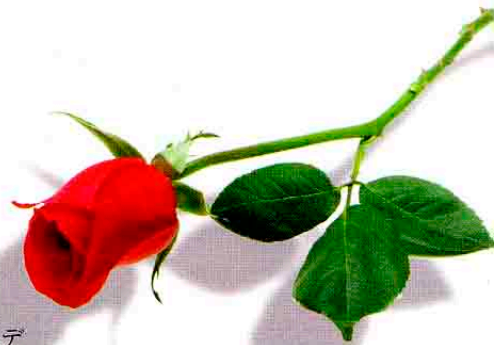
このようにしてアルビンは、モルモン書を研究し、祈る気持ちが高まってきました。「わたしは何らかの答えが得られることを求めて、祈ることが次第に多くなりました。そしてある日、モロナイの言葉を読んでいたときに、何の前触れもなく突然に、答えを得ました。聖霊が、言葉に表せない特別な気持ちを与えてくださったのを感じました。」

は感情というものを失っていました。」

兵役が終わると、アルビンは復職しましたが、心の落ち着かない、満たされないのを感じていました。いたたまれなくなった彼は仕事を辞めて、大学でコンピューターと情報工学を勉強し始めました。それでも人生に喜びを見いだすことはありませんでした。「週末になると、わたしは友達と一緒に、楽しみを追い求めました。あちらこちらとさまよい歩き、アルコールを飲み、出会った女性と面白半分に遊んでいました」とアルビンは語っています。「心が空虚でしたから、幸せではありませんでした。何もかもが偽物にしか見えませんでした。」

そして1987年に、少し前に知り合ったばかりの女性、ボサ・ガートナーに出会いました。二人はデートを始めました。1989年6月に、アルビンはノルウェーのスタバンガーのある会社から3か月間、国際学生訓練生として受け入れてもらうことになりました。こうして、ノルウェーに渡って訓練を受け始めました。宣教師と出会ったのは数週間後のことでした。

「本を小わきに抱えた青年が路上でわたしを呼び止めました」とアルビンは語っています。「その青年はノルウェー語で語りかけ、持っていた本もノルウェー語でした。わた



心に光がとりました。同時に、自分が犯してきたすべての罪に気づきました。そして泣きだしました。それまで、本を読んで泣いたことなどのないわたしが。その瞬間、聖霊がわたしにとどまっておられるのを知り、主に感謝しました。」

アルビンは1989年8月19日、26歳の誕生日にバプテスマを受けました。「6月にノルウェーに来た当時のわたしとは別人になりました。心が清められ、罪が赦されて、以前とはまったく違う生活を始めました。わたしは喜びと平安と守られていることを感じていました。」同時に、聖霊によって後押しされているのも感じていました。故郷で彼を待っている霊的な責任を予感していました。

スロベニアには教会がまだ設立されておらず、また彼の知るかぎり、スロベニアに会員は一人もいません。ノルウェーで残されている数週間のうちにできる限りのことを学ばなければならぬことを実感しました。引き続き教会の集会、家庭の夕べ、そのほかの活動に出席しました。アロン神権を受け、宣教師や会員、教会の指導者たちと話し合う機会を数多く設け、また英文の教義と聖約を読みました。

「故郷に帰れば一人きりになることが心配で、ガールフレンドや両親、そのほかの人々に自分の信仰を説明する強さを求めて神に祈りました。それが難しいことだとは知っていましたが、わたしがふさわしく生活するかぎり神は助けてくださることも分かっていました。」

当時のユーゴスラビア社会主義連邦共和国から最も近い支部はクロアチアのザグレブにありました。スロベニアのアルビンの家から3時間の道のりでした。後に彼は1時間と少しで行ける支部がオーストリアのクラークゲンフルトにあることを知りました。彼の話せるドイツ語は限られていましたが、それから1年以上、毎週オーストリアの支部に出席しました。「支部長と会員たちは皆ほんとうに優しく

く親切にしてくれました。」

アルビンはメルキゼデ

ク神権を受けて、クラークゲンフルト支部で初めての教会の召しを受けました。ガールフレンドのボサは彼についてしばしば教会へ集いました。そして姉妹宣教師から福音を学びました。

「自分の証^{あかし}を得るのに約6か月かかりました」とボサは言います。「モルモン書はまだスロベニア語に翻訳されておらず、クロアチア語で読むこともできませんでした。1990年のある日曜日、わたしは答えを求めて祈るために近くの森へ行きました。ちょうどジョセフ・スミスがしたように。祈りの半ばで答えを得ました。経験したことのない温かさを胸の辺りに感じました。最初、太陽の光がさしてきたためかと思いましたが、太陽はすでに沈んでいました。けれども温かい感じはまだありました。心が安らぐのを感じました。そしてその瞬間から、神がわたしに福音を受け入れるよう望んでおられることを知りました。」ボサは1990年3月にクラークゲンフルト支部でアルビンの手によってバプテスマを受けました。

その年の12月に、初めての専任宣教師が二人、スロベニアに派遣され、その後間もなくこの地で最初のバプテスマが執行されました。1991年の夏、スロベニアはユーゴスラビアからの独立を宣言しました。緊迫した10日戦争の後に、事態は平和的に解決しました。数か月後の1991年12月22日、スロベニア初の支部が組織され、支部長に召されたのはアルビン・ロトリックでした。

翌年、1992年7月、アルビンとボサはスロベニアで結婚して、ドイツ・フランクフルト神殿で結び固めを受けました。スロベニアで生者として結び固めを受けた最初の男女でした。「彼女ほどうすばらしくて理解のある女性を知りません」とアルビンは言います。「彼女



ボサの証



「1990年のある日曜日、わたしは答えを求めて祈るために近くの森へ行きました。ちょうどジョセフ・スミスがしたように。祈りの半ばで答えを得ました。経験したことのない温かさを胸の辺りに感じました。……心が安らぐのを感じました。そしてその瞬間から、神がわたしに福音を受け入れるよう望んでおられることを知りました。」

は愛と励ましによってわたしを力づけてくれます。二人で一緒に神殿に入り、救いの計画を学び、永遠のきずなをむすぶことは特別にすばらしいことです。人生のあらゆる面

語を使って、福音を学んでいます。アルビンとボサは子どもたちの簡潔な祈りがこたえられることを教えています。

「主はわたしたちを豊かに祝福しておられます」とアルビンは語っています。「わたしは忠実な教会員であることによって、また良い夫、父親になることによってこの祝福のお返しをしようと努力しています。」

スロベニアにおける教会は誕生して間のない幼子^{おさなご}の域を脱していませんが、ロトリック地方部長と姉妹、そして開拓者である聖徒たちは教会が発展するように力を尽くしています。ロトリック姉妹は補助組織で働く傍ら、スロベニアの教会歴史を執筆しています。そしてロトリック兄弟は7年間にわたって支部長を務めた後、1998年4月に現在の召しであるスロベニア最初の地方部長に召されました。彼は長い間国内のテレビやラジオ、新聞や雑誌、そして法律面で教会を代表してきました。

ロトリック地方部長は仕事の面でも成功を収めています。経営学とコンピューターサイエンスの学位を持つ彼は

現在、スロベニア政府の財務省情報工学部門で働いています。彼は職場の同僚と親しい関係を築いています。彼の生活ぶりや信仰に対してほとんどの同僚が敬意を払っていることが感じられます。「教会の教えに従って生活していくために教会員は多くのことを求められます。けれども、わたしは自分の経験から、それによって受ける祝福はこの世の何ものにも勝る大きな喜びをもたらすことを知っています。」

彼にとって最も感動を覚

スロベニアにおける教会の略史



1991年

スロベニアにおける最初の支部が組織される。アルビン・ロトリックが支部長に召される。

1992年

アルビン・ロトリックとボサは、神殿で結び固めを受けた最初のスロベニア人夫婦となる(左上—デニス・B・ノイエンシュバンダー長老とリアン・C・ノイエンシュバンダー姉妹とともに)。



1993年

マテヤス・フハルトが最初の専任宣教師としてスロベニアから召される。



1998年

自転車レース界を去って専任の伝道に出ることを決意したレオン・バーガント(左中央)はメディアの注目を浴びる(「今日も自転車に乗って」[リアホナ]1999年4月号、27—28参照)。

1999年

オーストリア・ビエナ南伝道部から分割され、スロベニア・リュブリャナ伝道部(左下—伝道本部)が創設される。

2001年

スロベニア語の「リアホナ」が発刊される。

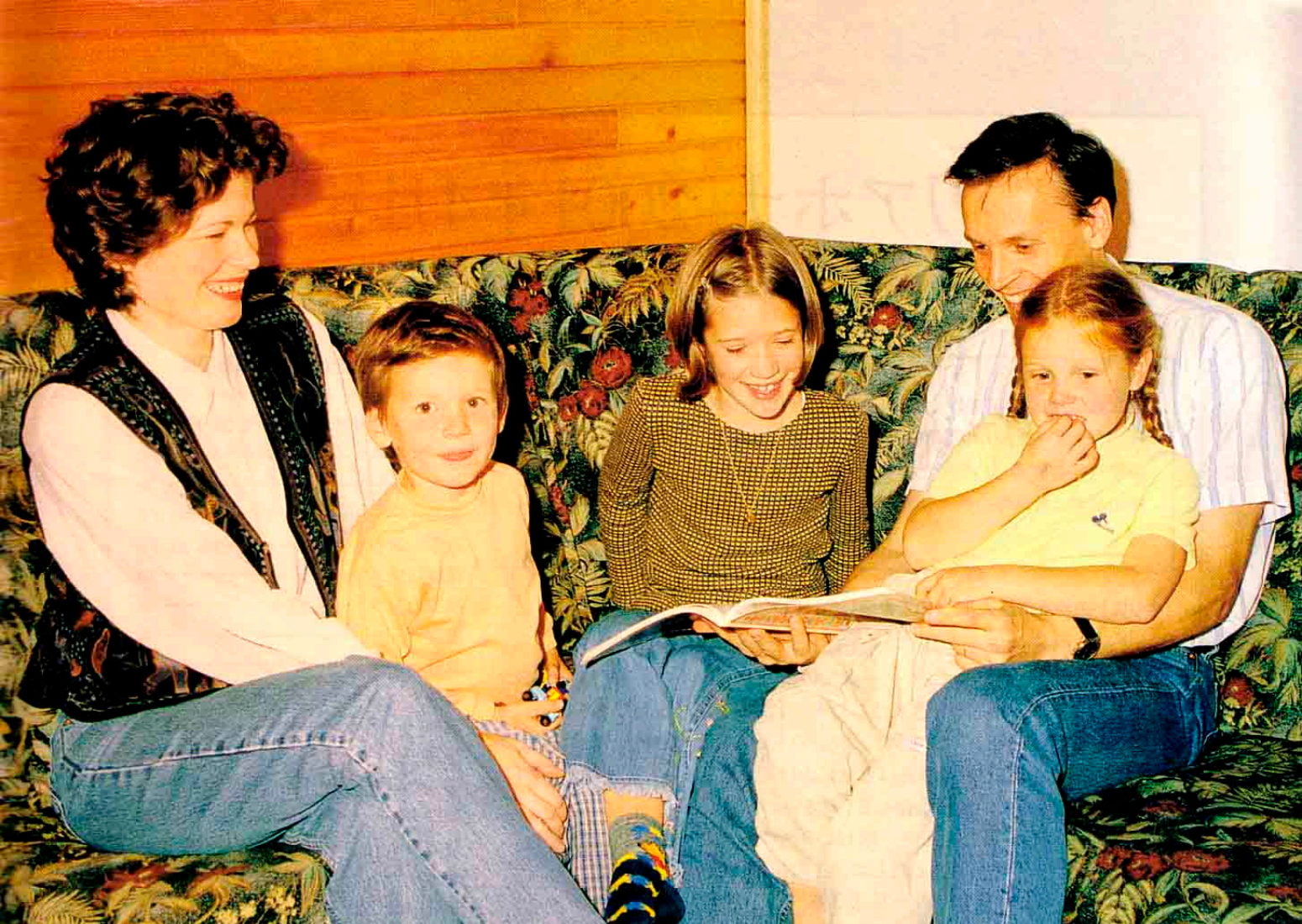
について正しい見識を得ることができます。」

彼らの3人の子どもたちは聖約の子です。1993年4月に生まれたリー・マルティナ、1995年1月に生まれたフローラ・エマ、そして1996年11月に生まれたベニヤミン・ルカです。「わたしは妻とともに、子どもたちの心に福音を中心とする生活の種を植え付けるために努力しています。遭遇するチャレンジに立ち向かう強さを身に付け、信仰を守ってほしいからです。」子どもたちは、家庭の夕べや聖文学習の場で、スロベニア語に翻訳された絵本のモルモン書物

スロベニアにおける教会は現在約200人の会員が一つの地方部とリュブリャナ、ツェリエ、マーリポアの支部に集っている。

ロトリック地方部長はスロベニアにおける教会の未来について「わたしはこの国で聖徒たちがばらのように花咲く日が来ることを胸に描いています」と語る。





ロトリック家の子どもたち、ベニヤミン、リー、フローラはイエス・キリストの真の福音の中ではぐくまれている。ボサとアルビンは信仰を分かち合い、子どもたちの将来を守るために努力している。

える責任の一つは、間もなく完成するモルモン書のスロベニア語版の翻訳チームで働くことです。「モルモン書がそのすべての神性と力を携えて出て来るとき、天の門は大きく開け放たれることでしょう。イエス・キリストのほかにも人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていないこと、神の御言葉が再び人の子らに明らかにされていることを、御霊はスロベニアの人々にいっそう力強く証してください。」

アルビンのパプテスマから10年近くを経た1999年7月に、かつてのユーゴスラビアに属していた各国を管轄するスロベニア・リュブリャーナ伝道部が創設されました。200万人の人口を擁するスロベニアだけで、現在約200人の会員が1つの地方部内にあるリュブリャーナ、ツェリエ、マーリボアの3つの支部に集っています。地元の指導者と会員たちは新しい改宗者をフェローシップすることを学んでいます。何組もの夫婦が神殿で結び固めを受けています。

スロベニアの青年男女は世界各地で専任宣教師として働いています。そして今やスロベニアの会員たちは『リアホナ』を自国語で読むことができます。

ロトリック地方部長はこのように語っています。「今はまだ始まりにすぎません。わたしはこの国で聖徒たちがぼらのように花咲く日の来ることを胸に描いています。」

見知らぬ国へやって来ただけでも分からない人と親しくなり、そこに3か月滞在するだけで、再び、教会がまだ組織されていない祖国へと帰ることになっていることを知りながら、そのような人に福音を教える時間を費やす価値があるのでしょうか。

「主の方法は時として、予告できない、人の想像を超えるものです。主はわたしに福音をもたらすために不思議な方法を用いられました」とアルビン・ロトリックは語っています。□

『リアホナ』2001年4月号 の活用法

せいさん
聖餐会の話、クラスのレッスン、家庭の夕べのレッスン、あるいはセミナーのディポーショナルで用いる物語や引用文をお探しですか。『リアホナ』の今月号の記事から助けとなるアイデアが見つかるかもしれません。(右側の数字は今月号のページ数です。「F」は「フレンド」の略です。)

「キリストの特別な証人」についての話し合いのアイデア

■「キリストの特別な証人——地上にお生まれになる前の務め」ニール・A・マックスウェル長老、5ページ——御父の指示の下、イエス・キリストは数え切れないほどの世界を創造されましたが、1羽のすずめが地に落ちるのにも気づかれます(マタイ10:29参照)。宇宙の主があなたの名前を御存じで、あなたのために命をささげられるほど気にかけておられることを理解するのは、どのような意味を持つか話し合ってください。

■「キリストの特別な証人——地上での務め」L・トム・ペリー長老、10ページ——わたしたちは、主の模範ならに倣うことにより、主を尊びます。ペリー長老が述べた、日本のキリスト教の教会を再建したことにまつわる話を読んでください。あなたがキリストの模範に倣って人々に奉仕できる方法として、具体的に何があるか話し合ってください。

■「キリストの特別な証人——地上における生涯を終えられた後の務め」ゴードン・B・ヒンクレー大管長、19ページ——ヒンクレー大管長あかしは、聖なる森から、預言者としての証を述べています。最初の示現の物語を話してください。この最初の示現が、あなたの生活にどのような変化をもたらしたかについて証してください。



今月号に採り上げられている項目

証2
イエス・キリスト2, 25, F2, F10
イースターF2
祈り26, 30
癒し26, F6
改宗・改心26, 42, F6
家庭訪問メッセージ25
家庭の夕べ48
感謝30
教育30
逆境26
清さ30
謙遜30
最初の示現F4
使徒2, F10
什分の一26
真理30
初等協会F4, F14
信仰25
新約聖書物語F10
スロベニア42
世界に広がる教会42, F6
青少年30
総大会F4
ホームティーチング1
マダガスカルF6
預言者F4

青少年向けの記事を募集しています

青少年の読者が福音に従って生活し、福音を伝えた経験談、また、試練に打ち勝つうえで主からどのような助けを得たか、そして主が祈りにどのようにこたえてくださったか、などについての経験談を募集しています。Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA またはEメールで CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org までお送りください。必ず氏名、年齢、住所、電話番号、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記してください。



【人間をとる漁師】サイモン・デューイ画

「さて、イエスがガリラヤの海へを歩いておられると、おたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデシ……を召さんになった。……イエスは彼らに言ひつた、『わたしについてきなさい』、あなたがわたしを、人間をとる漁師にしてあげよう。」すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。」(マタイ4：18-20)



「主 から権能を授けられた主の使徒として一つとなって、わたしたちは、
主が生きておられ、御自分の王国を要求して王の王、主の主として
統治するために再びおいでになることを証します。これは確かです。」

(「キリストの特別な証人」2ページ参照)